学校法人　関西大学

ODLE システム運用編

教員・TA 向け取扱説明書

平成 23 年 9 月 11 日　1.0 版

改訂履歴

版数	章番号	区分	改訂内容	改定日
1.0			初版	2011/09/11

目次

1. ODECS システムと ODLE システムとの違い 1

2. 新機能について 3

2.1. コンピュータの起動・終了 3

2.2. 授業支援システムの変更 3

2.3. プリント管理 3

2.4. 外部からの個人ファイル利用 4

2.5. リモートデスクトップ 4

2.6. パスワード変更 4

3. コンピュータの起動・終了手順 5

3.1. パソコンの各部名称 6

3.2. パソコンの電源確認方法 7

3.3. パソコンの電源の入れ方 8

3.4. Windows の利用 10

3.5. Linux の利用 16

3.6. ドライブの割り当て 23

4. 授業支援システムの利用手順 29

4.1. 授業支援ソフト起動方法 30

4.2. 教員 PC の画面を学生 PC に転送 32

4.3. アプリケーションの一斉起動と一斉終了 37

4.4. お気に入りの転送登録 39

4.5. 教員用パソコンの画面を参考に、学生が操作を習得する方法 40

4.6. 監視機能 42

4.7. 学生 PC の画面、キーボード/マウスのロック 48

4.8. 電源 ON／ログオン／再起動／ログオフ／電源 OFF 49

4.9. 映像配信手順 55

5. プリント管理手順.....64
5.1. 現時点のプリント枚数・制限枚数の表示、上限値の変更..... 66
5.2. プリンタからの印刷データ取り消し....エラー! ブックマークが定義されていません。
6. SSLVPN 接続手順.....72
6.1. OD 教室トップページへアクセス..... 73
6.2. SSLVPN 接続..... 74
6.3. ファイルサーバの利用..... 78
6.4. SSLVPN 接続の終了..... 83
7. リモートデスクトップ利用手順.....85
7.1. リモートデスクトップ接続..... 86
7.2. 教室選択..... 88
7.3. 利用パソコン選択..... 89
7.4. リモートディスクトップの開始と終了（Windows 編）..... 90
7.5. リモートデスクトップの開始と終了（Mac 編）..... 94
7.6. リモートデスクトップ接続の開始と終了（Linux 編）..... 99
8. パスワード変更手順.....103
8.1. 学生・教員のパスワード変更..... 104
8.2. 学生のパスワード初期化..... 109
8.3. オープンキャンパスなどで利用する登録されていないユーザのアカウント発行.... 119

教員・TA 向け取扱説明書

1. ODECS システムと ODLE システムとの違い

ODECS システムと ODLE システムとの相違点の一覧を記述します。

項目	旧システム （ODECS システム）	新システム （ODLE システム）	備考
OS（Windows）	WindowsVista Business 32bit	Windows7 Professional 64bit	
OS(Linux)	Fedora Core 8	Ubuntu11.04	
OS の切替	VMware	VMware	
DVD ドライブ	あり	あり	
USB 端子の位置	PC 筐体前面、PC 筐体背面	PC 筐体前面、PC 筐体背面	新システムでは、前面 4 箇所、背面 4 箇所に計 8 つの空きポートが有ります
ファイルサーバの個人領域容量	200MB（学生） 400MB（教員）	1GB（学生） 2GB（教員）	新システムでは、学生の個人領域の容量を最大 1GB、教員では最大 2GB の容量を確保しています。
M ドライブ、N ドライブの自動消去	有り	有り	教材を保存しておく M ドライブと学生が提出する課題等を保存しておく N ドライブは毎週日曜日に自動的にファイルを消去します

項目	旧システム （ODECS システム）	新システム （ODLE システム）	備考
印刷枚数の上限管理	有り	有り	新システムでは、学生の印刷枚数の上限管理を行っています。現状の設定は 1 ヶ月にモノクロ 180 枚、カラー20 枚の計 200 枚となっています。なお、教員は無制限となっています。
VPN 接続	100 同時ユーザ接続	100 同時ユーザ接続	新システムでは、100 同時ユーザ接続を有し、OD 教室外からファイルサーバの個人領域へのアクセス、リモートデスクトップ機能を提供します。
表示操作用 PC の電源	なし	なし	新システムでは、表示操作用 PC については常時電源 ON で運用します。 ※中間モニターへの配信を常時行えるようにします。

2. 新機能について

ODLE システムで新たに追加･変更された機能について説明します。
新機能・変更部分は以下の通りです。

2.1. コンピュータの起動・終了

ODLE システムでは、学生用パソコンの WindowsOS が Windows7 Professional になります。
Linux OS は、Ubuntu11.04 になります。
教員用パソコンおよび学生用パソコンは、Windows マシンとして構成されています。
Linux を利用する際には、VMware WorkStation を利用したエミュレート環境上で Ubuntu11.04 を起動します。
詳細な利用方法は「**3. コンピュータの起動･終了手順**」に記述しています。

2.2. 授業支援システムの変更

ODLE システムでは授業支援システムとして、「SKYMENU Pro Ver.13」及びモニター切替機による中間モニターへの配信を行うことになります。
「教員 PC 画面の配信」については、切替機により中間モニターへ配信します。
「学生 PC の監視」については、「SKYMENU Pro Ver.13」を用いて行います。
「SKYMENU Pro Ver.13」はサーバ、教員用 PC、表示操作用 PC、学生用 PC の構成で稼動します。
「2 教室合同での授業」での中間モニターへの配信は切替機で行います。
授業支援ソフトの利用者は、教員・TA になります。
詳細な利用方法は「**4. 授業支援システム利用手順**」に記述しています。

2.3. プリント管理

ODLE システムでは、各 OD 教室利用者のプリント管理を行っています。
プリンタ管理を利用することで、プリンタ利用者に対して 1 ヵ月間にプリントできる枚数を制限・把握することができます。
プリント管理は、富士ゼロックスの Apeos Ware Management Suite サーバによって実現しています。
プリンタ管理を実際に行うことができるのは、教員・TA になります。
詳細な利用方法は「**5. プリント管理手順**」に記述しています。

2.4. 外部からの個人ファイル利用

ODECS システムでは SSLVPN（暗号化通信）装置を利用することで、自宅や研究室などの OD 教室以外から ODECS システムの個人ファイル利用を行ってきました。
ODLE システムでも同じ機能を提供しています。
SSLVPN 接続は、ODLE システムを利用するすべての方が利用可能です。
ODLE システムでは、暗号化された通信状態で以下のサービスを提供しています。

・ODLE システムの個人ファイルへのアクセス（読み・書き・実行）
・リモートデスクトップ（後述）

SSLVPN 接続に関する詳細な利用方法は、「**6. SSLVPN 接続手順**」に記述しています。

2.5. リモートデスクトップ

リモートデスクトップとは、Windows7 に搭載されているネットワーク経由でパソコン利用を行うための機能です。
この機能を利用すると、WEB ブラウザ上に遠隔地のパソコンの画面を表示させその場にそのパソコンがあるかのように操作を行うことが可能になります。
ODLE システムのパソコン又は、リモートアクセス専用機にリモートデスクトップを行うことで、本来 OD 教室でなければ利用できないアプリケーションやファイルを利用することが可能になります。
リモートデスクトップは、ODLE システムを利用するすべての方が利用可能です。
リモートデスクトップに関する詳細な利用方法は、「**7. リモートデスクトップ手順**」に記述しています。

2.6. パスワード変更

ODLE システムで、教員・学生のパスワード変更を行う場合、WEB ページからの作業となります。
学生は本人のパスワード変更のみ行えます。
教員・TA は、本人および学生のパスワード初期化が可能です。
詳細な利用方法は「**8. パスワード変更手順**」に記述しています。

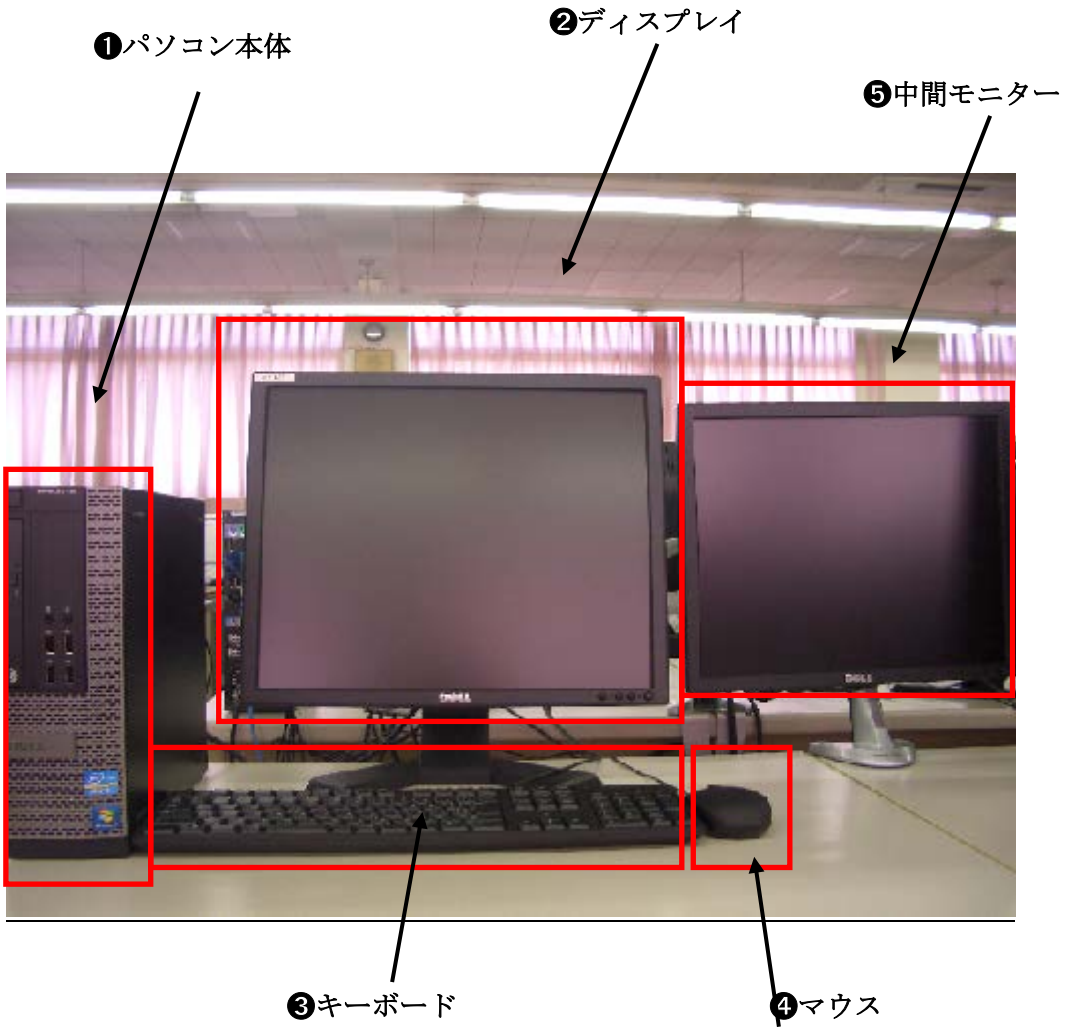
3. コンピュータの起動・終了手順

ODLE システムで扱うパソコンについての基本的な説明および簡単な操作方法について記述します。

本章では、以下の項目について説明します。

3.1 パソコンの各部名称
3.2 パソコンの電源確認方法
3.3 パソコンの電源の入れ方
3.4 Windows の利用
3.5 Linux の利用
3.6 ドライブの割り当て

3.1. パソコンの各部名称

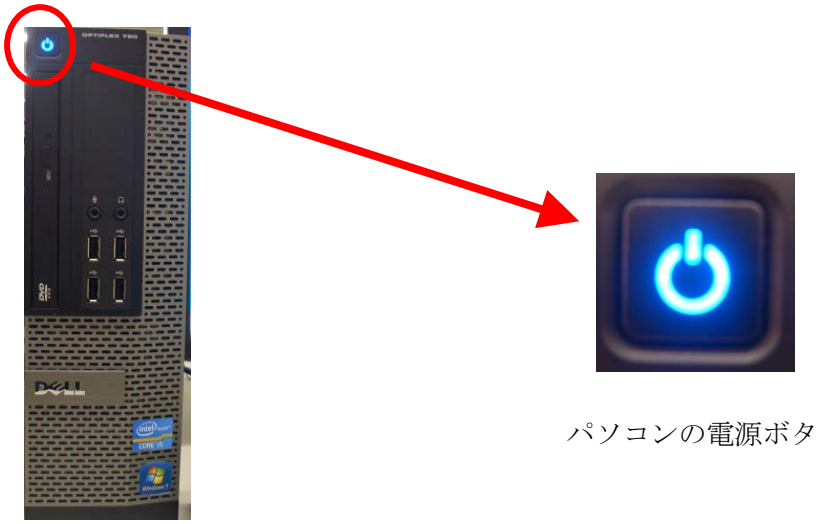


デル社製 OptiPlex 790 スモールフォームファクター

CPU：Intel Core i5-2400 3.10GHz
メモリ：8GB
HDD：250GB SATA
光学ドライブ：DVD-ROM
モニタ：19 インチ 液晶ディスプレイ
ネットワーク：Gigabit Ethrnet

3.2.　パソコンの電源確認方法

パソコンの電源状態の見分け方について説明します。



パソコンの電源ボタン

状態	説明	図
ON	パソコン本体上段にあります、電源ボタンが青色に点灯していれば電源が入っています。	
スタンバイ	その電源が青色に点滅していればスタンバイ中であり、誰かがログオン※1している可能性があります。 スタンバイとは節電状態のことです。 スタンバイ状態からの復帰方法は、電源ボタンを押すことで復帰できます。	
OFF	消えていれば電源が入っていません。	

※1 コンピュータシステムの資源にアクセス可能な状態になること

3.3. パソコンの電源の入れ方

3.3.1. 電源の投入

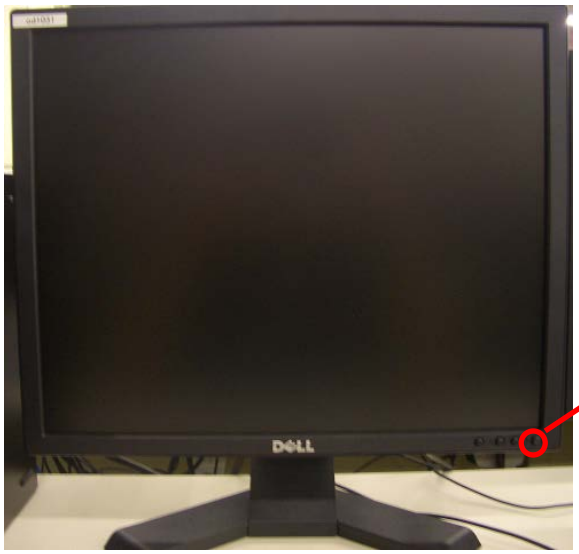
PC 前面の上段にあります電源ボタンを押します。

「カチッ」と音がするか、少し手ごたえがありましたらボタンを離します。

離した後は電源ボタンが青色に光ります。

3.3.2. ディスプレイの確認

次にディスプレイの電源が入っているかを確認します。



ディスプレイの電源ボタン

3.3.3. ディスプレイの電源　見分け方

状態	説明	図
ON	パソコン本体の電源が入っていて、ディスプレイの電源が入っていれば、緑色に光ります。	
待機状態	パソコン本体の電源が入っていなくて、ディスプレイの電源が入っている状態のときは、オレンジ色に光ります。	
OFF	ディスプレイの電源が入っていないときは光りません。	

※注意※

ODLE システムでは、電源連動タップによってパソコンとディスプレイの電源を連動させています。したがって、ディスプレイの電源スイッチを操作する必要はありません。

3.4. Windows の利用

3.4.1. Windows の起動

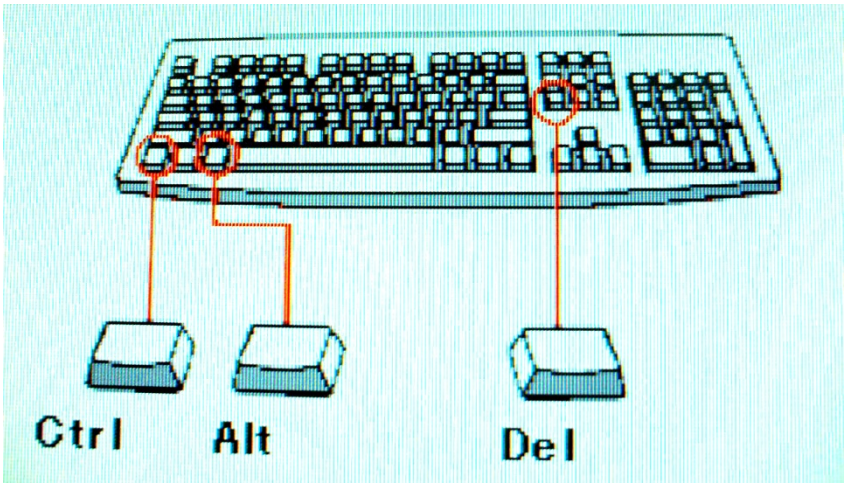
電源が入ると、Windows が起動します。

新システムでは起動高速化のために Windows ロゴを表示させない設定にしているため、画面上は何も表示されません。

3.4.2. Windows の起動完了

起動が終了すると以下の画面が表示されます。

下図を参考に「Ctrl」キーと「Alt」キーと「Del」キーを同時に押してください。



Windows のログオン画面の表示

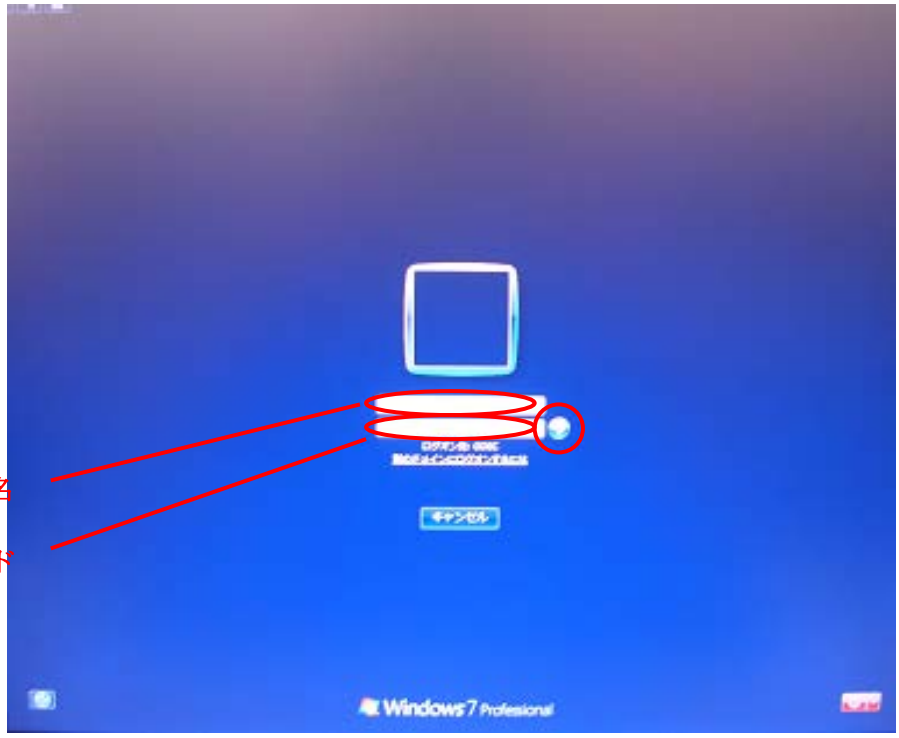
この画面を Windows のログオン画面といいます。

① Windows を利用するために、以下に従ってログオンを行います。

(1) 利用者のユーザ名（ユーザ ID）を入力します。

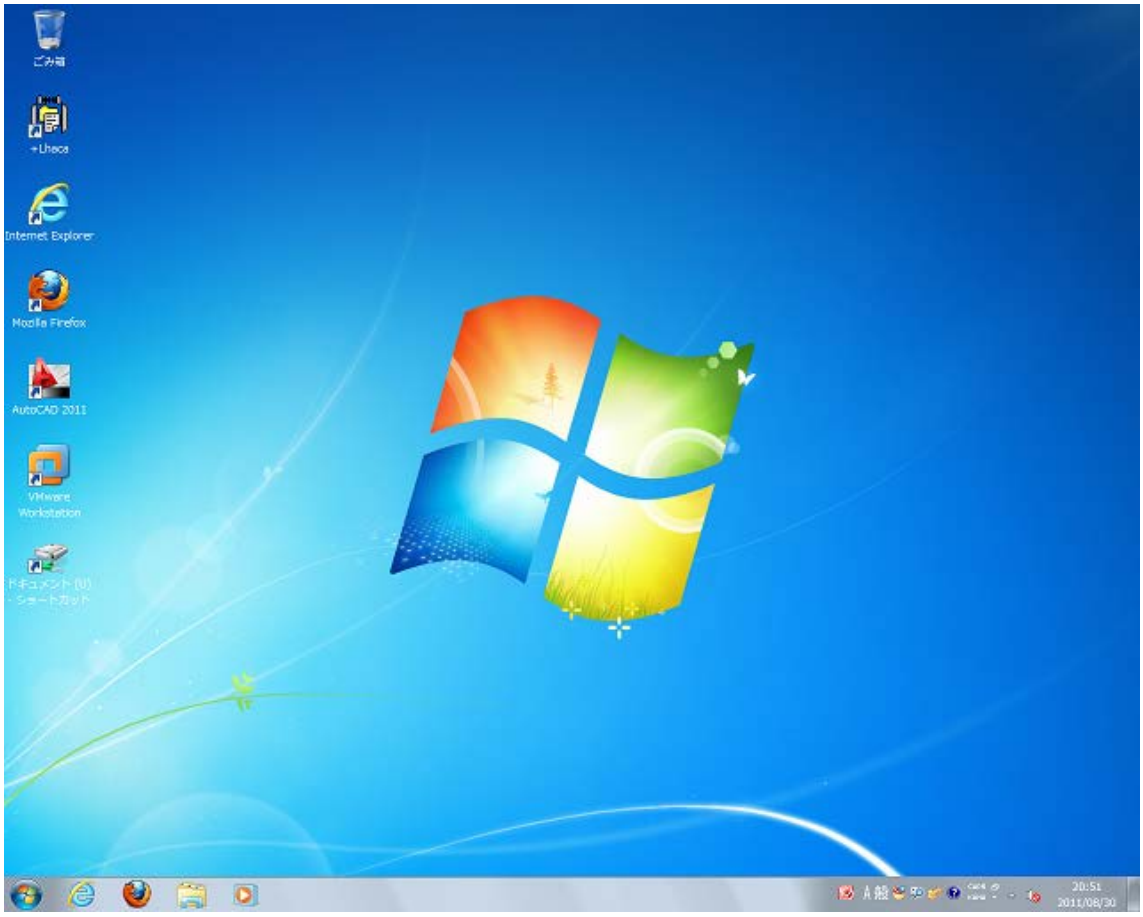
(2) パスワードを入力します。

(3) 「 」ボタンをクリックしてください。



② OS が立ち上がり、デスクトップが表示されます。

マウスのカーソルが「 」から「 」に変わればログオン完了です。

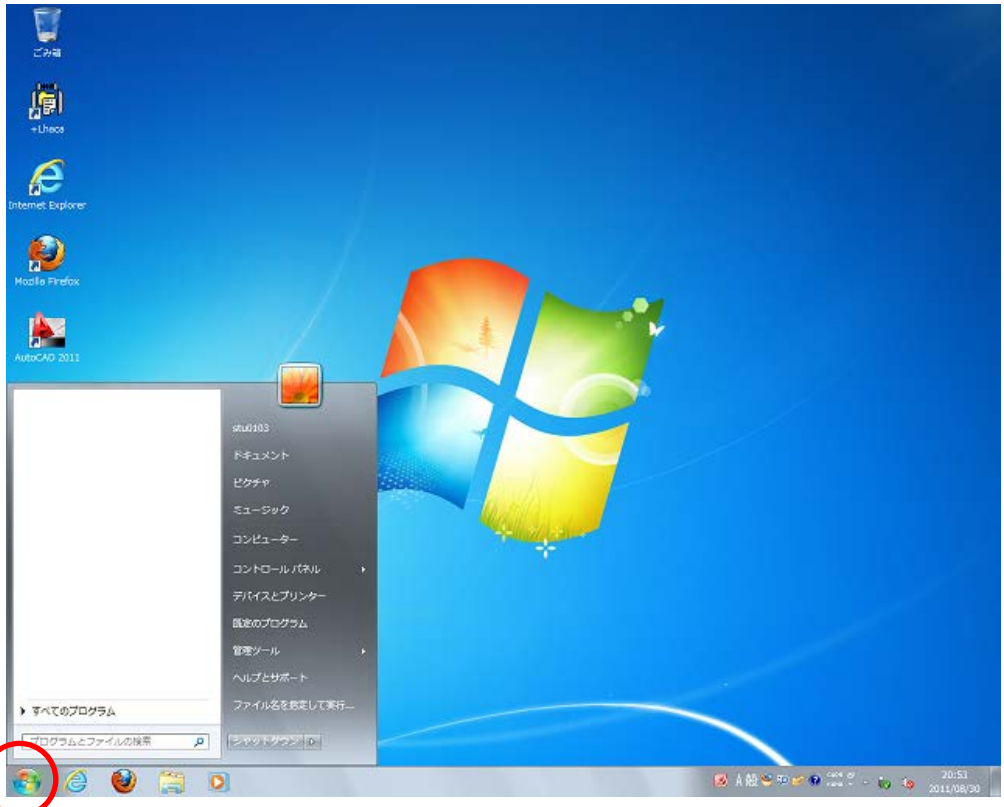


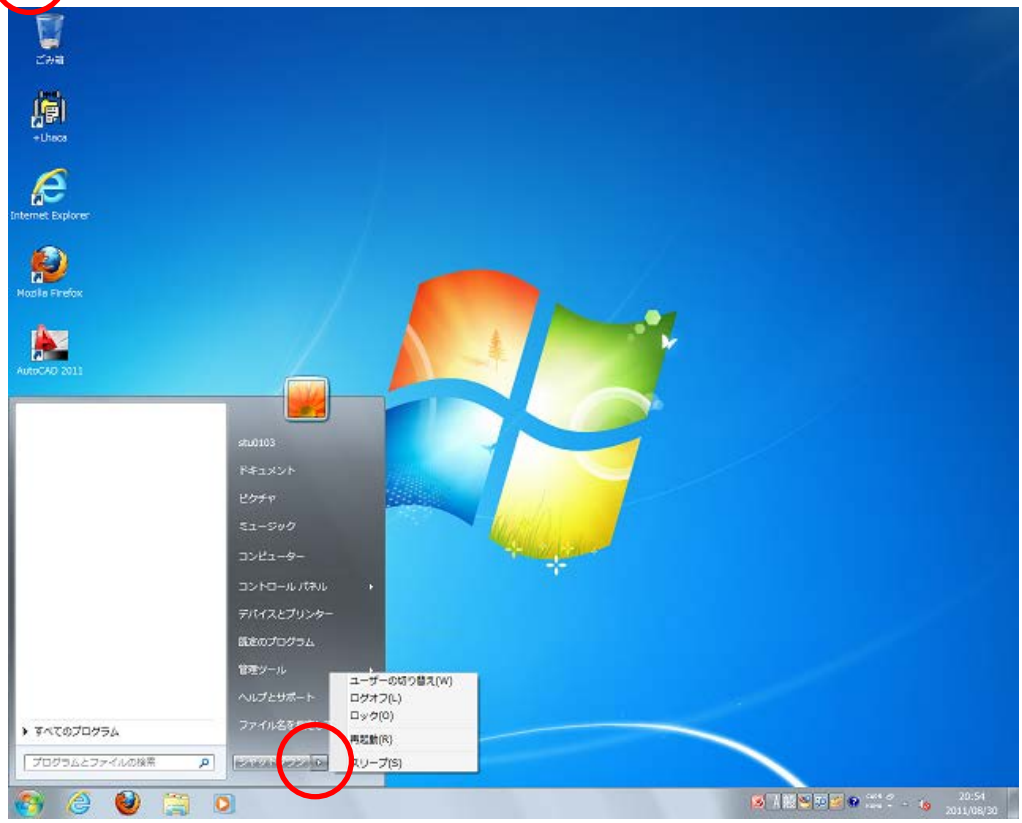
3.4.3. Windows の終了方法

Windows の作業が終了しましたら、パソコンの電源を切ります。
パソコンの電源を切る場合は、シャットダウンを行う必要があります。
シャットダウンとは、Windows 上のすべてのプログラムを適正な順序で終了させて電源を切ってもデータが失われないような状態にする作業のことです。

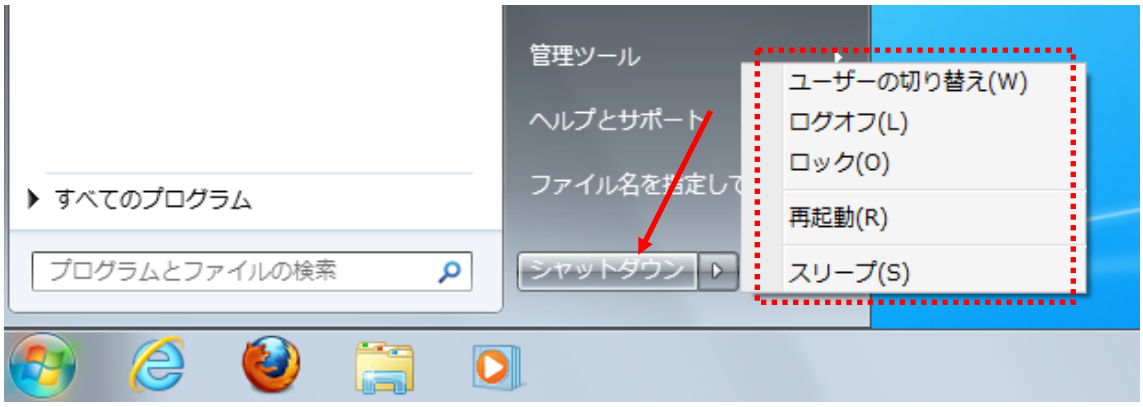
3.4.4. シャットダウン

① 画面左下にあります「 」ボタンを左クリックしてください。
以下のメニューが表示されます。


ごみ箱
+Lhaca
Internet Explorer
Mozilla Firefox
AutoCAD 2011
stu0103
ドキュメント
ピクチャ
ミュージック
コンピューター
コントロール パネル
デバイスとプリンター
既定のプログラム
管理ツール
ヘルプとサポート
ファイル名を指定して実行...
すべてのプログラム
プログラムとファイルの検索
シャットダウン


ごみ箱
+Lhaca
Internet Explorer
Mozilla Firefox
AutoCAD 2011
stu0103
ドキュメント
ピクチャ
ミュージック
コンピューター
コントロール パネル
デバイスとプリンター
既定のプログラム
管理ツール
ヘルプとサポート
すべてのプログラム
プログラムとファイルの検索
ユーザーの切り替え(W)
ログオフ(L)
ロック(O)
再起動(R)
スリープ(S)

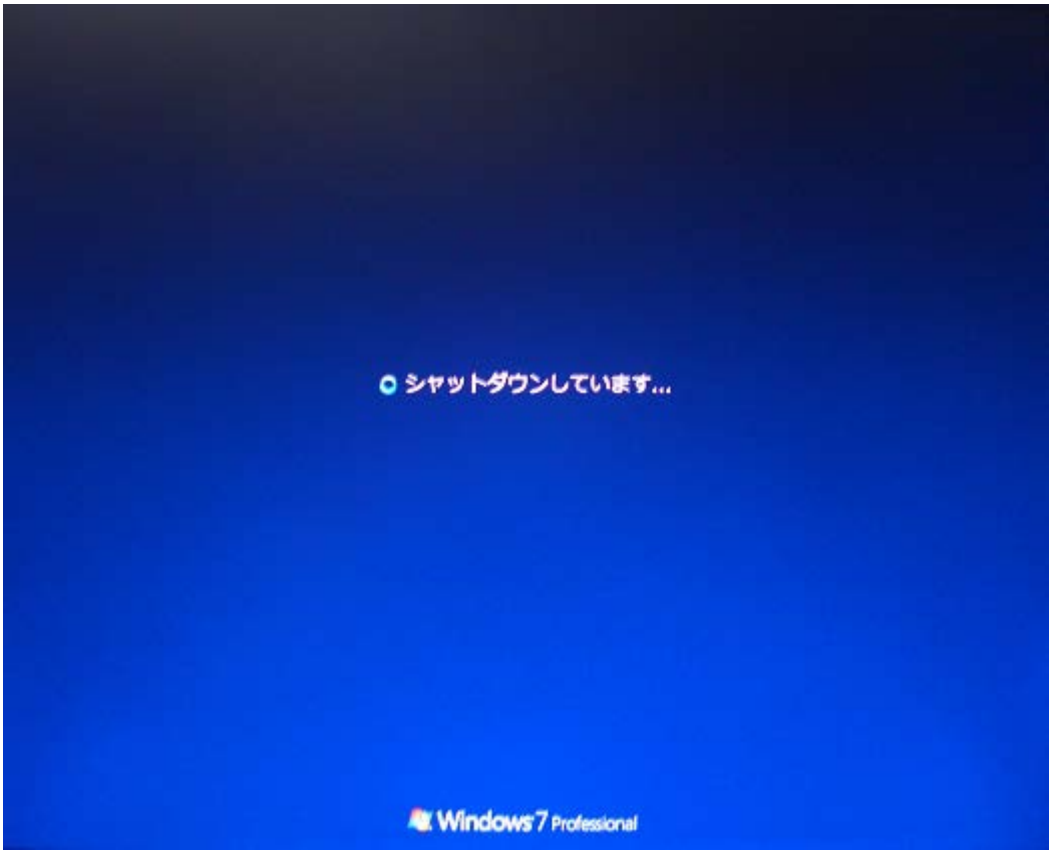
② そこで出てくる画面下段の「シャットダウン」をクリックしてください。



参考：実行できる操作の種類

状態	説明
ログオフ	パソコンの電源は切らずに、ユーザの作業を終了することができます。
ロック	画面をロックします。
再起動	コンピュータに電源を入れた状態に戻します。
スリープ	ユーザの作業状態はそのままに、節電状態になります。 作業に戻るときは電源ボタンを押してください。 「**パソコンの電源　見分け方**」を参照してください。
シャットダウン	パソコンの電源を切り、ユーザの作業を終了することができます。

③　すぐにシャットダウンが実行されます。
シャットダウンにはしばらく時間がかかります。
その間「お待ちください...」メッセージが表示されますので少々お待ちください。



パソコン本体の電源が切れれば、シャットダウンが完了です。
本体の電源が消えていることを確認してください。
電源が消えているかどうかの確認方法は「**3.2.　パソコンの電源確認方法**」を参照ください。

以上で、パソコンの電源を安全に切ることができました。

3.5. Linux の利用

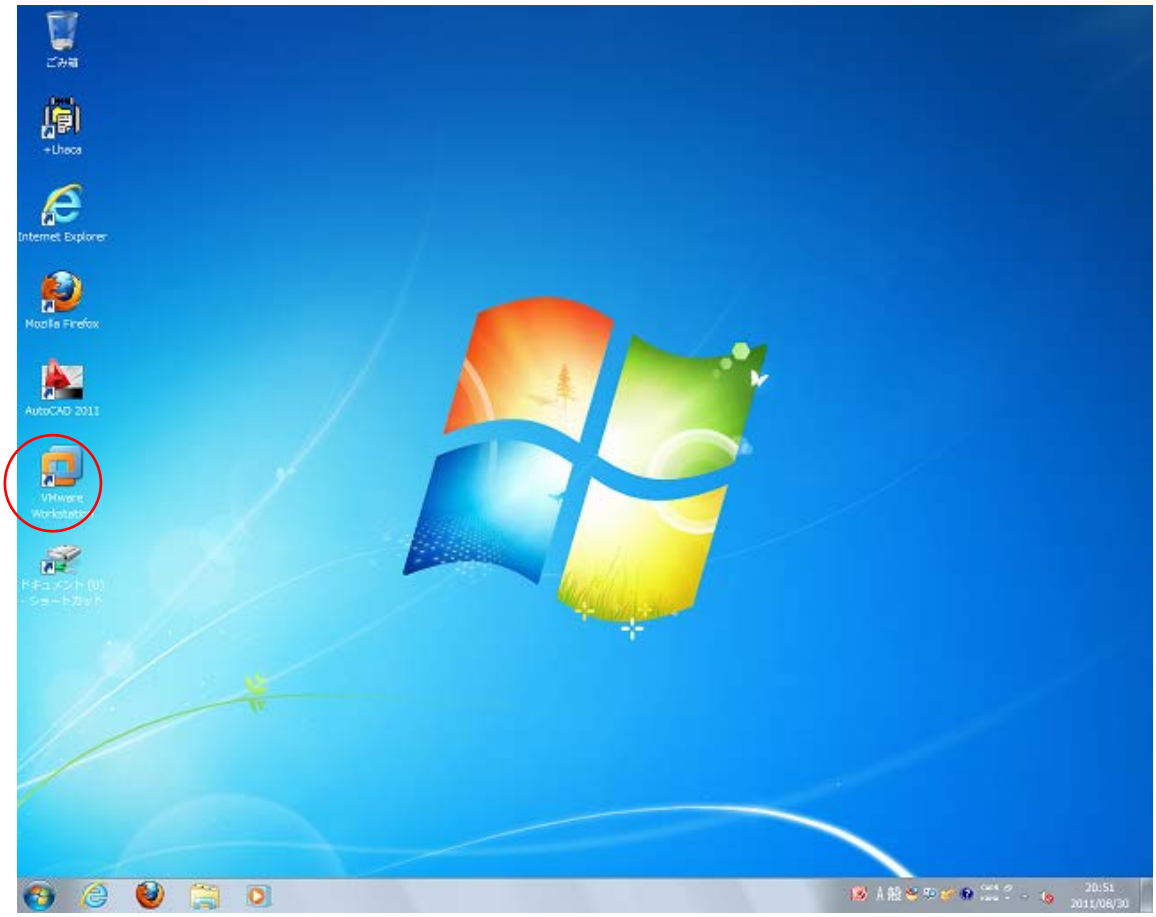
3.5.1. Linux の利用

学生用パソコンおよび先生用パソコンには、Linux 環境として Ubuntu11.04 がインストールされています。

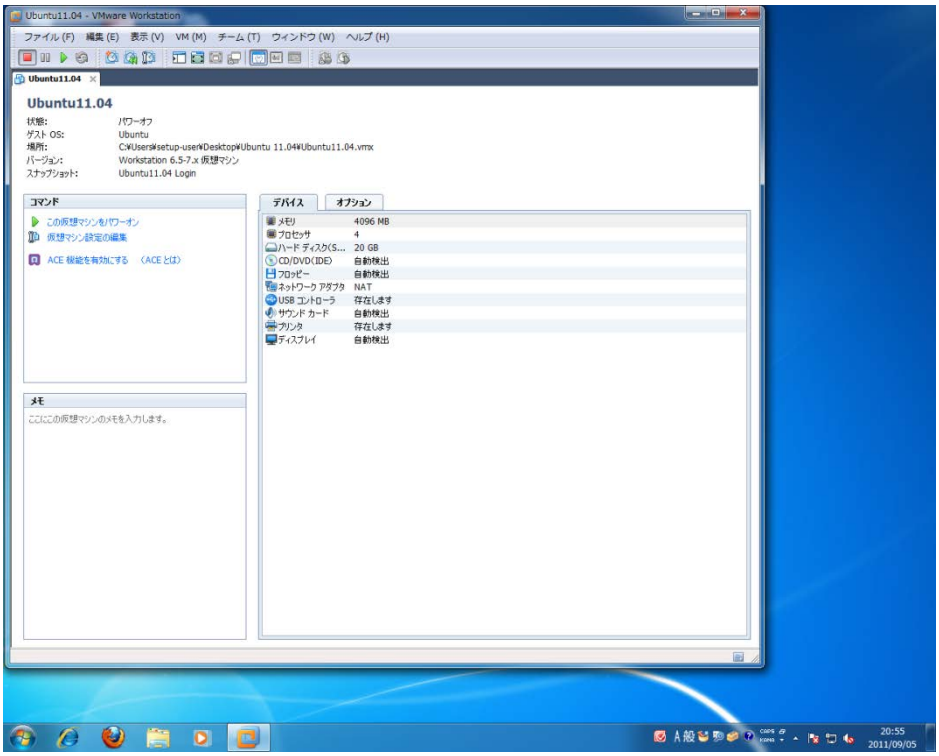
Ubuntu11.04 は、VMware.Inc 社の VMware Workstation を利用して Windows 上で仮想マシンとして起動します。

① Windows を起動します。
手順は「3.4.1. Windows の起動」参照。

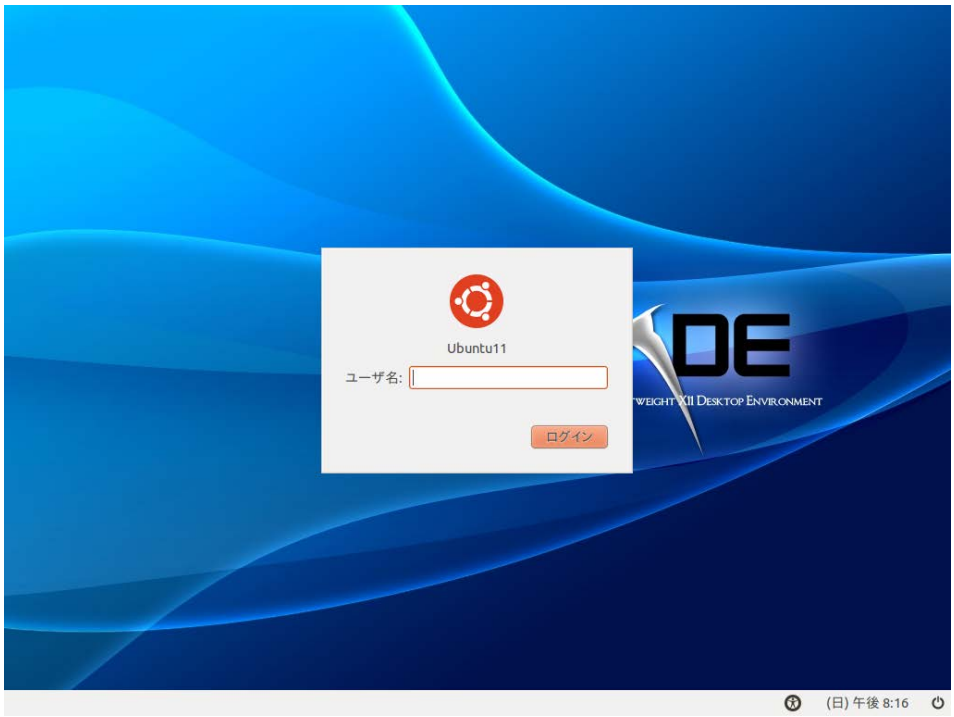
② VMware を起動します。
画面左下にある VMware Workstation というアイコンをダブルクリックしてください。



③　VMware が起動し、Ubuntu11.04 がスタンバイ状態から回復します。



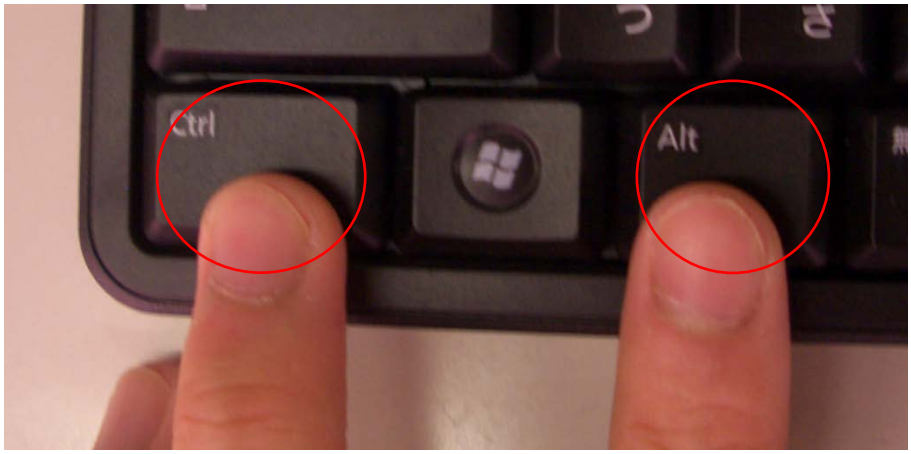
④　スタンバイ状態からの回復後、全画面表示になり Ubuntu11.04 へのログイン画面が表示されます。



ログイン画面で利用者のユーザ名、パスワードを入力すると Ubuntu11.04 が利用可能になります。

3.5.2. Windows へ戻る方法

Ubuntu11.04 を起動すると、すべてのキーボード・マウス入力は Ubuntu11.04 への入力とみなされます。
この状態を解除する方法は以下の通りです。

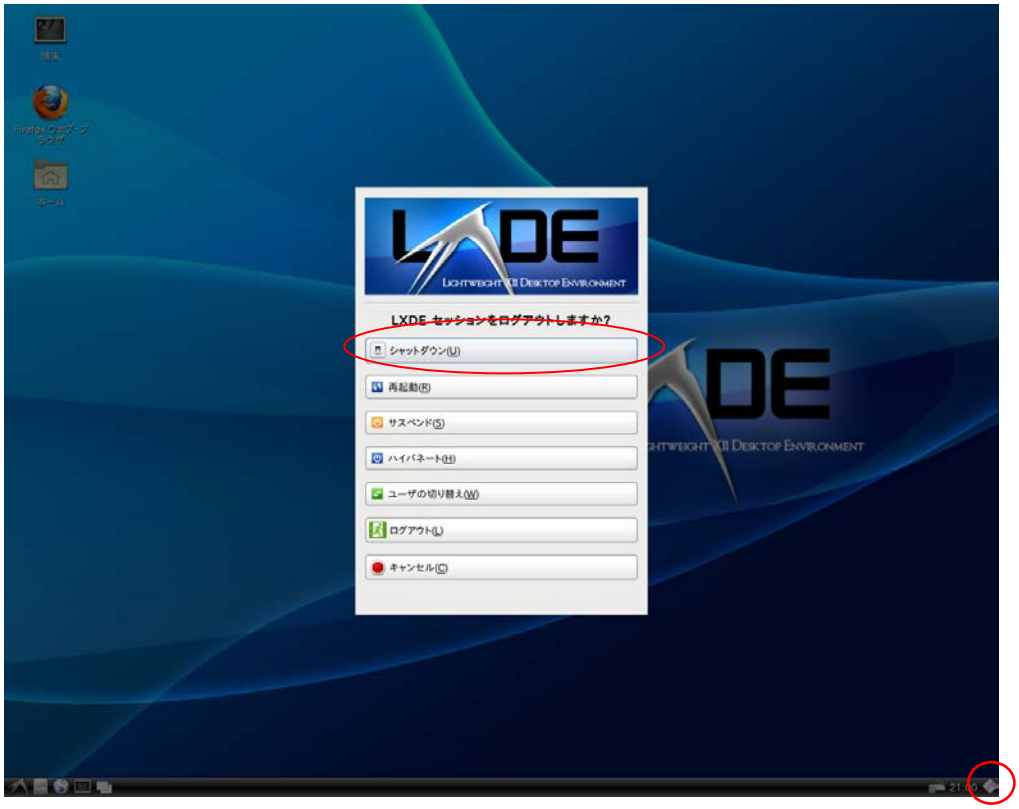


① CTRL キーと ALT キーを同時に押します。

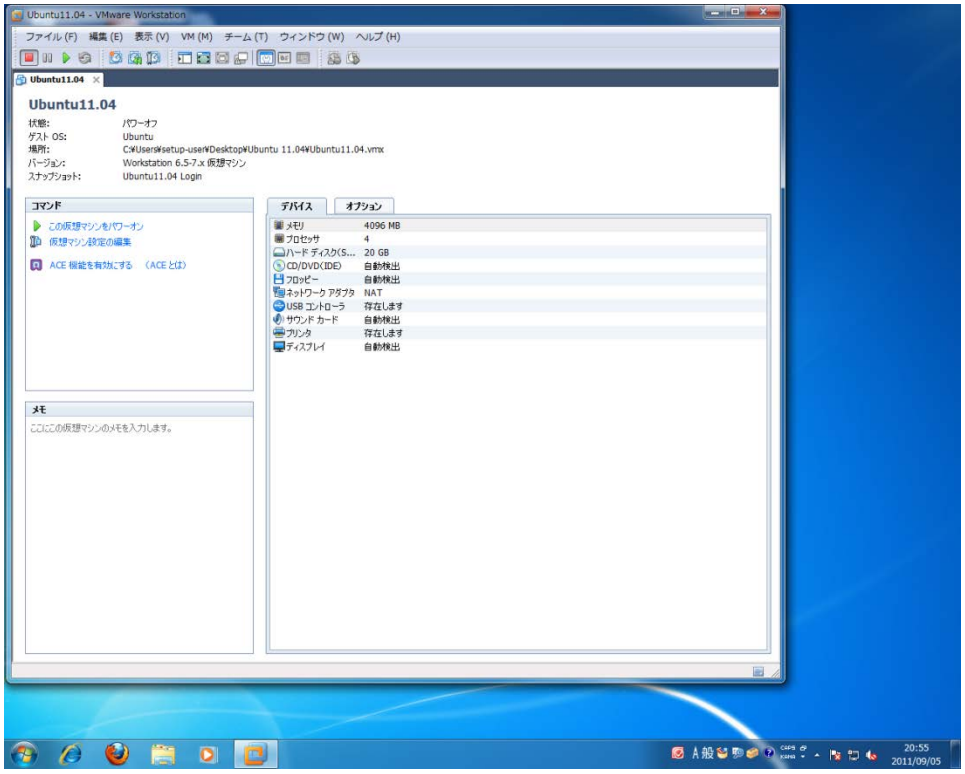
3.5.3. Ubuntu11.04 の終了

Ubuntu11.04 での作業が終わった場合は以下の手順で終了を行います。

① Ubuntu11.04 上で動作するメニューバーの右下のアイコンをクリックします。
LXDE セッションのダイアログから「シャットダウン」をクリックします。



② Ubuntu11.04 のシャットダウンが開始され、終了すると以下の画面になります。



③ VMware を終了します。

VMware Workstation のメニューから「ファイル」→「終了」を選択します。

3.5.4. シャットダウン

Linux の作業が終了しましたら、Windows を終了しパソコンの電源を切ります。

手順は「3.4.4. シャットダウン」参照。

3.5.5. Linux の環境について

① Linux の MySQL 環境

Linux の MySQL はログインした時点では起動していません。
サービスを起動および停止する方法は以下となります。

起動： 左下のメニュー⇒プログラム⇒Start_MySQL

停止： 左下のメニュー⇒プログラム⇒Stop_MySQL

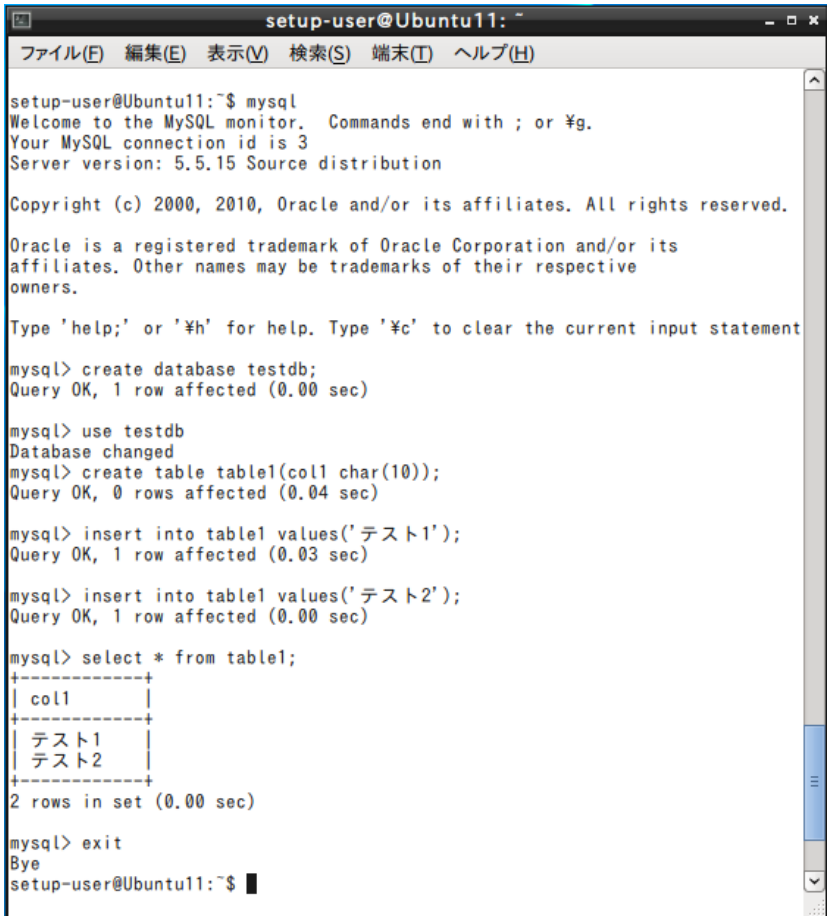
また、MySQL のクライアントは、端末で mysql とコマンドを打つことで起動します。

MySQL の初期データベースは Linux に初めてログインした時点で自動的に作成されます。

具体的には Linux にログインした時、$HOME/MySQL-Data-lin ディレクトリが存在しない場合、初期データベースと設定ファイル一式を$HOME/MySQL-Data-lin ディレクトリにコピーする設定としています。$HOME/MySQL-Data-lin のディレクトリが存在している場合は上書きしませんので変更した設定や、データベースの内容は別の PC で作業しても個人別に引き継がれます。

初期データベースはテーブルなどがありません。自分用のデータベースを作成する方法は以下となります。

$ create database データベース

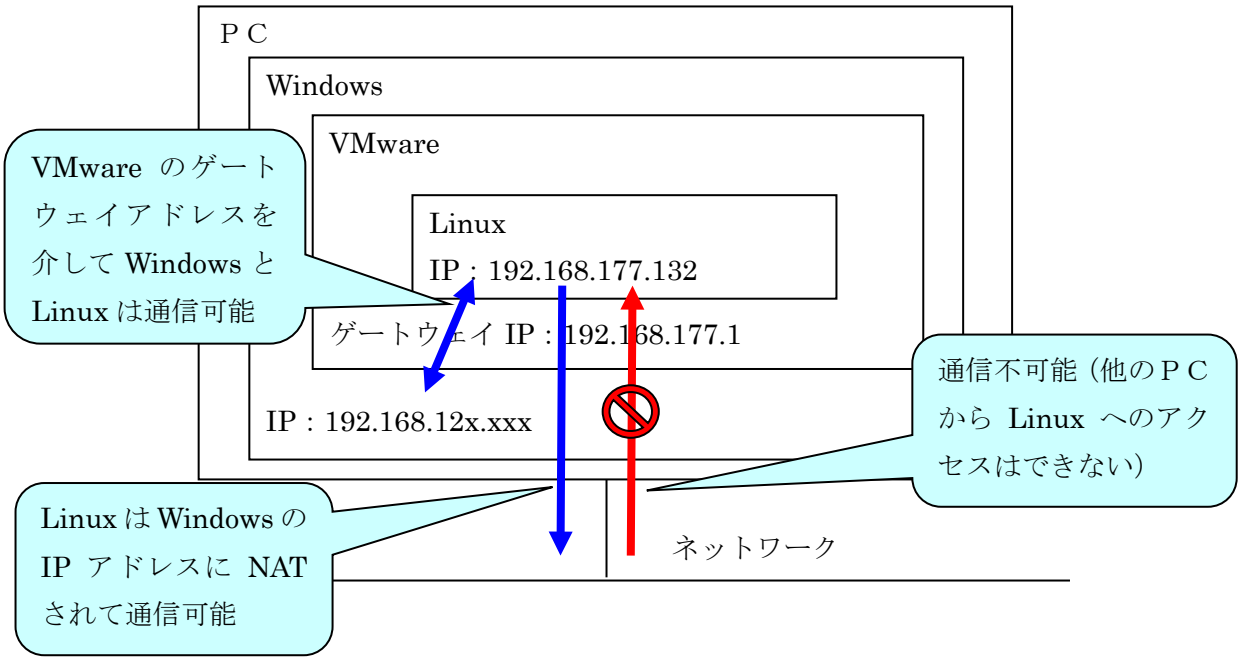

setup-user@Ubuntu11: ~
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H)
setup-user@Ubuntu11:~$ mysql
Welcome to the MySQL monitor. Commands end with ; or ¥g.
Your MySQL connection id is 3
Server version: 5.5.15 Source distribution
Copyright (c) 2000, 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.
Oracle is a registered trademark of Oracle Corporation and/or its
affiliates. Other names may be trademarks of their respective
owners.
Type 'help;' or '¥h' for help. Type '¥c' to clear the current input statement
mysql> create database testdb;
Query OK, 1 row affected (0.00 sec)
mysql> use testdb
Database changed
mysql> create table table1(col1 char(10));
Query OK, 0 rows affected (0.04 sec)
mysql> insert into table1 values('テスト1');
Query OK, 1 row affected (0.03 sec)
mysql> insert into table1 values('テスト2');
Query OK, 1 row affected (0.00 sec)
mysql> select * from table1;
+------------+
| col1 |
+------------+
| テスト1 |
| テスト2 |
+------------+
2 rows in set (0.00 sec)
mysql> exit
Bye
setup-user@Ubuntu11:~$

② Linux のネットワーク環境

Windows の IP アドレス 192.168.12x.xxx ですが、VMware は Windows 上に 192.168.177.1 の仮想ネットワークを作ります。

この仮想ネットワークの IP アドレスが VMware 上の Linux とのゲートウェイアドレスとなり、Linux の 192.168.177.132 と通信できます。

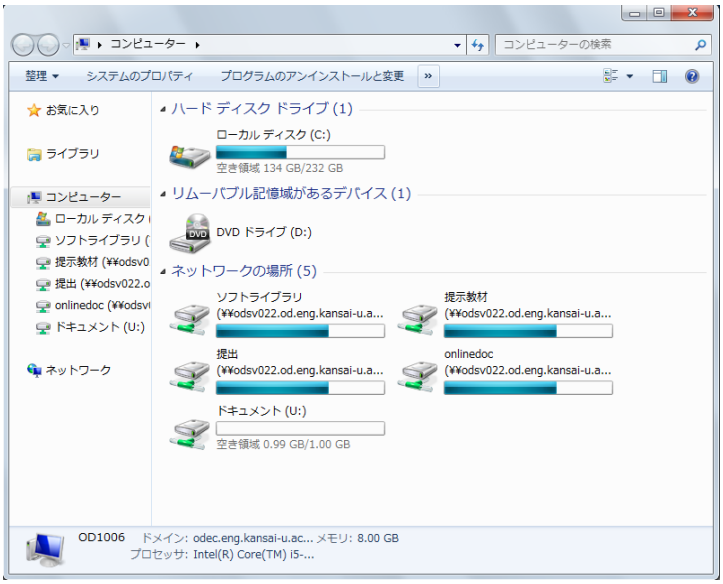
Linux はファイルサーバなど外部との通信では、Windows のＩＰに NAT されて通信します。



3.6. ドライブの割り当て

3.6.1. ドライブの割り当て

Windows にログオンすると個人用フォルダが自動的に割り当てられます。



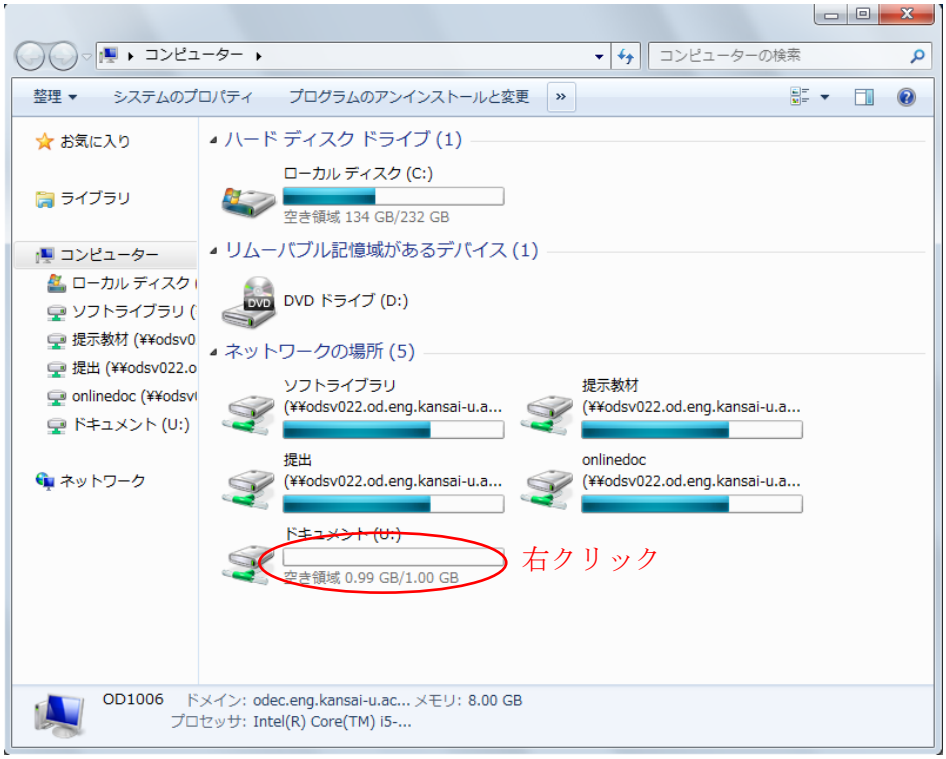
自動的に割り当てられるフォルダと用途

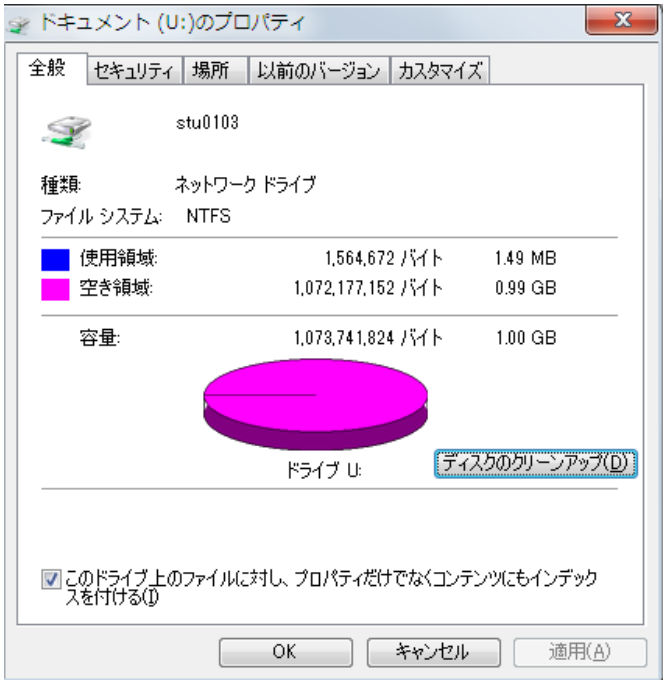
ドライブ	共有名	用途	アクセス権限
U:	xxxxx（xxxxx はログオン ID）	個人用フォルダです。学生は 1GB、教員は 2GB 保存できます。SSLVPN 経由で学外や研究室からもアクセス可能です。	ログオンした個人のみが読み書き可能です。
M:	提示教材	学生に提示する教材。**毎週日曜日にデータがクリア（削除）されます。**授業で使う教材は U ドライブ（個人フォルダ）で作成し、学生に提示する時にこのフォルダに入れてください。	教員、TA は書き込み可能。学生は読み込みのみ可能。
N:	提出	学生が提出する課題など。**毎週日曜日にデータがクリア（削除）されます。**提出された課題などは授業終了時に教員の U ドライブ（個人フォルダ）に移してください。	教員、TA、学生とも書き込み可能。
L:	ソフトライブラリ	授業で一時的に使うフリーソフトなどを格納し、ネットワークドライブを利用したインストールが行えます。	教員、TA は書き込み可能。学生は読み込みのみ可能。
O:	onlinedoc	ODLE システム利用方法などのオンラインドキュメントを格納します。	読み取り専用

3.6.2. 個人用フォルダの容量確認方法

＜OD 教室内での利用時＞

コンピュータを開いて、U ドライブを右クリックし、プロパティを開けば、現在の使用量と空容量が確認できます

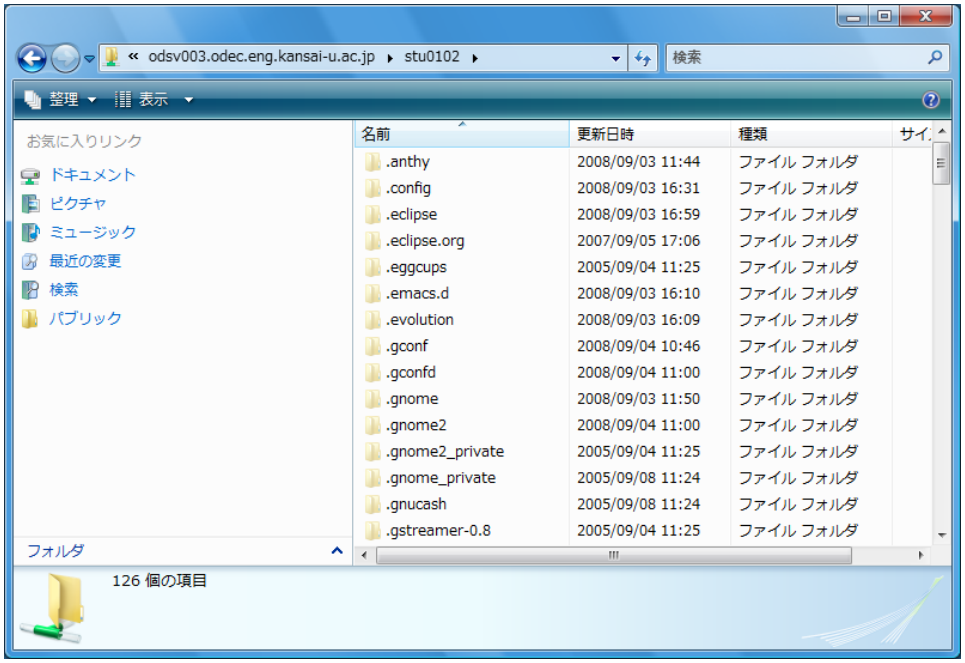




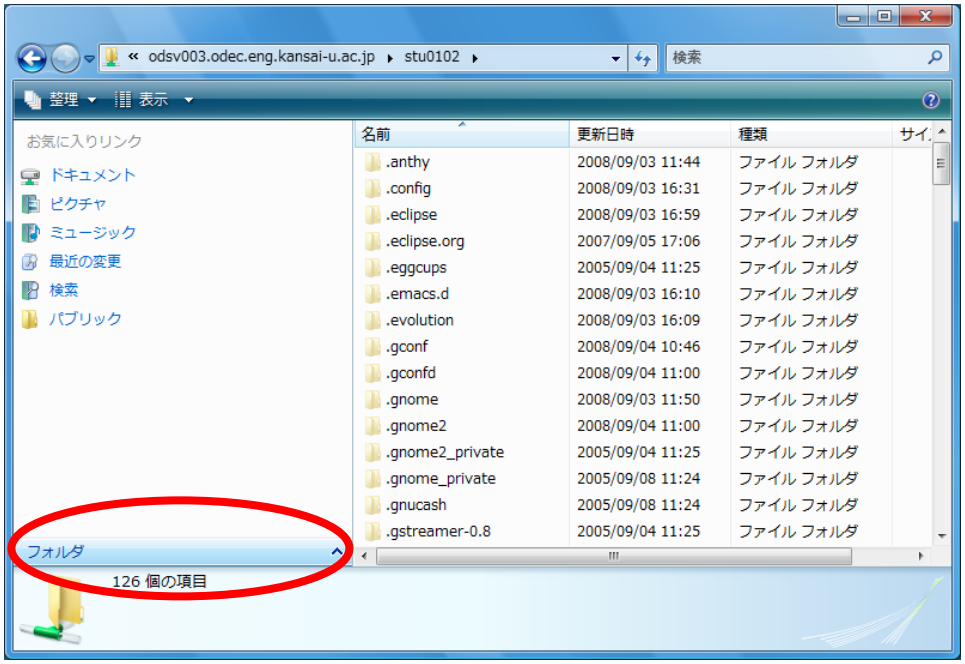
＜SSL VPN 利用時＞

Windows では、ネットワークフォルダの容量表示が行えません。ネットワークドライブとして割り当てることで、容量を表示することができます。以下に手順を示します。

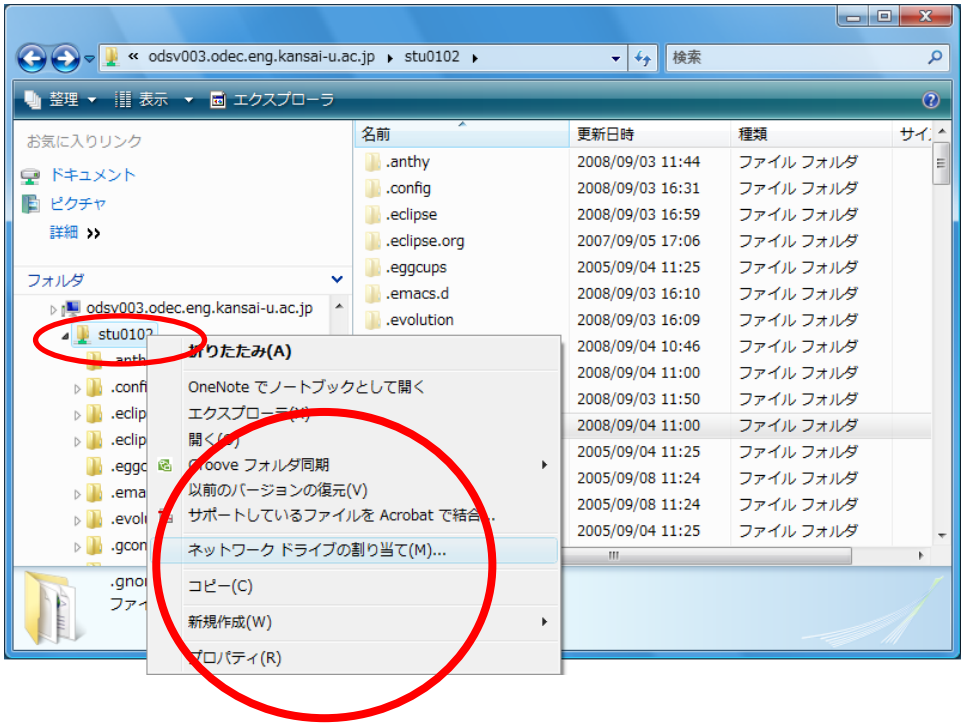
①SSLVPN でホームディレクトリを開きます。



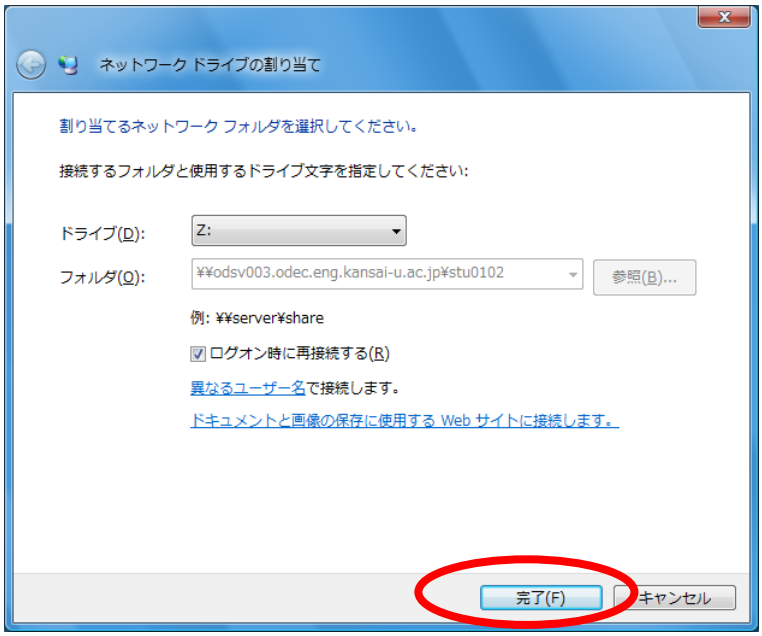
②フォルダを表示します。



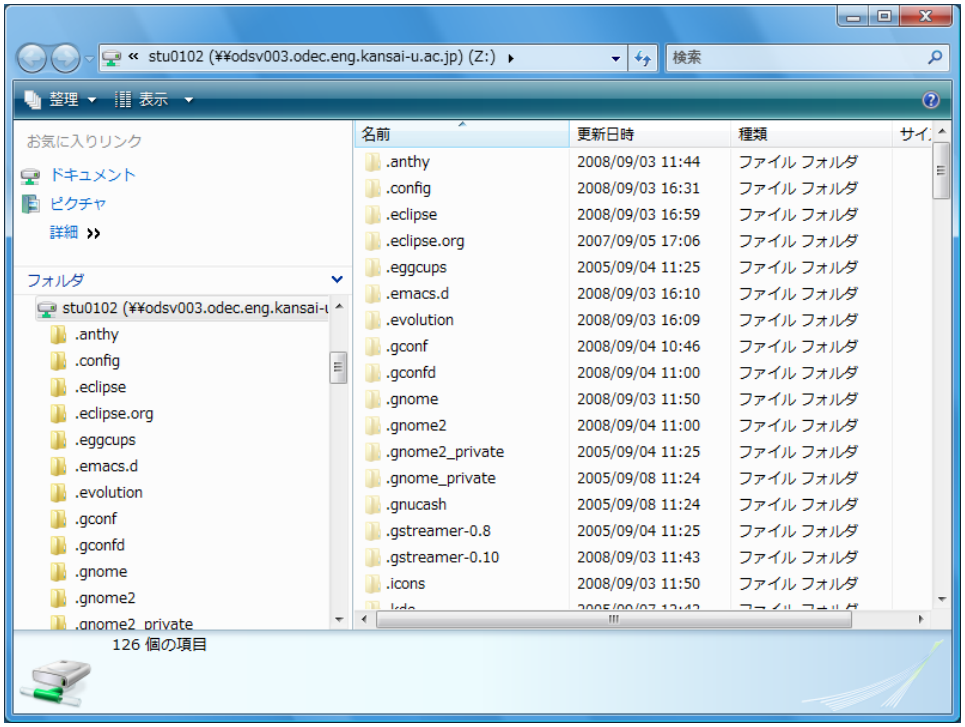
③フォルダを右クリックし、「ネットワークドライブの割り当て」を行います。



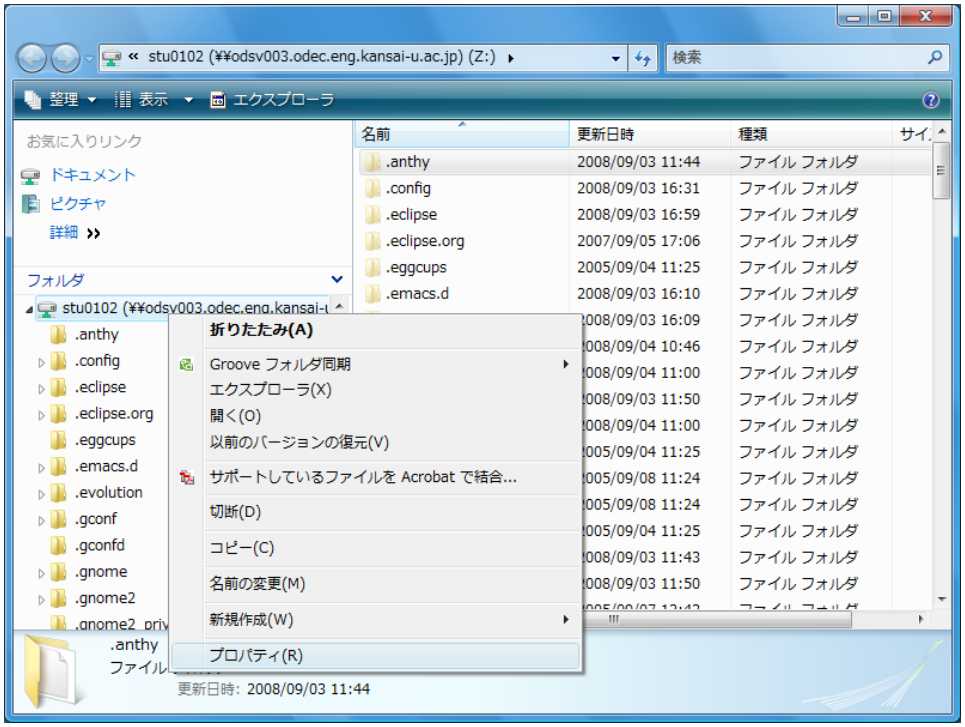
④利用していないドライブを割り当てます。



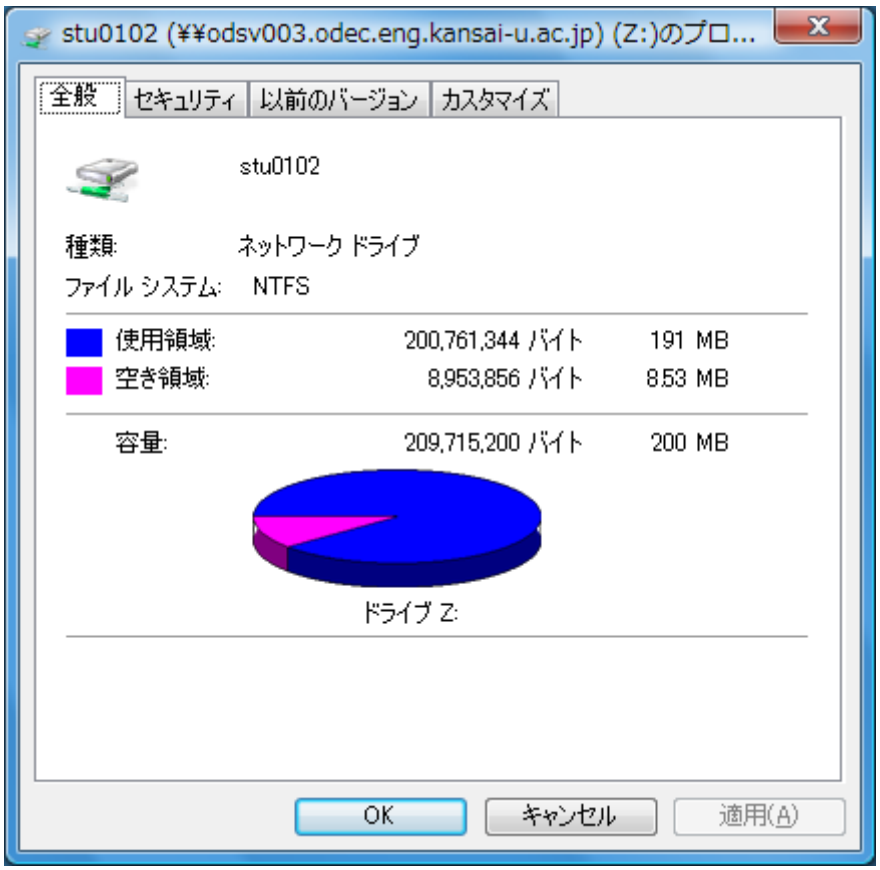
⑤割り当てた個人用フォルダが表示されます。



⑥表示された個人用フォルダで右クリックし、プロパティを開きます。



⑦使用容量と空容量が表示されます。



4. 授業支援システムの利用手順

ODLE システムでは授業支援ソフトとして「SkyMenu Pro Ver. 13」を使用します。
又、中間モニターへの配信は切替機にて行います。

本章では SKYMenu を利用した授業支援機能の利用方法を記述します。
本章で説明する作業は、特記の無い限り教員・TA のユーザアカウントでログインした状態で行う必要があります。
作業は、教員卓にある提示用パソコンおよび教員用パソコンによって行います。
どちらを利用するかは都度指定してあります。

4.1. 授業支援ソフト起動方法

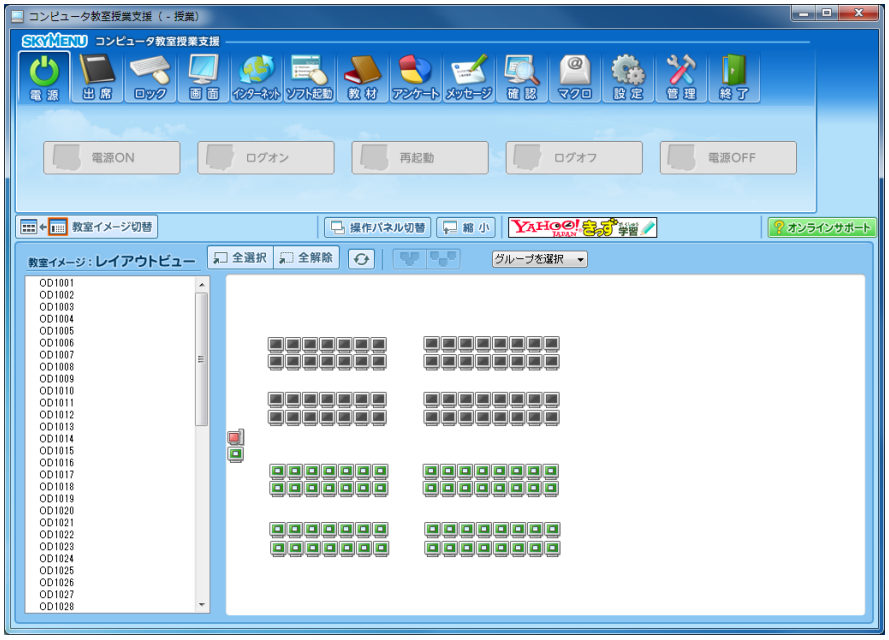
授業支援ソフトの機能を利用するためには、教員が授業支援ソフトを起動する必要があります。

4.1.1. 授業支援ソフトの開始

①デスクトップにあります「

を選択しクリックします。

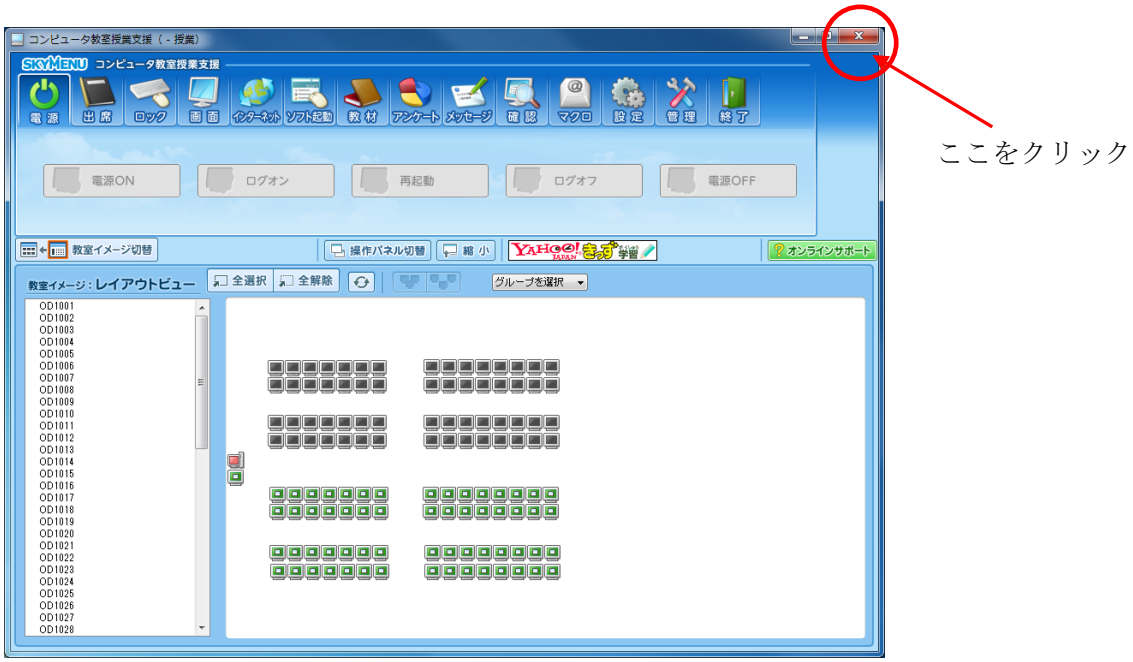
②コンピューター教室授業支援のウィンドウが開きます。



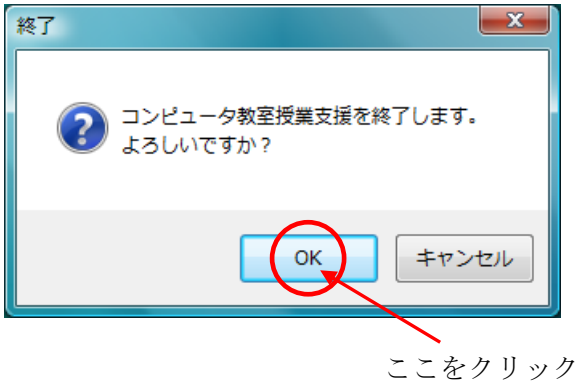
これで SKYmenu は起動しました。授業を開始してください。

4.1.2. 授業支援ソフトの終了

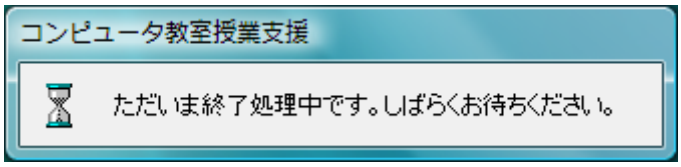
①コンピューター教室授業支援ウィンドウのメニューにあります、終了をクリックします。



②終了確認画面が表示されますので「OK」をクリックします。



③以下の画面が表示され、その後画面がデスクトップに戻れば SKYmenu は終了です。

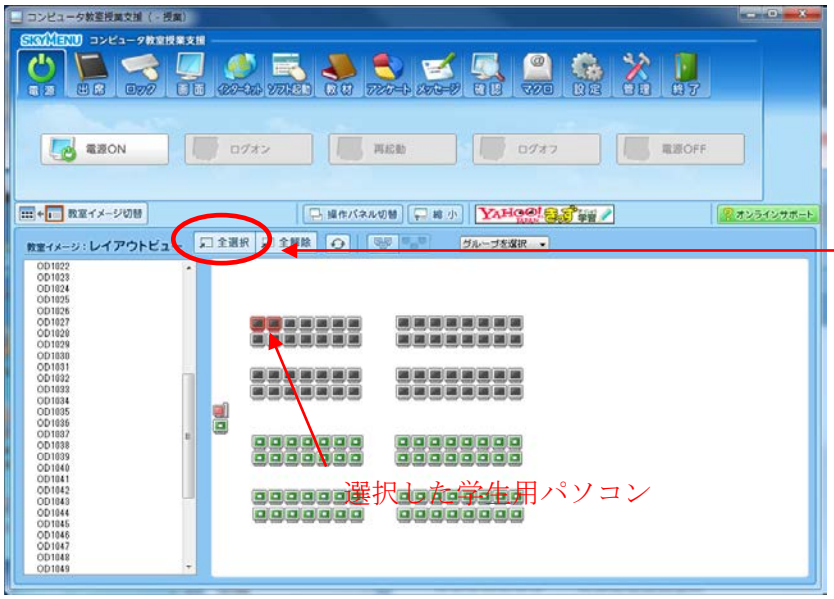


4.2. 教員 PC の画面を学生 PC に転送

教員用パソコンの画面を、学生用パソコンに送信することができます。
受信から送信までの流れをフローチャート（流れ図）で表示します。

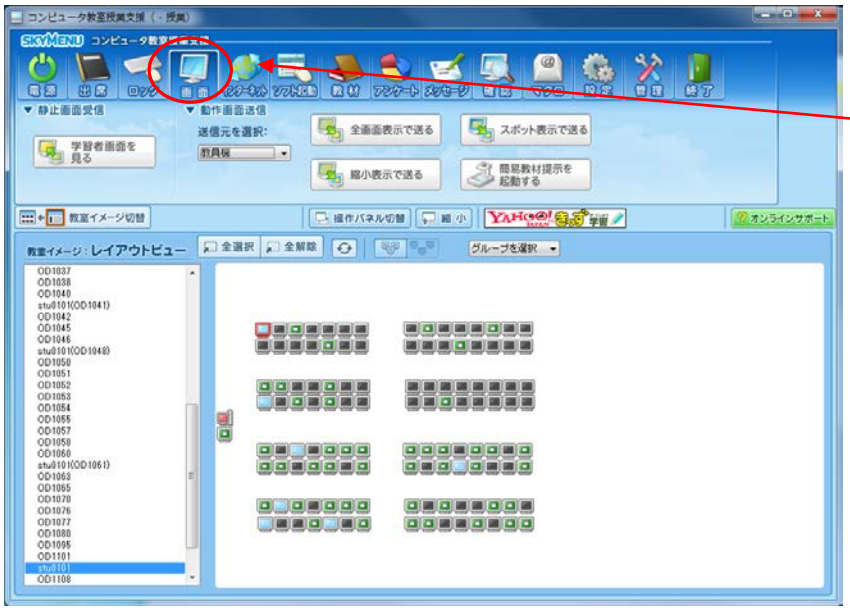
教員用パソコン
↓（受信）
提示用パソコン → → → → → 学生用パソコン
（送信）

①送信先となる学生用パソコンのアイコンを選択します。パソコンのアイコンをクリック、またはマウスをドラッグして範囲を指定してください。選択されたパソコンのアイコンが赤色に変わります。

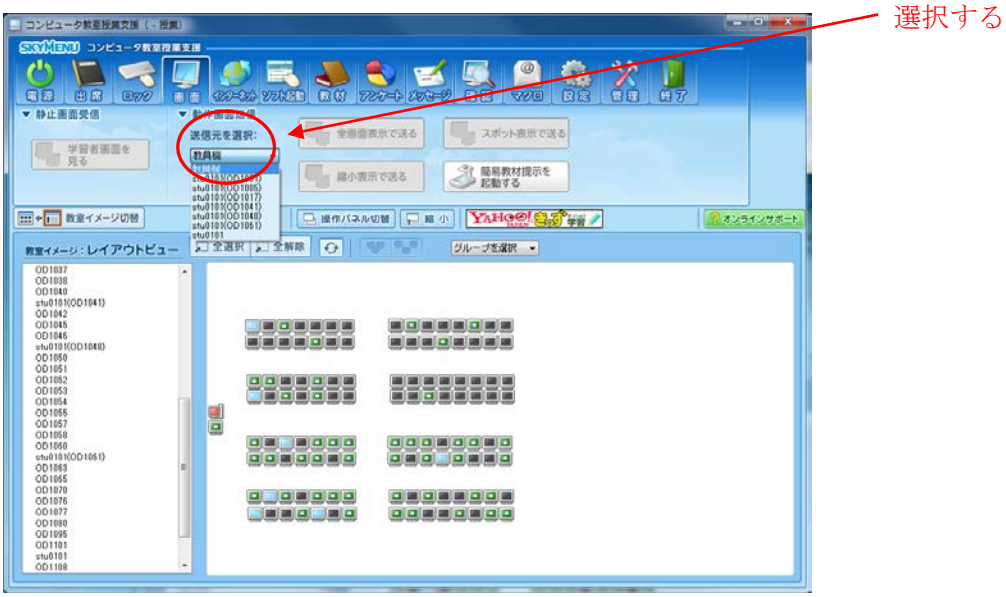


②全てのパソコンを選択する場合は、「全選択」をクリックしてください。
選択したパソコンの選択を解除したい場合は、もう一度アイコンをクリックします。
（もしくは、「全解除」をクリックしてください。）

③メニューの[画面]をクリックします。

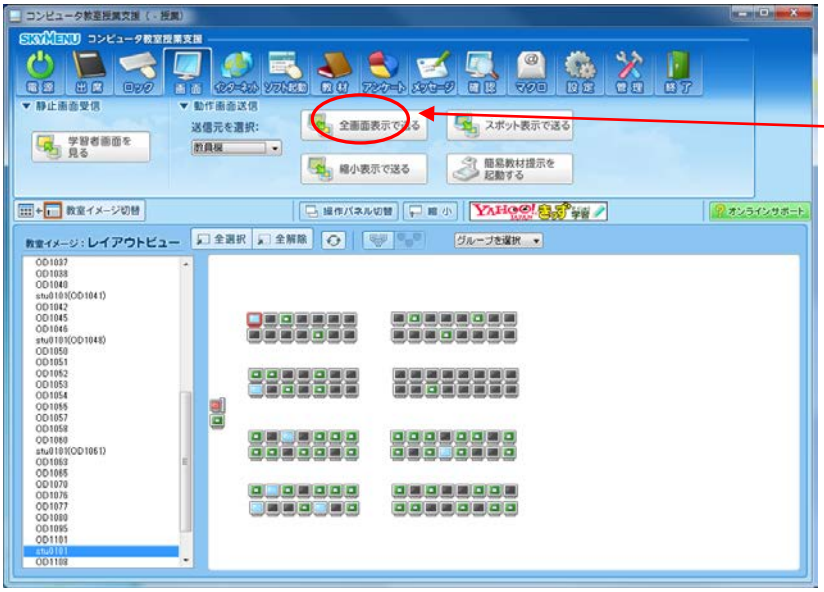


④「動作画面送信」の「送信元を選択」リストより[教員のログイン ID]を選びます。

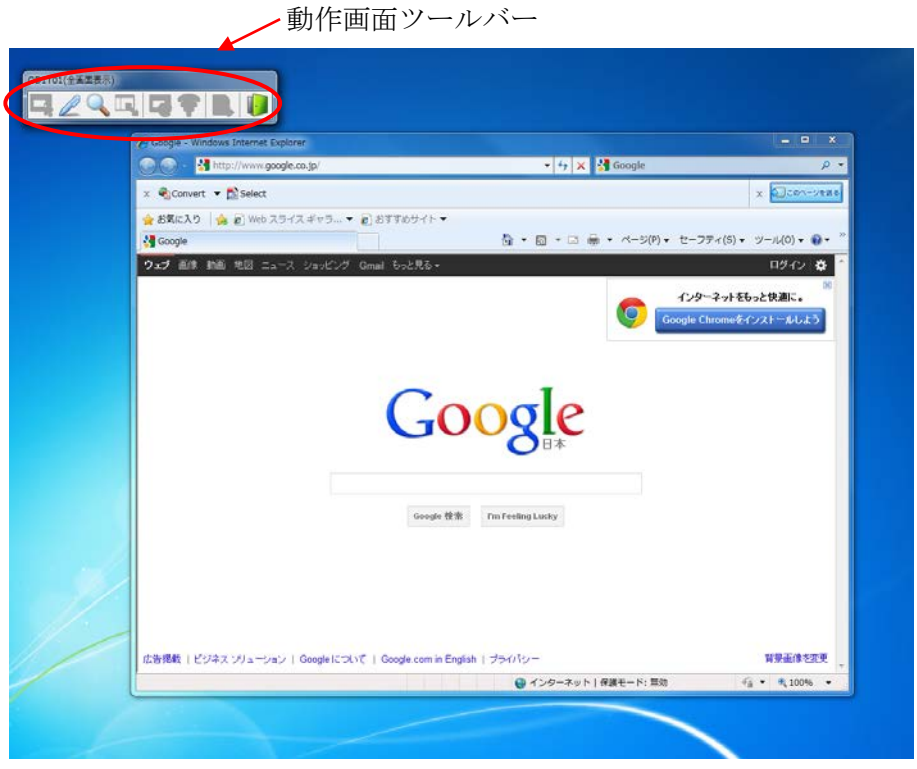


※　特定の学生 PC の画面を送信する場合は、PC アイコンを選択状態にしてください。

⑤「全画面表示で送る」「縮小表示で送る」「スポット表示で送る」いずれかを選択してください。



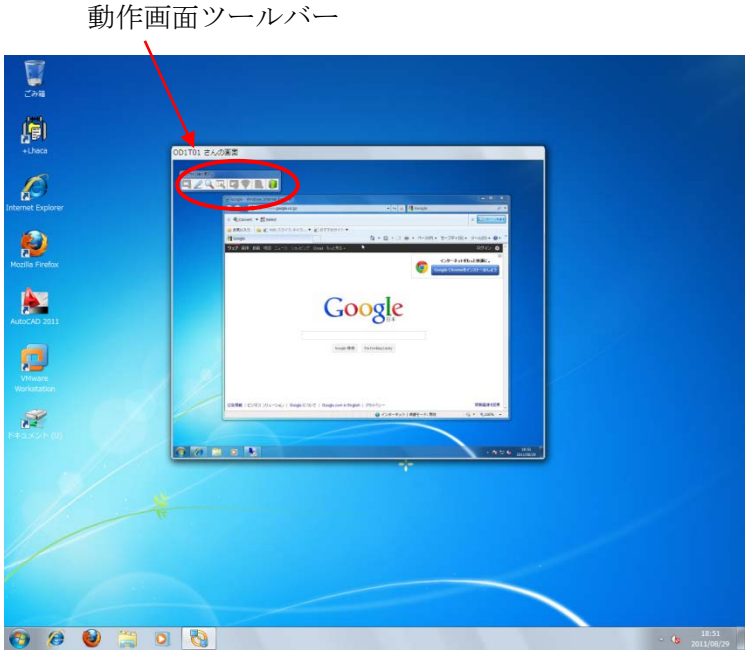
⑥学生用パソコンの画面に、指定した学生用パソコンの画面が表示され、提示用パソコンには動作画面ツールバーが表示されます。以下は「全画面表示」の場合です。
全画面表示とは学生用パソコンに全画面で転送された画面が表示されます。
全画面表示とした場合、学生用パソコンの操作はできなくなります。



⑦「縮小表示」を選択した場合は以下の画面となります。

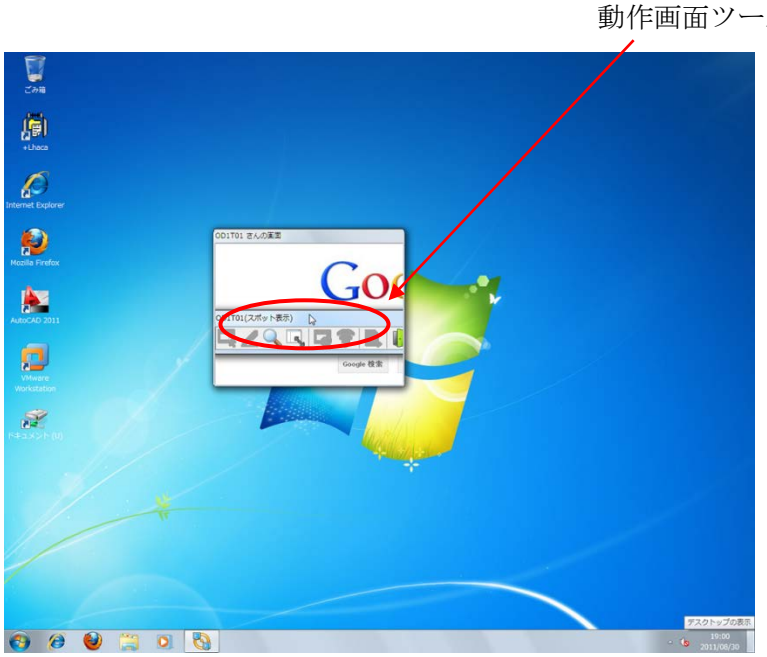
縮小表示とは学生用パソコンにウィンドウとして転送された画面が縮小表示されます。

縮小表示では、学生用パソコンからウィンドウサイズの変更や通常のデスクトップ操作ができます。



⑧「スポット表示で送る」を選択した場合は以下の画面となります。

スポット表示とは学生用パソコンにウィンドウとして転送された画面の一部が等倍表示されます。



⑨終了するには動作画面ツールバーの右端のアイコンをクリックします。

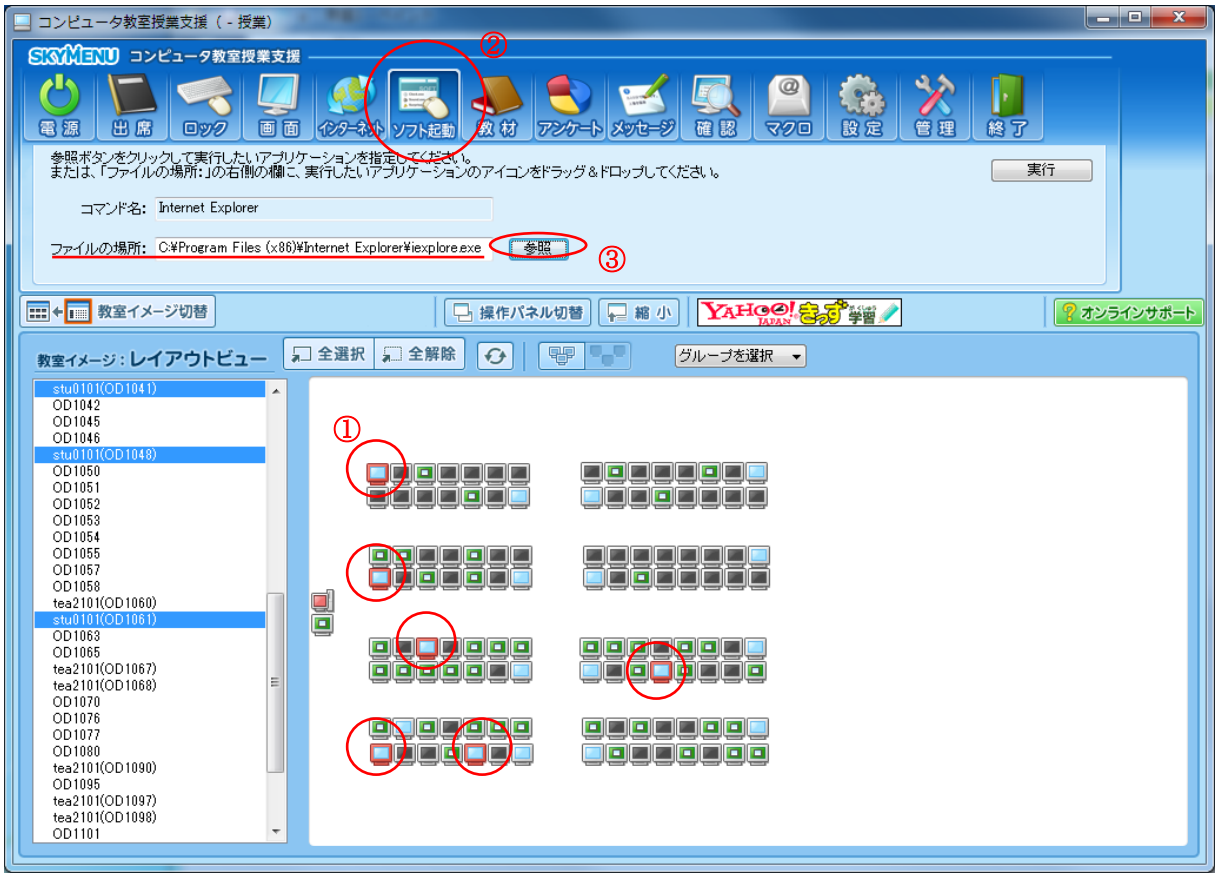
4.3. アプリケーションの一斉起動と一斉終了

指定したソフトウェアを、学生用パソコンで起動させることができます。

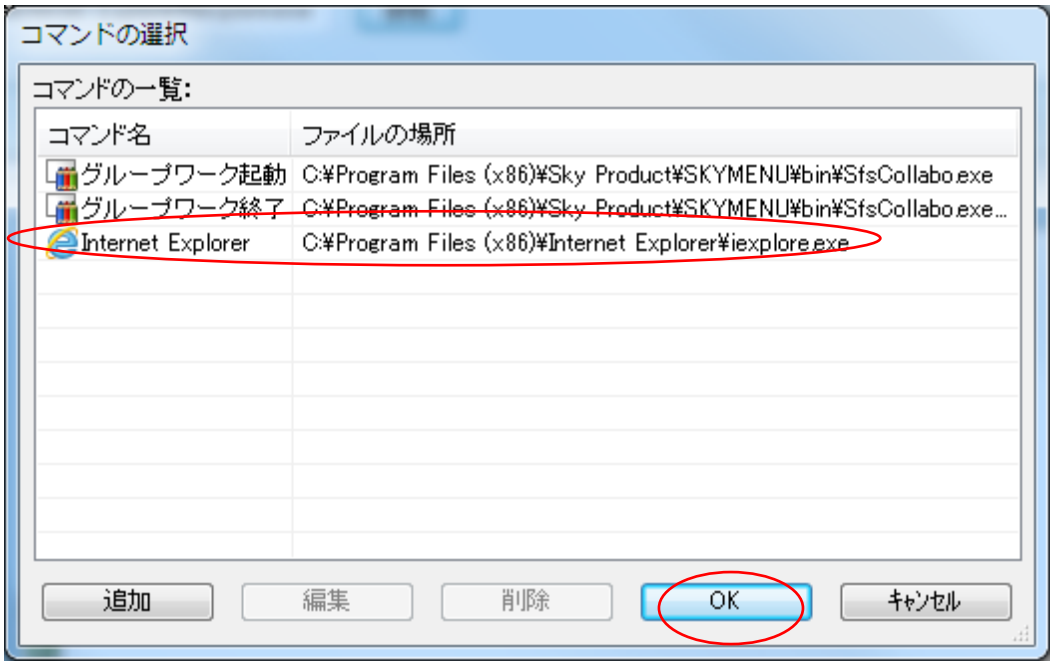
①ソフトウェアを起動したい学生用パソコンを選びます。

②メニューの「ソフト起動」をクリックします。

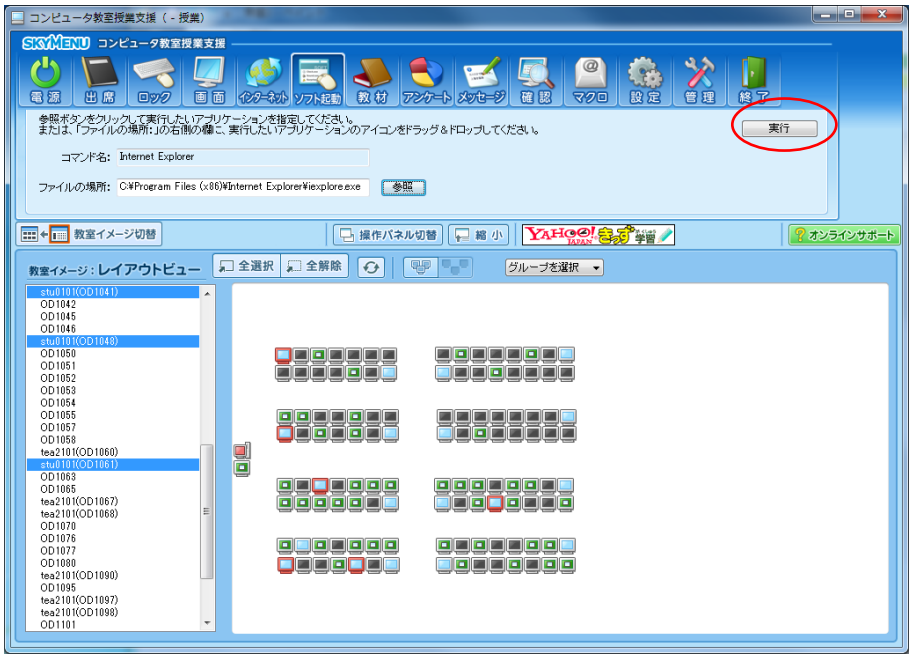
③「ファイルの場所」に起動するファイル名を指定します。
「参照」をクリックするとコマンドの選択画面が表示され登録したソフトウェアを指定できます。



④　③で「参照」を選択した場合は、コマンドの選択画面で起動するソフトウェアのコマンド名を選択し、「OK」をクリックします。



⑤「実行」をクリックします。
学生用パソコン上で指定したソフトウェアが起動します。

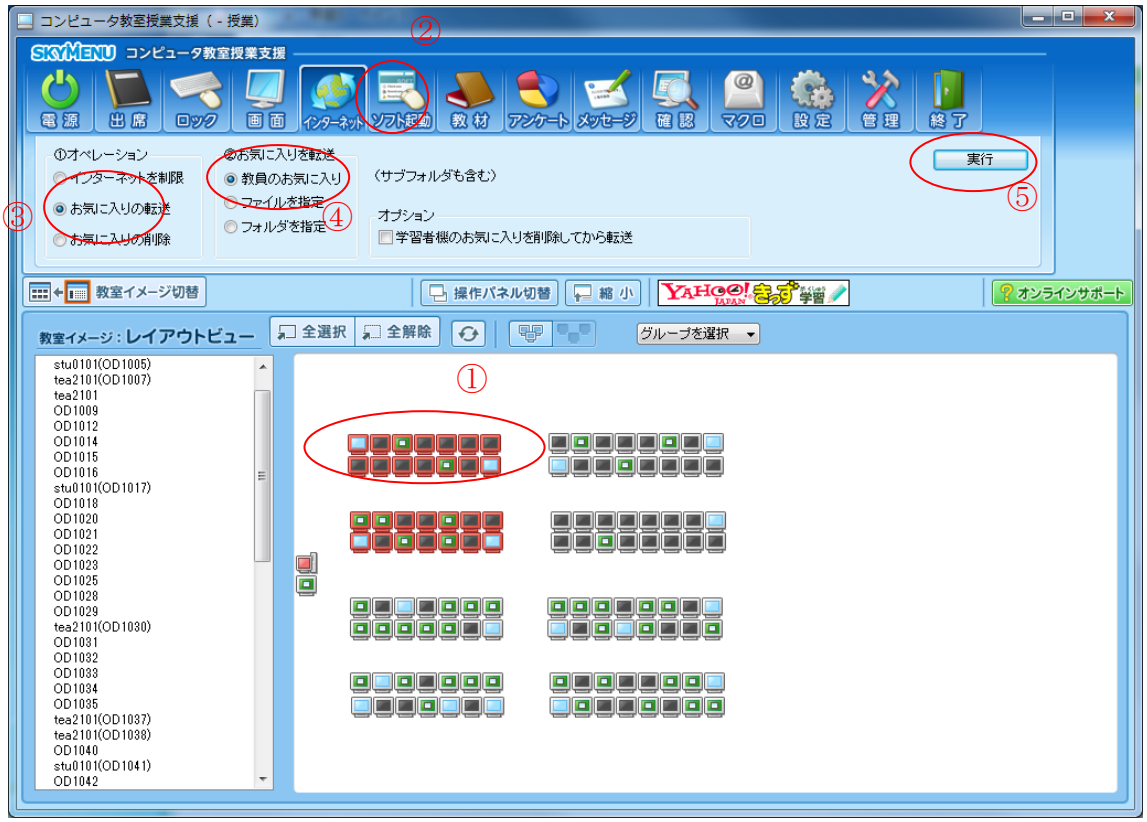


4.4. お気に入りの転送登録

URL/ディレクトリ/ファイル名を送信して、学生 PC の Internet Explorer お気に入りに追加が可能です。

※IE（Internet Explorer）の「お気に入り」のみ変更可能です。
Mozilla Firefox では使用できませんのでご注意ください。

①「お気に入り」を転送したい学生用パソコンを選択します。
②メニューの「インターネット」をクリックします。
③「①オペレーション」の「お気に入りの転送」をクリックします。
④「②お気に入りの転送」の「教員のお気に入り」を選択します。
※学生用パソコンのお気に入りを削除してから、教員用パソコンの「お気に入り」を転送するときは、「お気に入りを削除してから転送する」をチェックする
⑤「実行」をクリックする。



教員用パソコンのお気に入りが選択した学生用パソコンに転送されます。

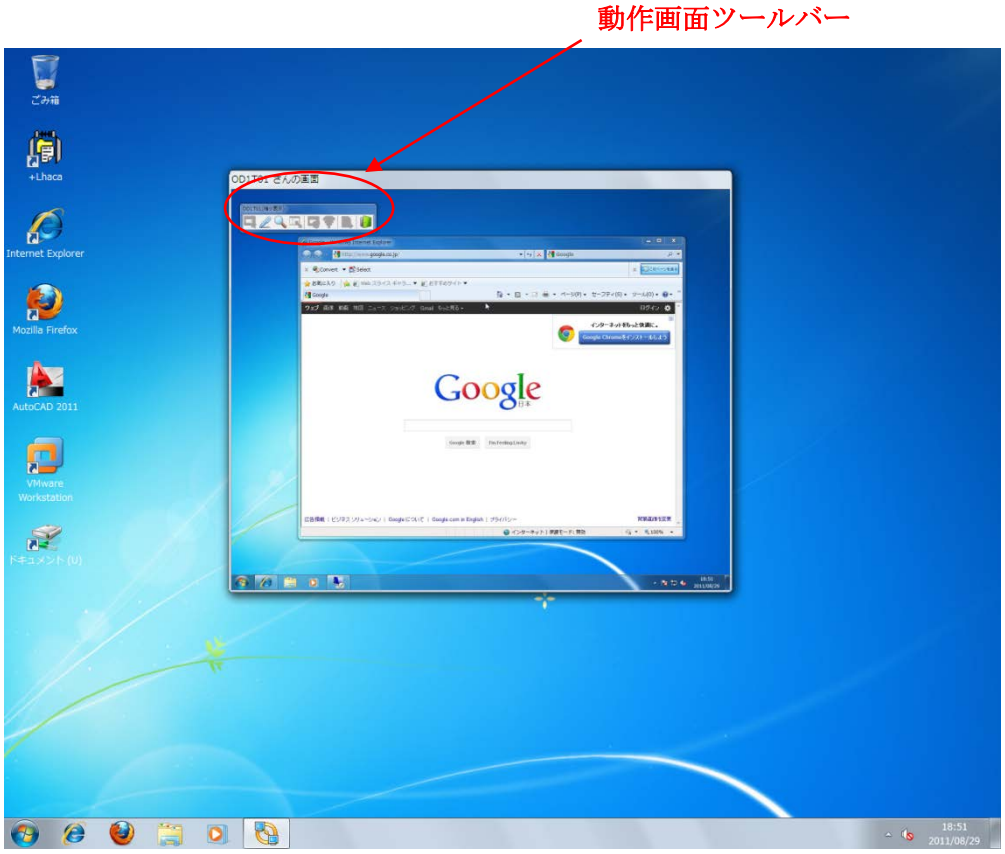
4.5.　教員用パソコンの画面を参考に、学生が操作を習得する方法

教員用パソコンから送信された画面を見ながら、学生用パソコンでは作業を行うことができます。

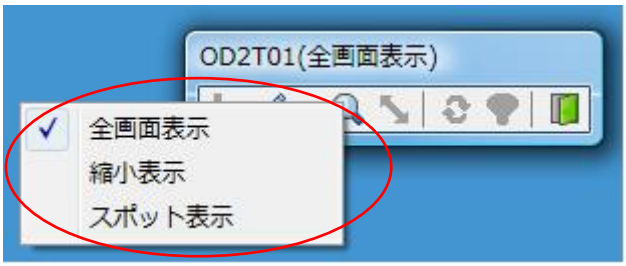
画面の送信中に学生用パソコンで作業を行うには、送信されている画面が縮小表示、またはスポット表示である必要があります。
他のウィンドウを立ち上げて自由に作業を行えます。送信されている画面のウィンドウはサイズを変更や、場所の移動ができます。

4.5.1.　画面送信中に、画面の表示方法を変更する

①提示パソコンに表示されている動作画面ツールバーにある虫眼鏡のアイコンをクリックします。



②「縮小表示」または「スポット表示」を選択します。



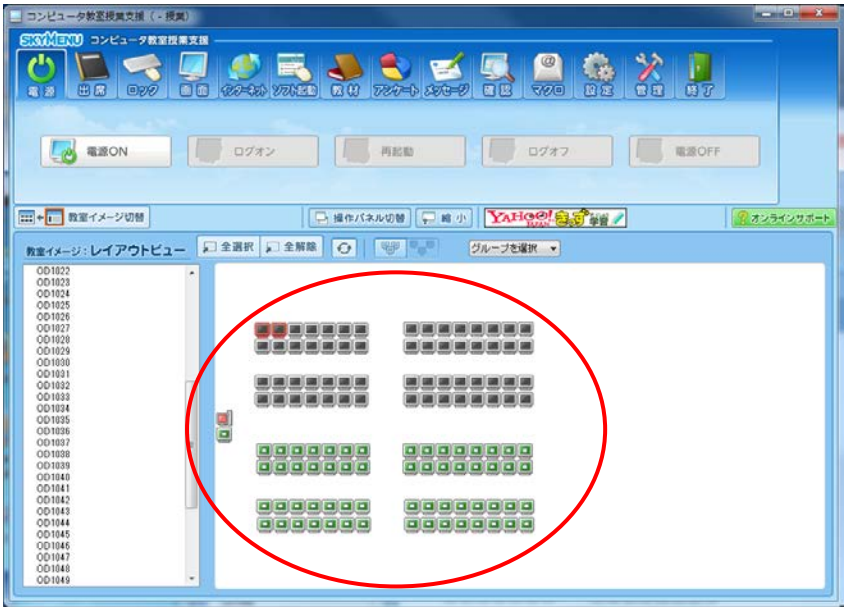
これで学生用パソコンで作業を行うことが可能になります。

4.6. 監視機能

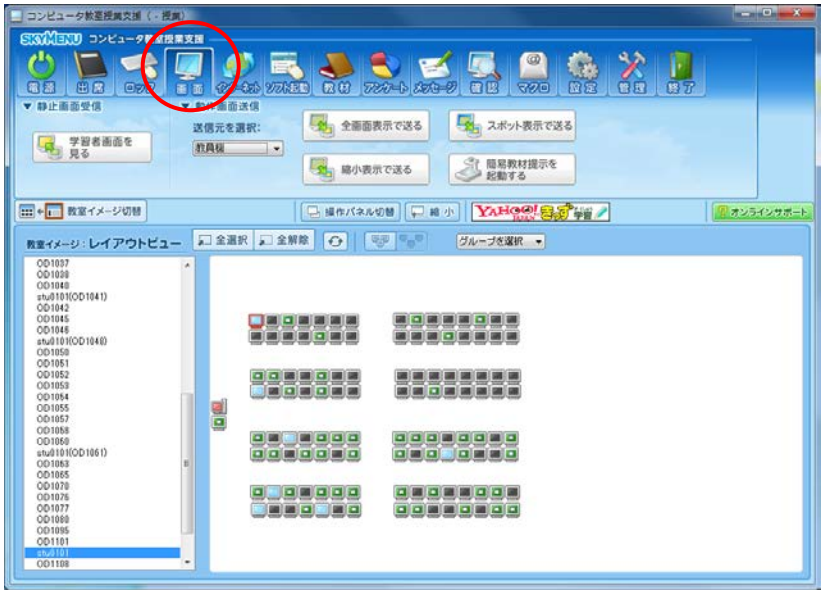
4.6.1. 学生用パソコンの画面を静止画として監視

学生用パソコンに表示されている画面を取得することで学生用パソコンの状況監視を行います。

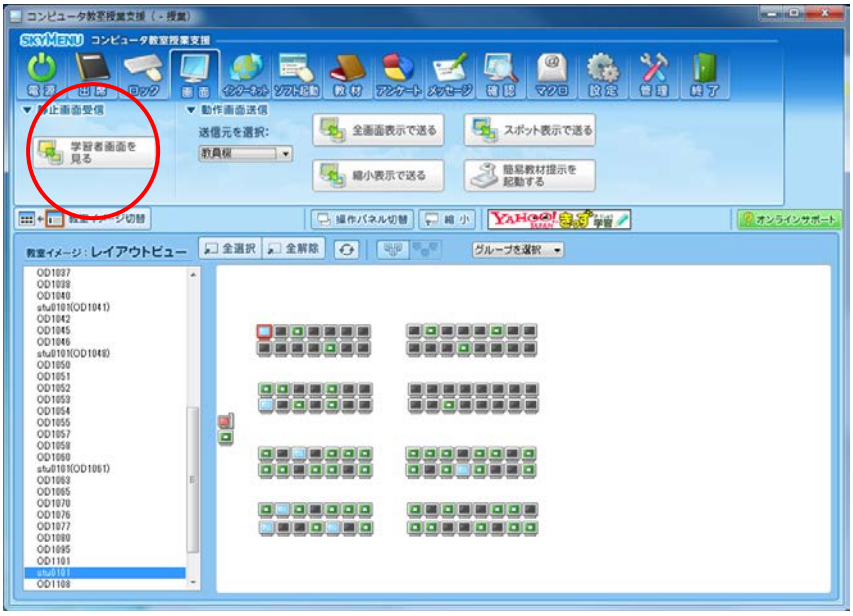
①画面を受信したい学生用パソコンのアイコンを選択します。



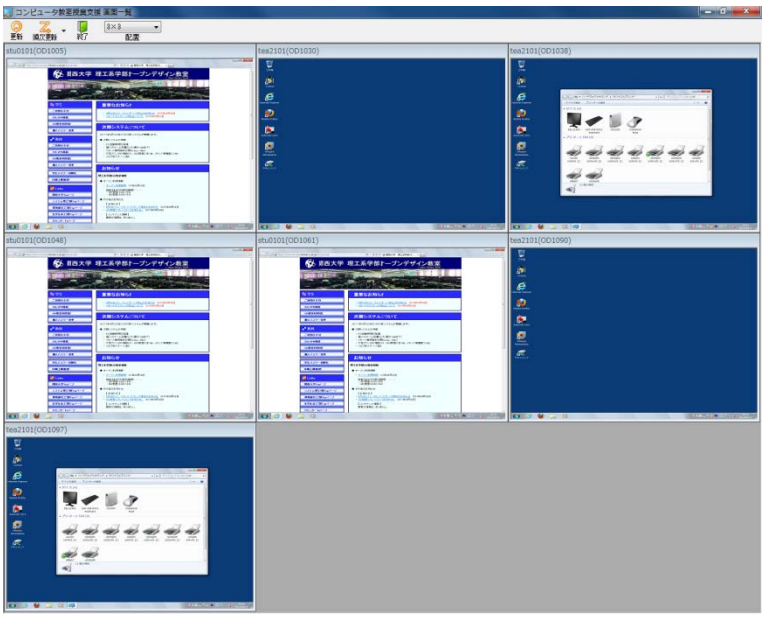
②メニューの「画面」をクリックします。



③「静止画面受信」の「学習者画面」をクリックします。



④「コンピュータ教室授業支援画面一覧」に学生用パソコンの画面が表示されます。

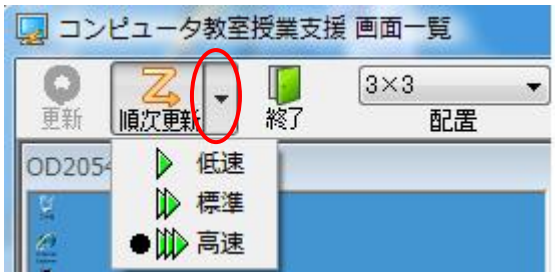


⑤ コンピュータ教室授業支援画面一覧のツールバーの機能説明

A　　B　　C　　D

A. 学生用パソコンの画面を現在の状態に更新します。
B. 学生用パソコンの画面を順番に更新します。
C. 学生用パソコンの画面の確認を終了します。
D. 学生用パソコンの画面の表示数を「１×１」～「８×８」まで選ぶことができます。
「レイアウト」を選ぶと教室のイメージの並びで表示されます。

⑥「順次更新」ボタンの右横の「▼」をクリックすると、画面の更新速度を切り替えることができます。

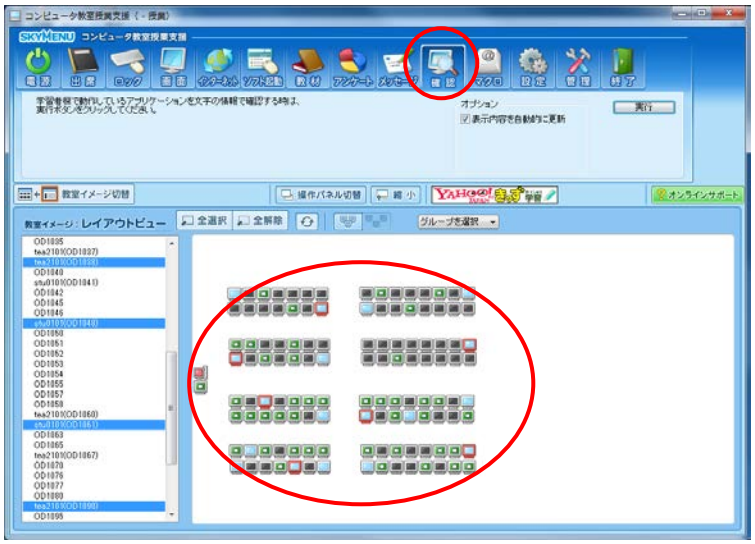


⑦ ウィンドウの「終了」をクリックすると、終了します。

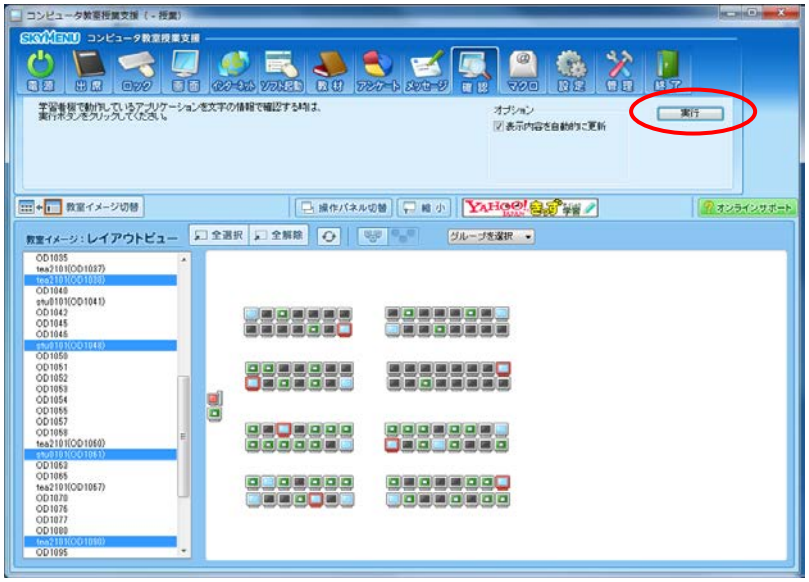
4.6.2. 学生用パソコンで現在使用されているソフトウェアの確認方法

学生用パソコンで使われているアクティブウィンドウのタイトル名を表示できます。

①確認したい学生用パソコンのアイコンを選択し、「確認」をクリックします。



②「実行」をクリックします



※自動で表示内容を更新したい場合は「表示内容を自動的に更新」をチェックします。

③学生用パソコンで、現在使用されているソフトウェアが確認できます。

④「更新」をクリックすると、動作確認画面を更新します。

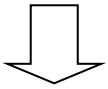
⑤「閉じる」をクリックすると終了します。

4.6.3. 学生用パソコンの画面監視と教員用パソコンの画面送信を同時に行う方法

学生用パソコンの画面を監視しながら、教員用パソコンの画面の送信を行うことができます。

手順は、以下のとおりです。

①学生用パソコンの画面を教員用パソコンで受信
（詳細:4.6.1 学生用パソコンの画面を静止画として監視を参照）



②教員用パソコン画面を学生用パソコンに送信
(詳細：4.2 教員 PC の画面を学生 PC に送信を参照)

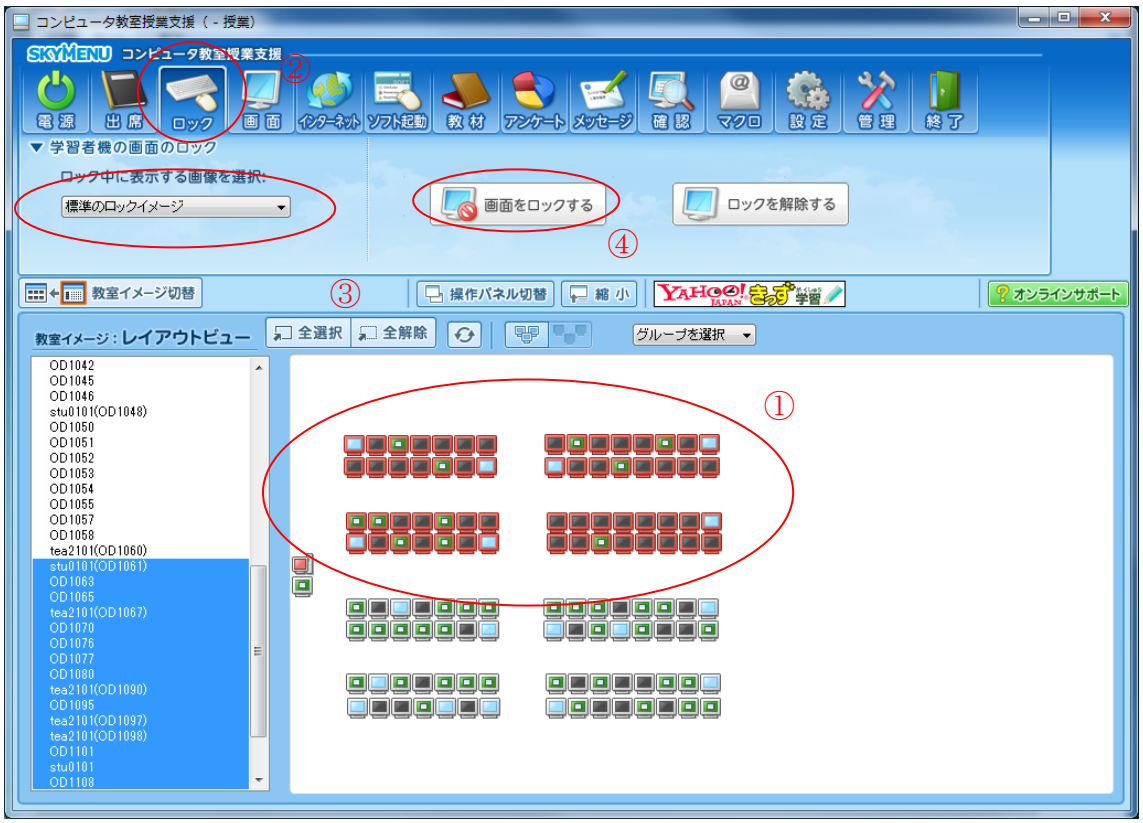
上記のとおり、先に学生用パソコンの画面を受信し、次に教員用パソコンの画面を送信します。

先に教員用パソコンの画面を送信してしまうと、学生用パソコンの受信ができません。順番を間違えないように御注意下さい。

4.7.　学生 PC の画面、キーボード/マウスのロック

学生用パソコンのキーボードとマウスを強制的にロックして、使用できないようにできます。

①ロックしたい学生用パソコンを選びます。
②メニューの「ロック」をクリックします。
③ロック中に表示する画像を選択」の「標準ロックイメージ」を選択します。その際「学習者の画面のまま」もしくは「標準ロックイメージ」を選択します。
　※他にもロックイメージを転送で「任意の画像を転送して表示」することも可能です。
④「画面をロックする」をクリックします。



4.8.　電源 ON／ログオン／再起動／ログオフ／電源 OFF

学生用パソコンの電源機能を制御します。

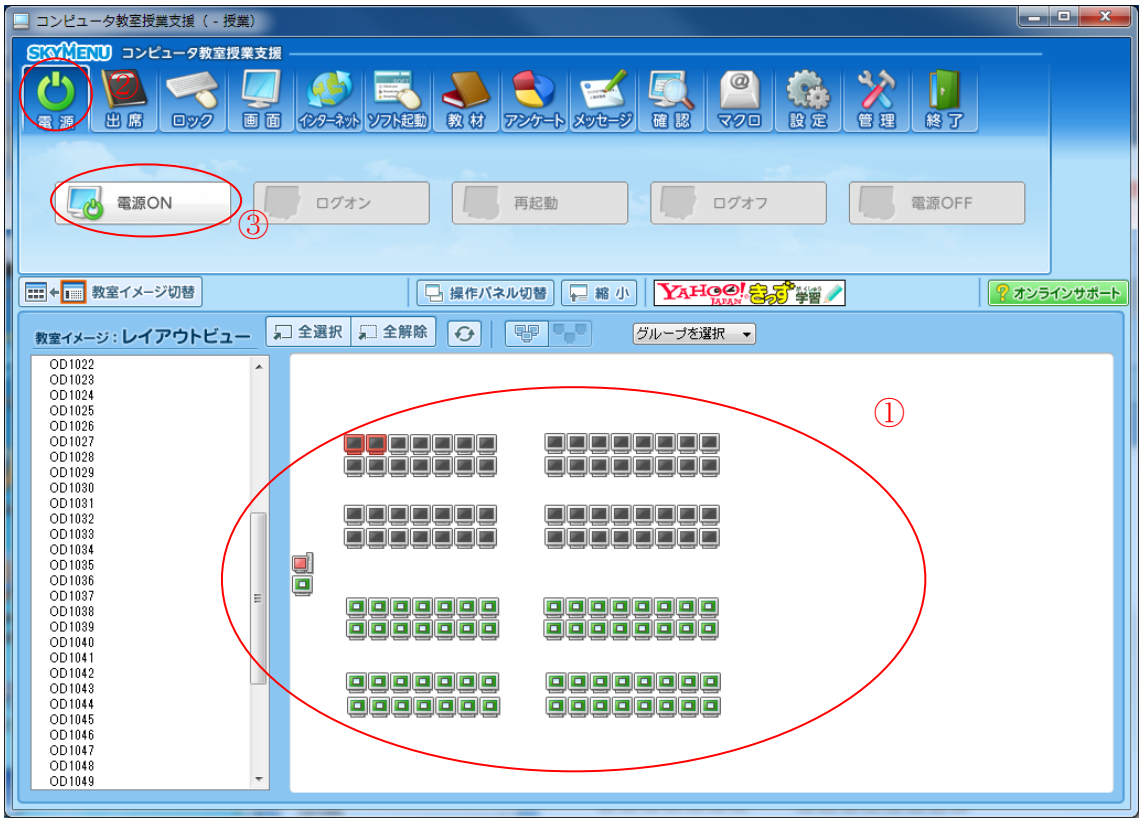
4.8.1.　電源 ON

学生用パソコンの電源を遠隔で起動することができます。

①電源を入れたい学生用パソコンを選択します。

②メニューの「電源」をクリックします。

③「電源 ON」をクリックします。
　学生用パソコンの電源が起動します。



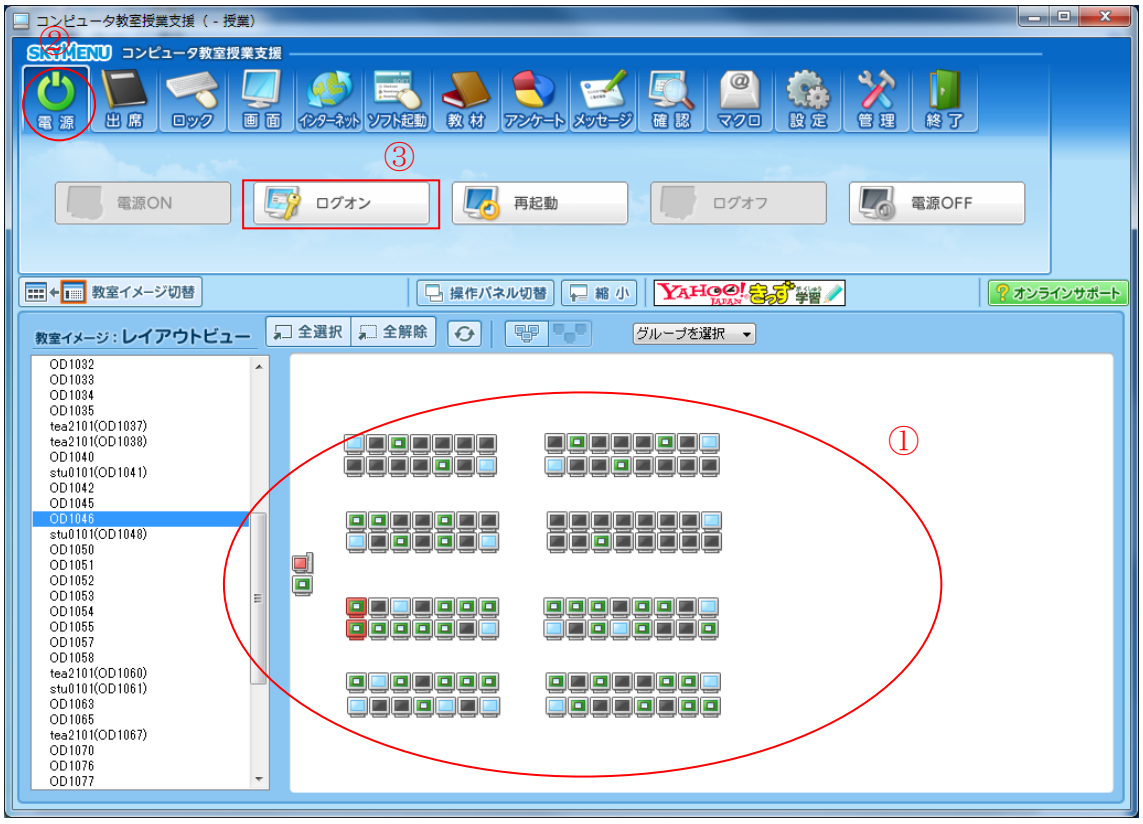
4.8.2. ログオン

指定したユーザ、パスワードでのログインが可能です。

①ログオンさせたい学生用パソコンを選択します。

②メニューの「電源」をクリックします。

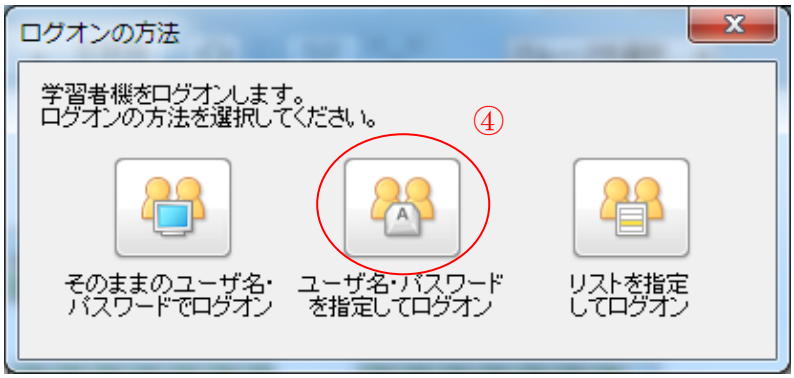
③「ログオン」をクリックします。



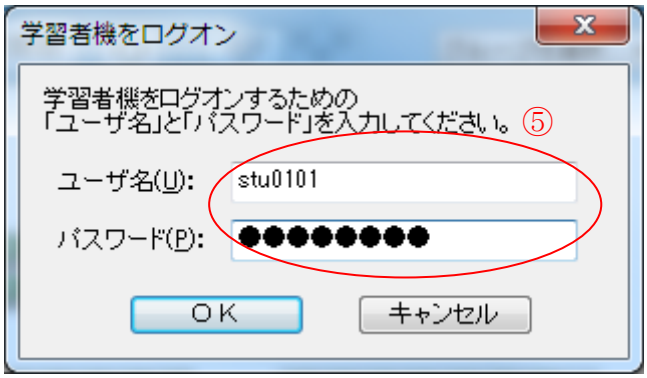
④「ログオンの方法」のウインドウが立ち上がります。

「そのままのユーザ名・パスワードでログオン」・「ユーザ名・パスワードを指定してログオン」・「リストを指定してログオン」のいずれかを選択。

（今回はユーザ名とパスワードを指定してログオン

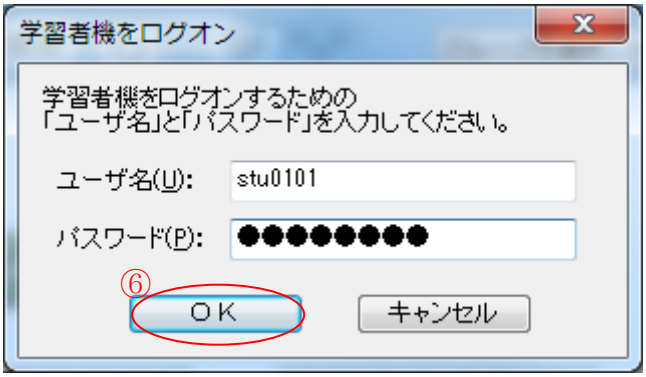


⑤「ユーザ名」と「パスワード」を入力します。



⑥「OK」をクリックします。

学生用パソコンがログオンします。



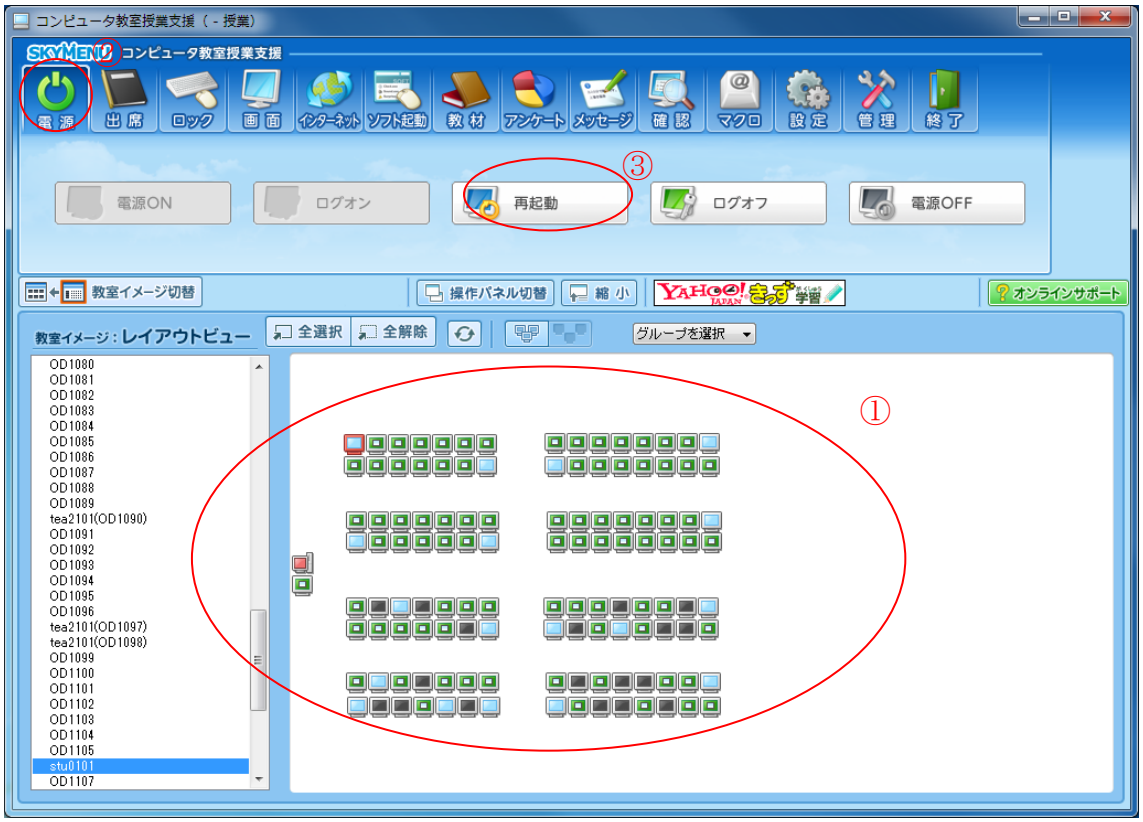
4.8.3. 再起動

学生用パソコンを遠隔で再起動させることができます。

①再起動させたい学生用パソコンを選択します。

②メニューの「電源」をクリックします。

③「再起動」をクリックします。
※学生用パソコンで編集中のファイルなどがあった場合、保存するかどうかの
確認メッセージがその時使用しているソフトにより表示されることがあります。
このとき再起動が一時的に中断され、学生がファイルを保存するか選択できます。



選択した学生用パソコンが再起動します

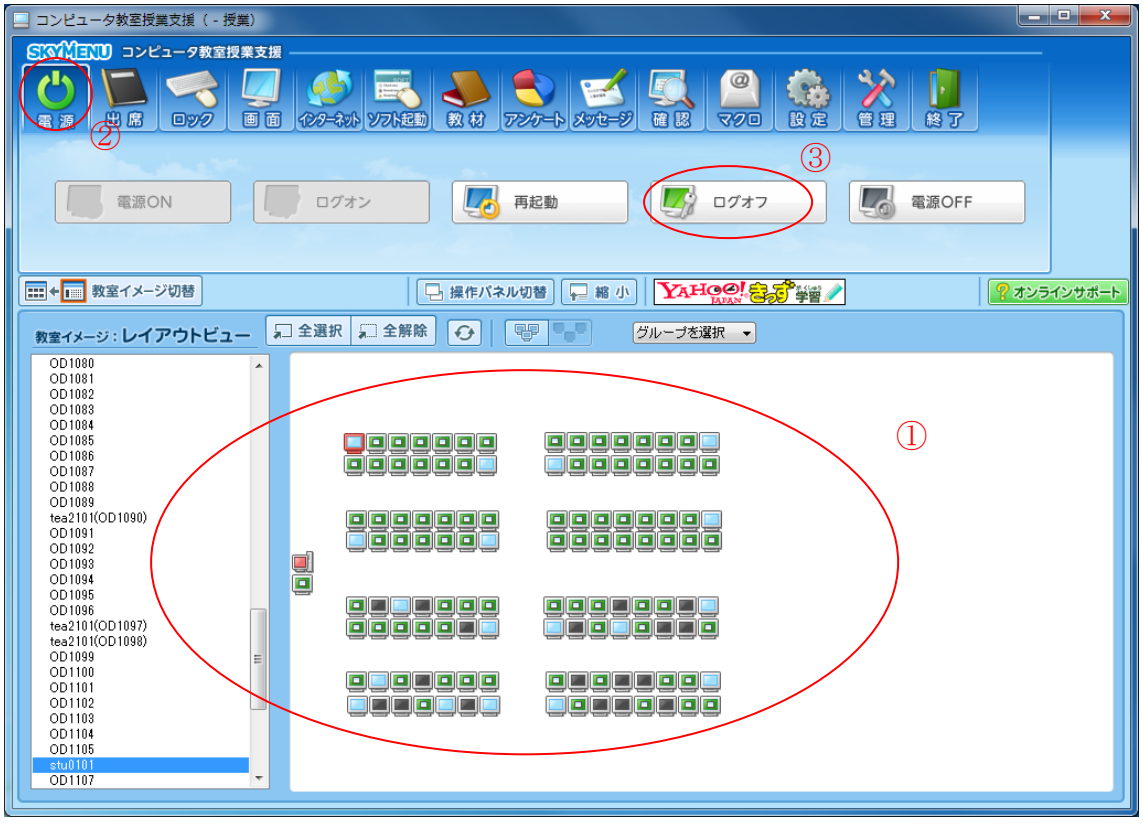
4.8.4. ログオフ

学生用パソコンを遠隔でログオフさせることができます。

①ログオフしたい学生用パソコンを選択します。

②メニューの「電源」をクリックします。

③「ログオフ」をクリックします。
※学生用パソコンで編集中のファイルなどがあった場合、保存するかどうかの
確認メッセージがその時使用しているソフトにより表示されることがあります。
このときログオフが一時的に中断され、学生がファイルを保存するか選択できます。



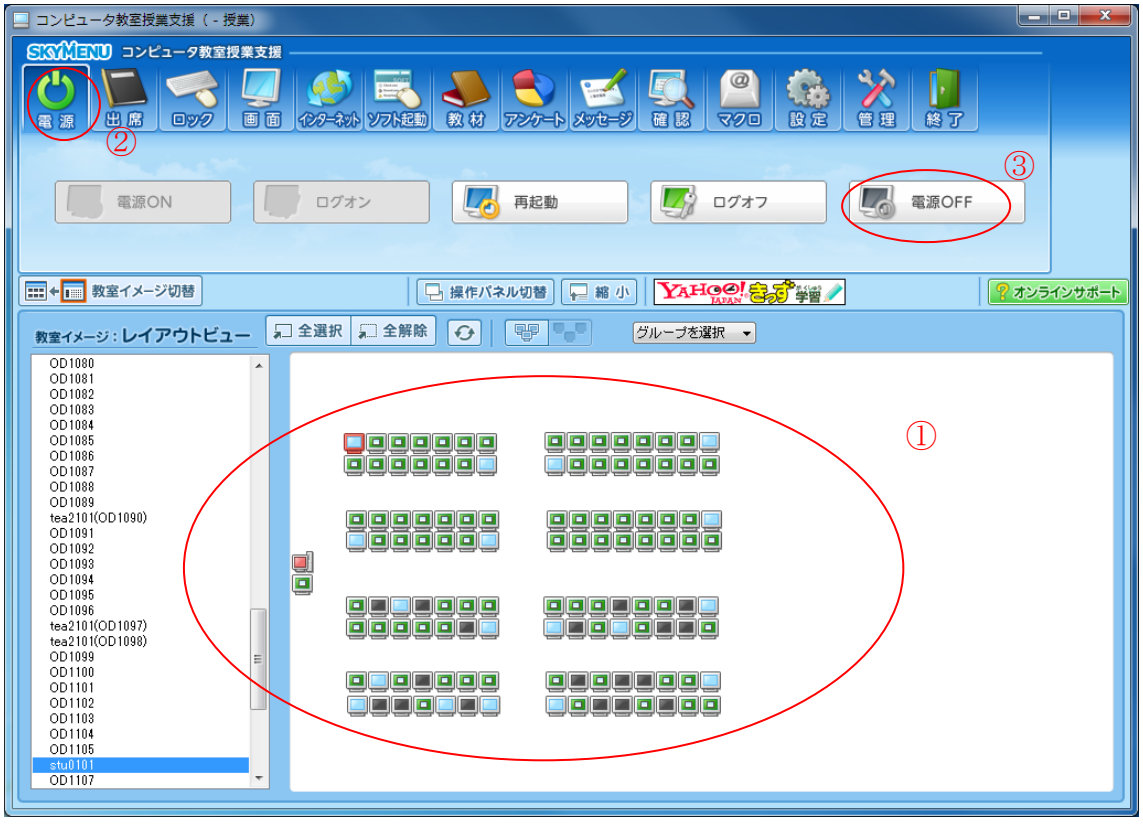
4.8.5. 電源オフ

学生用パソコンの電源を遠隔で切ることができます。

①電源を切りたい学生用パソコンを選択します。

②メニューの「電源」をクリックします。

③「電源 OFF」をクリックします。
※学生用パソコンで編集中のファイルなどがあった場合、保存するかどうかの
確認メッセージがその時使用しているソフトにより表示されることがあります。
このとき再起動が一時的に中断され、学生がファイルを保存するか選択できます。

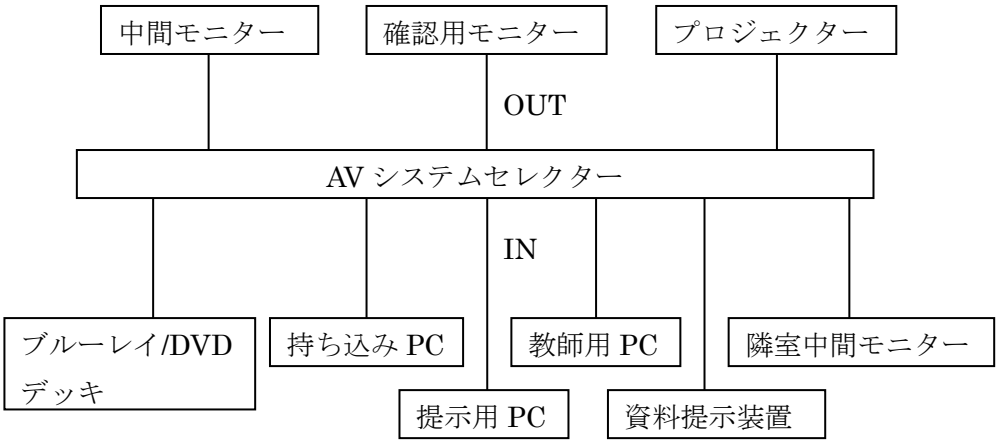


4.9. 映像配信手順

ODLE システムでは、映像切替機を使用して、ブルーレイ/DVD デッキ・資料提示装置・教員用 PC・提示用 PC・持ち込み PC・隣室中間モニターの映像を中間モニターとプロジェクターに映像を配信します。

映像配信を行う場合の構成外略図は以下の通りです。

機器構成レイアウト



本章では、映像配信の手順について記述します。

4.9.1. 準備と終了

- **準備**

  教員卓上の“AV システムコントロールパネル”の「AV 電源」スイッチを押し、AV 機器の電源を入れます。

  機器ラック内各機器の電源と中間モニターの電源が入ります。

  （マイクも使用可能となります）

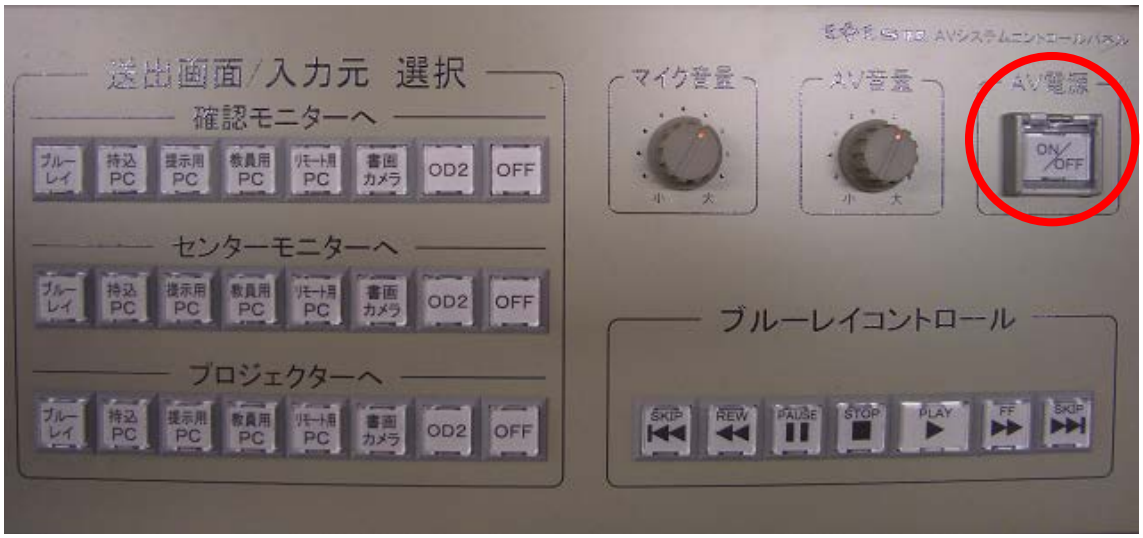
- **終了**

ブルーレイ/DVD の使用したディスクを取り出した後、教員卓上の“AV システムコントロールパネル”の「AV 電源」スイッチを押し、AV 機器の電源を切ります。

機器ラック内各機器の電源と中間モニターの電源が切れます。

（PC やプリンター電源とは連動しておりません）

AV コントロールパネル



4.9.2. ブルーレイまたは DVD を投影する

① AV 機器ラック内のブルーレイ/DVD デッキにブルーレイまたは DVD ディスクを入れます。

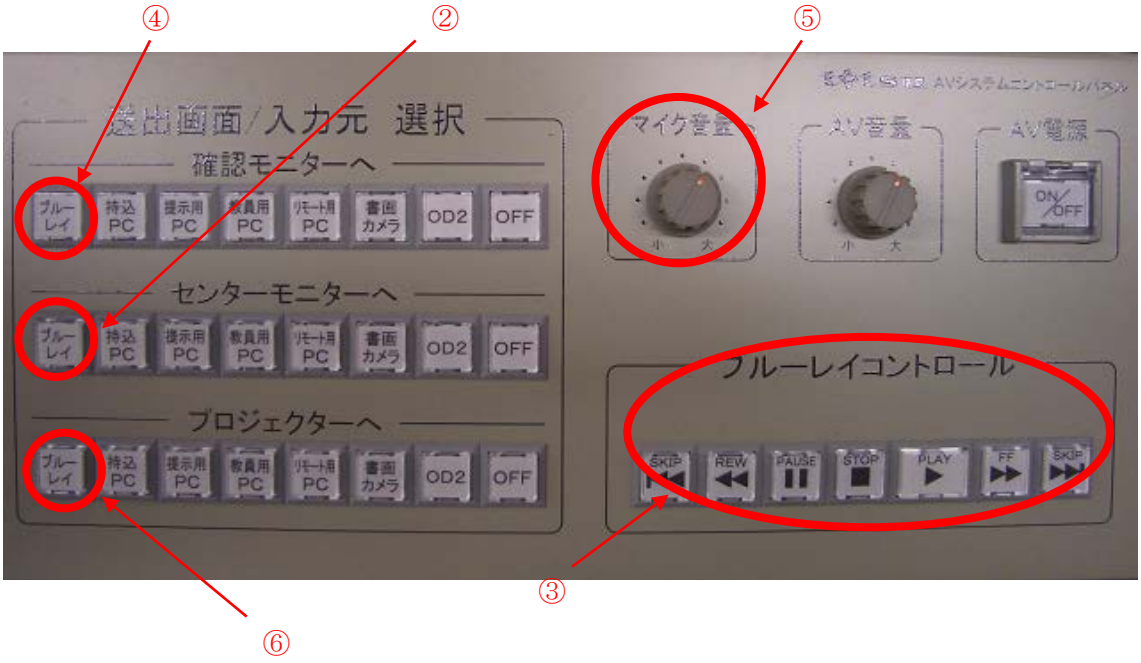
② コントロールパネル「確認モニター」部で「ブルーレイ」を選びます。

③ 映像確認をし、必要に応じて頭だし等の操作を行ってください。
（メニュー操作等は本体付属のリモコンで行います）

④ 送出準備が出来ましたら、「センターモニター」部で「ブルーレイ」を選び、送出を開始します。

⑤ 中間モニター送出中メディアの音量調整は、「AV 音量」ボリュームで行います。

⑥ プロジェクターを接続して送出する場合は、「プロジェクター」部で選んでください。



4.9.3. 持ち込み PC を投影する

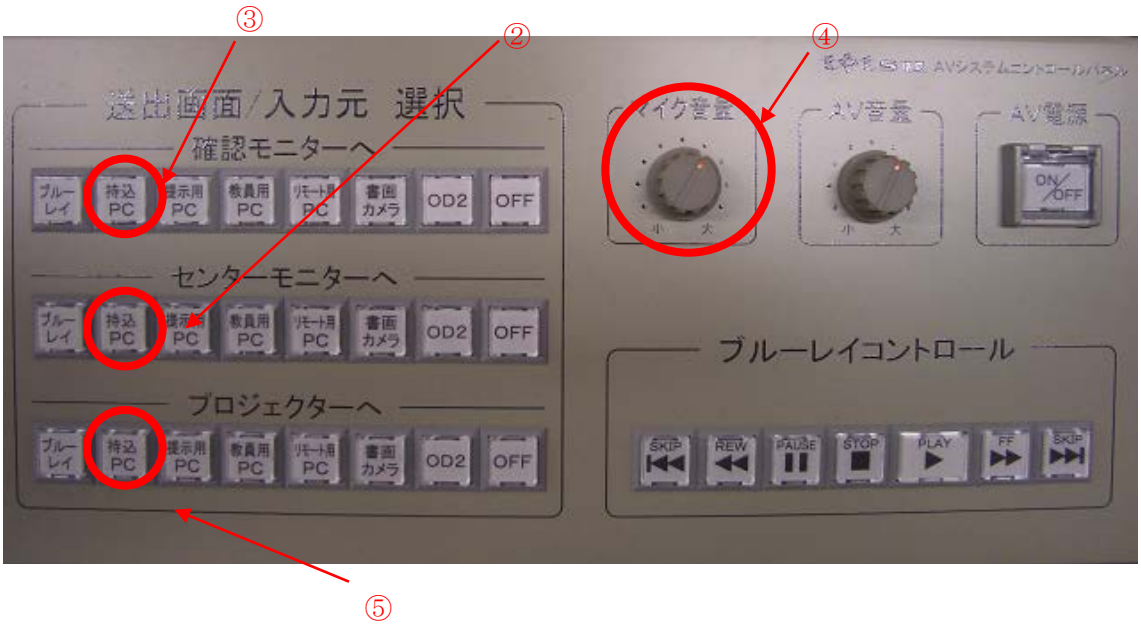
① 教員卓上に出ている、持込 PC 用接続ケーブルを繋ぎます。

② コントロールパネル「確認モニター」部で「持込 PC」を選びます。

③ 送出準備が出来ましたら、「センターモニター」部で「持込 PC」を選び、送出を開始します。

④ 中間モニター送出中メディアの音量調整は、「AV 音量」ボリュームで行います。

⑤ プロジェクターを接続して送出する場合は、「プロジェクター」部で選んでください。



※持ち込み PC の映像が出ない場合

PC を接続位置に接続しても映像が出ない場合は、PC 側の外部出力の設定がなされていない可能性があります。

外部出力の切り替え方法は PC のメーカーによって異なりますので、下記の表を参考に行なってください。

１度押すとディスプレイ画面が消え、外部に切り替わります。

２度押すとディスプレイと外部の両方に映像が出ます。

NEC製	Panasonic製	東芝製	IBM製	SONY製	富士通製
Fn+F3	Fn+F5	Fn+F5	Fn+F7	Fn+F7	Fn+F10

4.9.4. 提示用 PC 或いは教員用を投影する

① コントロールパネル「確認モニター」部で「提示用 PC」或いは「教員用 PC」を選びます。

② 送出準備が出来ましたら、「センターモニター」部で「提示用 PC」或いは「教員用 PC」を選び、送出を開始します。

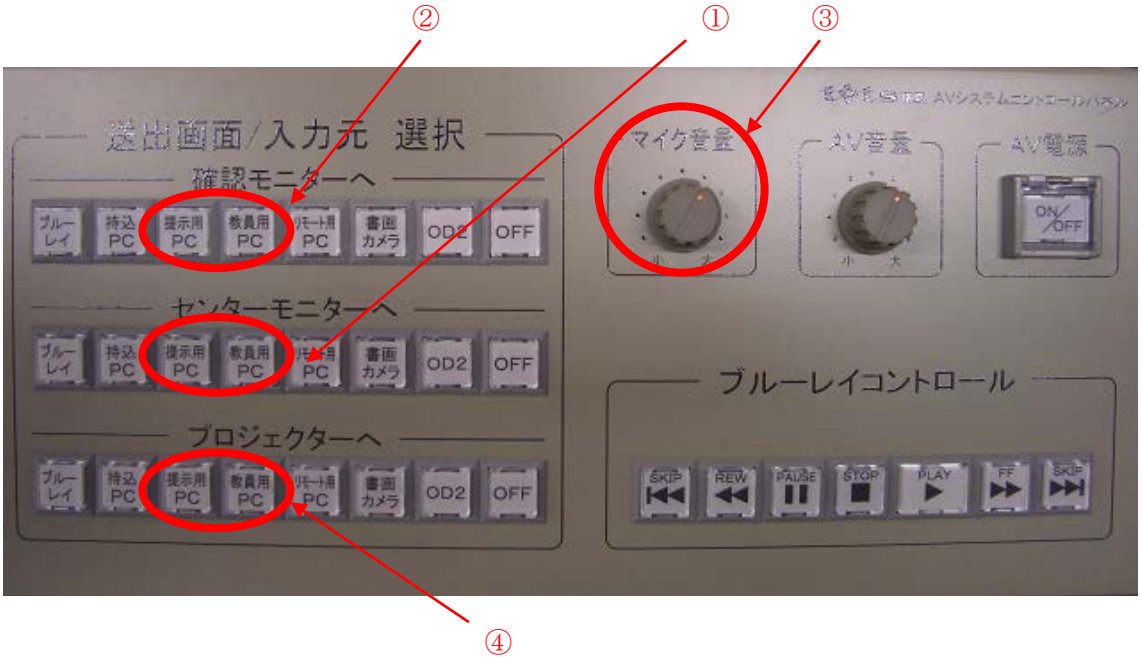
③ 中間モニター送出中メディアの音量調整は、「AV 音量」ボリュームで行います。

④ プロジェクターを接続して送出する場合は、「プロジェクター」部で選んでください。

※注意

提示用 PC と教員用 PC の同時送出選択は出来ません。

（異なった送出先を選択できません）



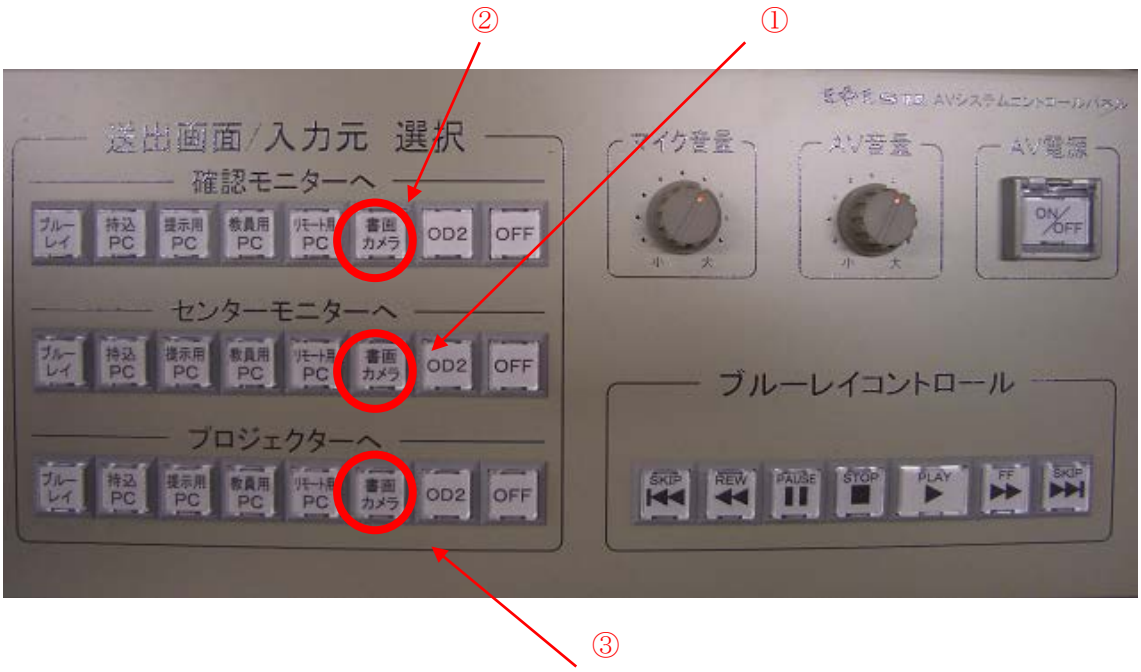
4.9.5. 書画カメラを投影する

① 教員卓上の書画カメラを準備し、本体の電源スイッチを入れます。

② コントロールパネル「確認モニター」部で「書画カメラ」を選びます。
映像確認をし、必要に応じて機器本体で「ZOOM」等の操作を行います。

③ 送出準備が出来ましたら、「センターモニター」部で「書画カメラ」を選び、送出を開始します。

④ プロジェクターを接続して送出する場合は、「プロジェクター」部で選んでください。



4.9.6. 合同授業を行う

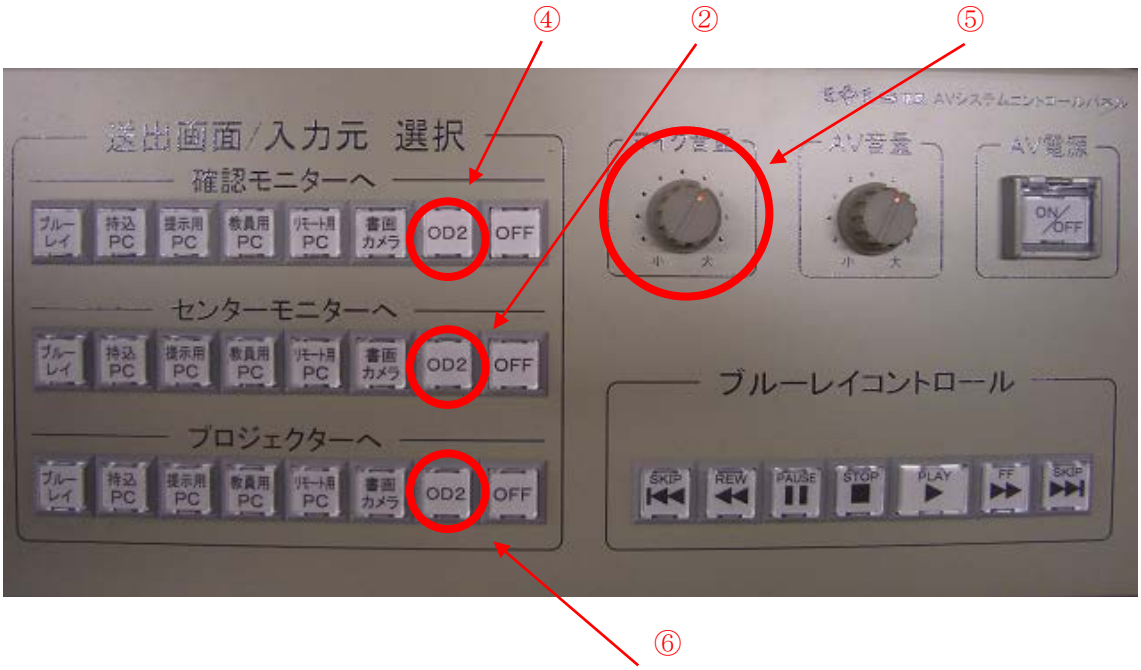
① コントロールパネル「確認モニター」部で「OD1」或いは「OD2」を選びます。
この時に表示される画像は、隣室の中間モニターに表示されている画像です。

② 送出準備が出来ましたら、「センターモニター」部で「OD1」或いは「OD2」を選び、送出を開始します。

③ 中間モニター送出中メディアの音量調整は、「AV 音量」ボリュームで行います。

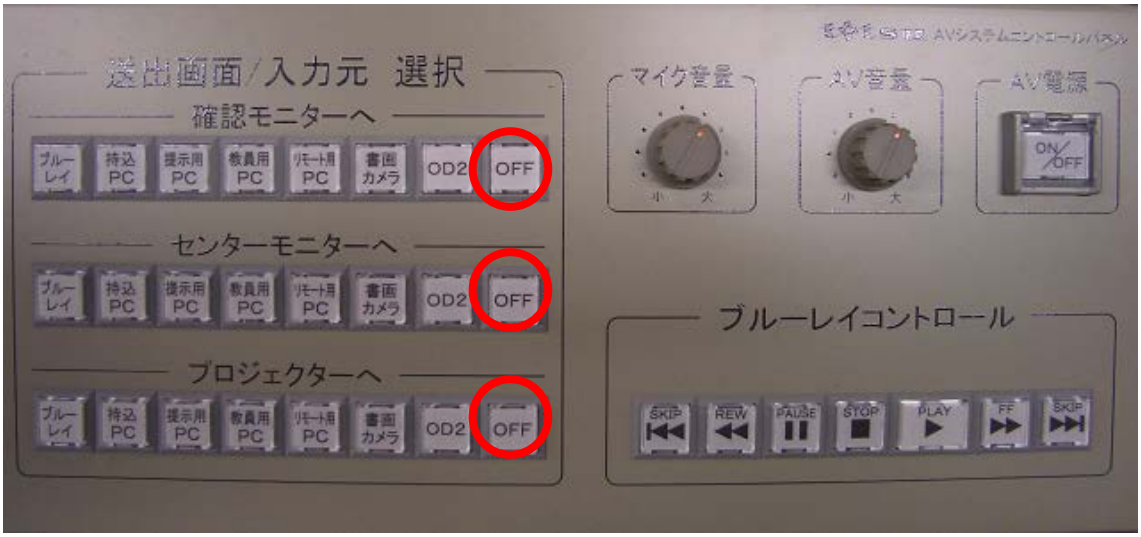
④ プロジェクターを接続して送出する場合は、「プロジェクター」部で選んでください。

※マイクを合同使用する場合は、既存のアンプで切り換えてください。



4.9.7. 画像送出を行わない

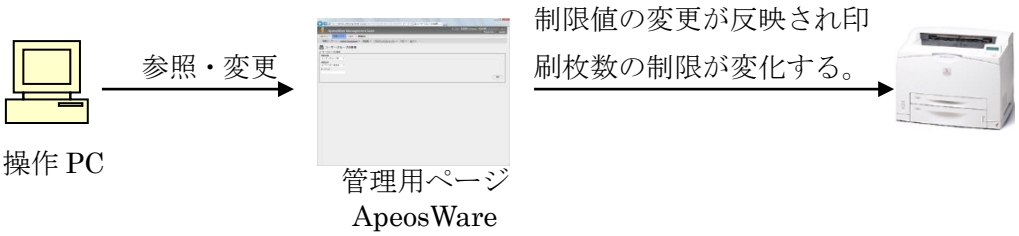
① 画面送出を一時的にやめる場合は、「送出画面選択」部で「OFF」を選んでください。



5.　プリント管理手順

ODLE システムでは、各 OD 教室利用者のプリンタ管理を行っています。
プリンタ管理を利用することで、プリンタ利用者に対して 1 ヵ月間にプリントできる枚数を制限・把握することができます。
プリント管理を利用することができるのは、各教員になります。
プリンタ管理は、富士ゼロックスの ApeosWare Management Suite サーバによって実現しています。
プリンタ管理の機能としては以下の項目があります。

・ユーザ別 現時点のプリント枚数・制限枚数の表示、制限値の変更
　プリント管理用ページにアクセスし、現状の枚数の参照及び制限値の変更を行うことができます。変更した結果は、随時反映されます。
　なお、現状の制限値の設定は学生がモノクロ 180 枚/カラー20 枚、教員は無制限となっております。



本章では、以下の項目について記述します。

5.1. 現時点のプリント枚数・制限枚数の管理

5.1. 現時点のプリント枚数・制限枚数の表示、上限値の変更

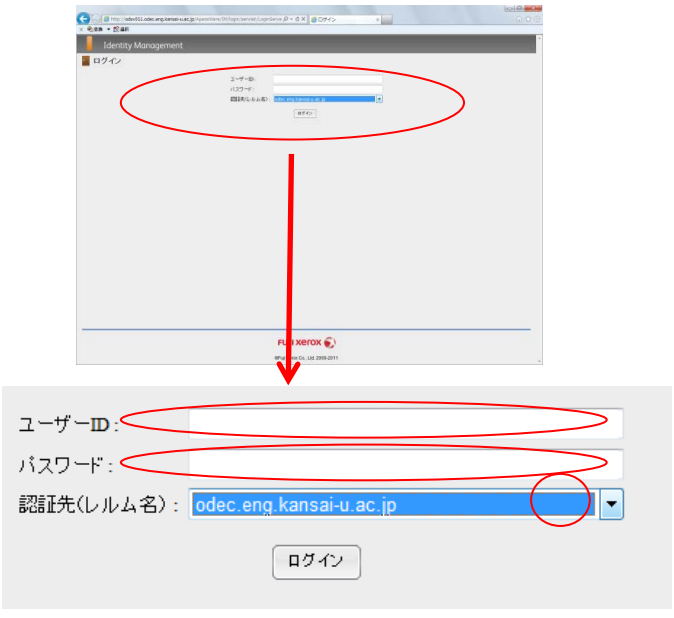
プリンタ管理作業は、管理 WEB 画面を利用して行います。
教員・TA のプリンタ管理権限をもつユーザでの作業となります。

① デスクトップの Internet Explorer または Mozilla Firefox のアイコンをダブルクリックし、WEB ブラウザを起動します。(以降の説明は Internet Explorer を使用した場合のものです。)

② Internet Explorer のアドレス欄に ODLE システムトップページ画面の URL を入力し、Enter キーを押下または Internet Explorer の「移動」ボタンをクリックします。
ODLE システムトップページ画面の URL：
http://www.od.eng.kansai-u.ac.jp/

③ 表示されるトップページの左にある「教員」から、「印刷上限値変更」リンクをクリックします。

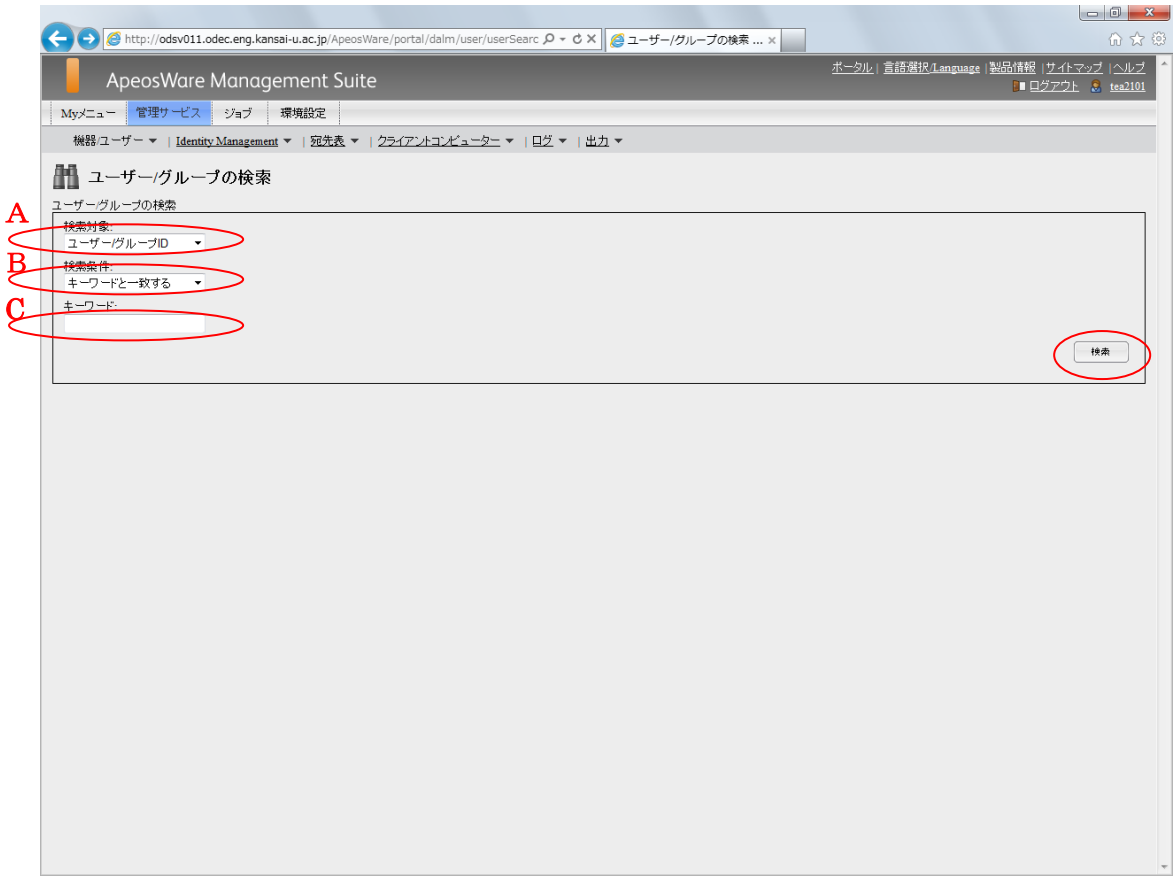
④ ログイン画面が表示されます。
教員ご自身のユーザ名・パスワードを入力し、プルタブで「odec.eng.kansai-u.ac.jp」を選択して「ログイン」ボタンをクリックします。



⑤ ApeosWare Management Suite「ユーザ/グループの検索」画面が表示されます。
表示方法を決定し、「検索」ボタンをクリックします。

A. 検索対象：検索する対象を選択します。
B. 検索条件：キーワードの検索条件を選択します。
C. キーワード：検索するキーワードを指定します。

（本章では、すべてのユーザ情報を見る方法を例示します）



⑥ 検索条件に合致したユーザの一覧が表示されます。

表示はそれぞれ以下の意味になっています。

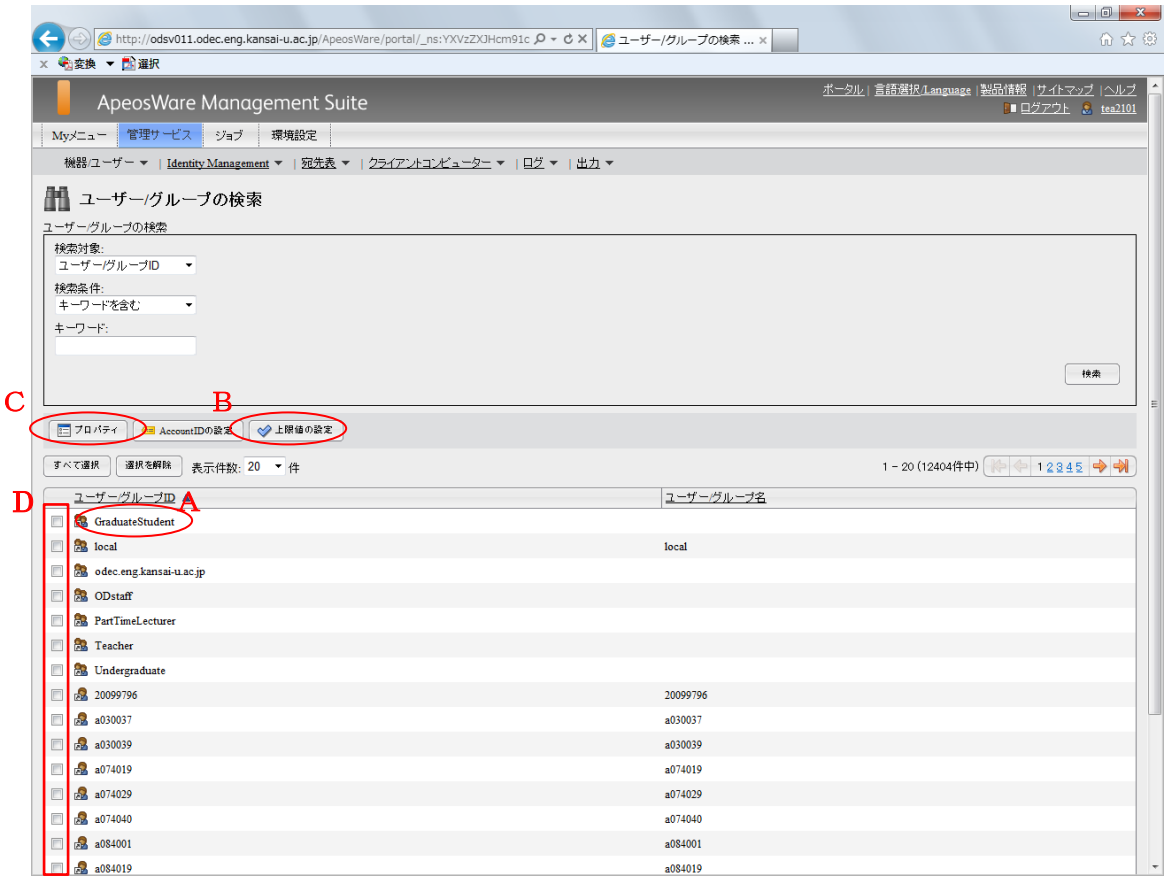
A. 個人・グループ名/ID：Windows ログオン時に利用するユーザ名です。

B. 上限値の設定：上限値の設定画面を表示します。

C. プロパティ：選択したユーザのプロパティ画面を表示します。

D. チェックボックス：情報を閲覧したいユーザを選択します。

※ユーザは複数選択できません。

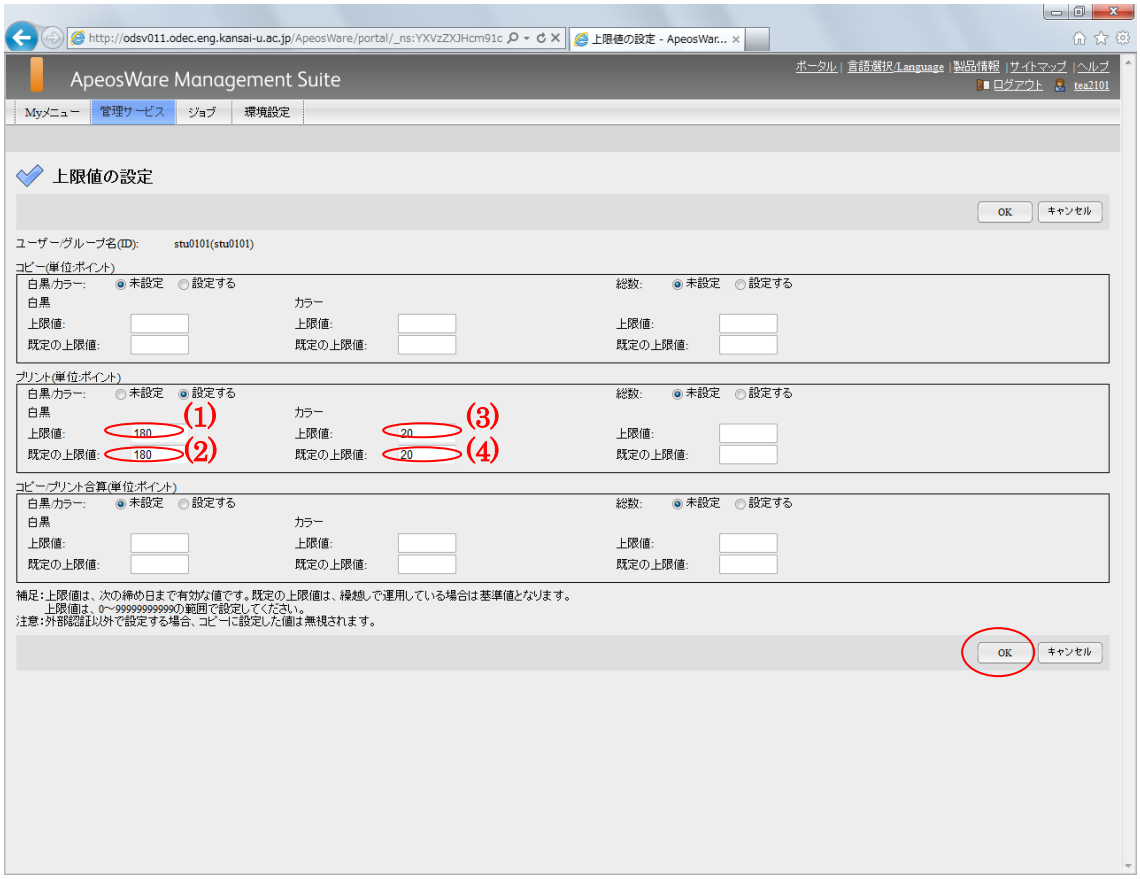


ユーザのプリント枚数の上限値などの確認や変更を行わない場合は、Internet Explorer（Web ブラウザを）を終了します。変更する場合は、次のステップへ進みます。

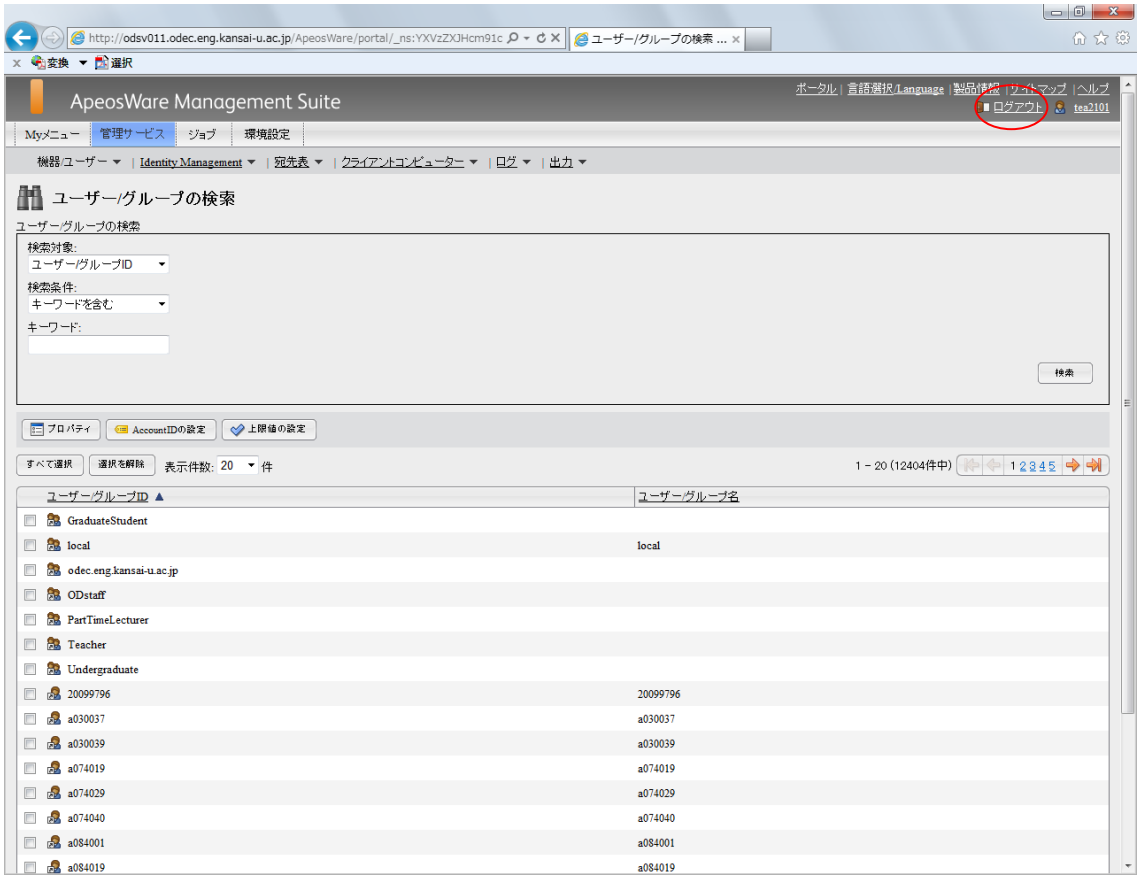
⑦ ⑥でユーザを指定し、「上限値の設定」ボタンを選択すると「上限値の設定」画面が表示されます。

（ここでは stu0101 を選択しています）

「白黒：上限値」「白黒：既定の上限値」「カラー：上限値」「カラー：既定の上限値」に、それぞれのプリントを許可する枚数を入力し、「OK」ボタンをクリックします。



⑧ 上限値の変更が完了し、検索画面に戻ります。



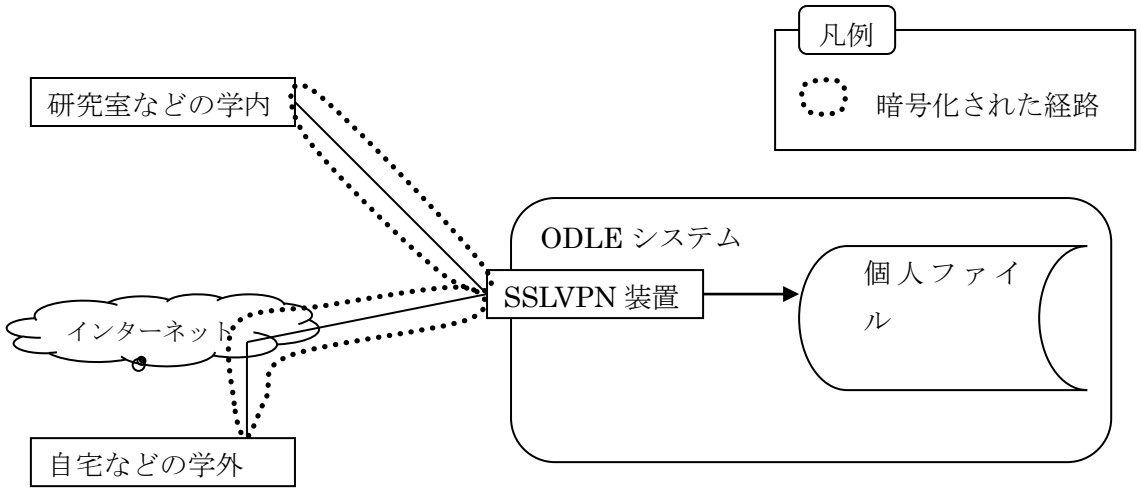
他のユーザに変更を加えない時は、ログアウトをクリックし、Internet Explorer（Web ブラウザを）を終了します。

6. SSLVPN 接続手順

ODLE システムには、自宅などのリモート環境から OD 教室のファイルサーバを利用することができる SSLVPN 機能が用意されています。

自宅や研究室などから、SSLVPN 装置を経由して ODLE システムへ接続することで、通信経路を暗号化します。

＜イメージ図＞



SSLVPN 接続の利用対象者は ODLE システムを利用可能な方です。

本章では、以下の SSLVPN 機能の利用手順について説明します。

6.1 OD 教室トップページへアクセス
6.2 SSLVPN 接続
6.3 ファイルサーバの利用
6.4 SSLVPN 接続の終了

リモートデスクトップについては、次章にて説明します。

6.1. OD 教室トップページへアクセス

SSLVPN 接続を行う場合、まず「OD 教室トップページ」にアクセスします。

「OD 教室トップページ」へのアクセスは以下のようになります。

① 普段ご使用になられている Internet Explorer または Mozilla Firefox などの WEB ブラウザを起動します。(以降の説明は Internet Explorer を使用した場合のものです。)

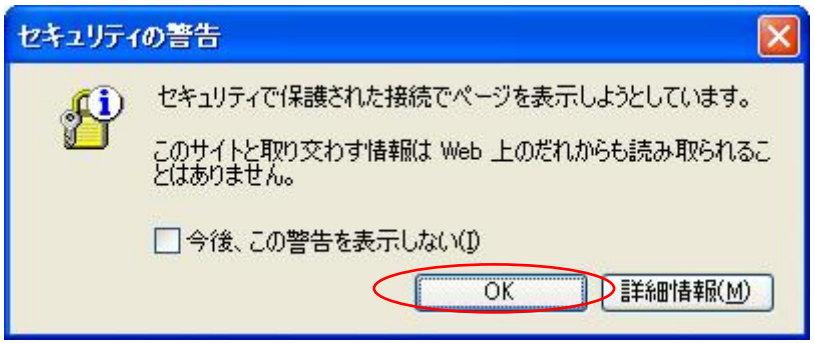
② Internet Explorer のアドレス欄に「OD 教室トップページ」の URL を入力し、Enter キーを押下または Internet Explorer の「移動」ボタンをクリックします。
OD 教室トップページの URL：
http://www.od.eng.kansai-u.ac.jp/

6.2. SSLVPN 接続

SSLVPN による接続が行われ暗号化された状態でないと、個人ファイルへのアクセスやリモートデスクトップ機能を利用することはできません。
SSLVPN への接続方法を説明します。

① 表示されるトップページの左にある「教員」から「SSLVPN 接続」をクリックします。

② 暗号化を行うため以下の「セキュリティの警告」ダイアログが表示されることがあります。そのときは「OK」ボタンをクリックしてください。



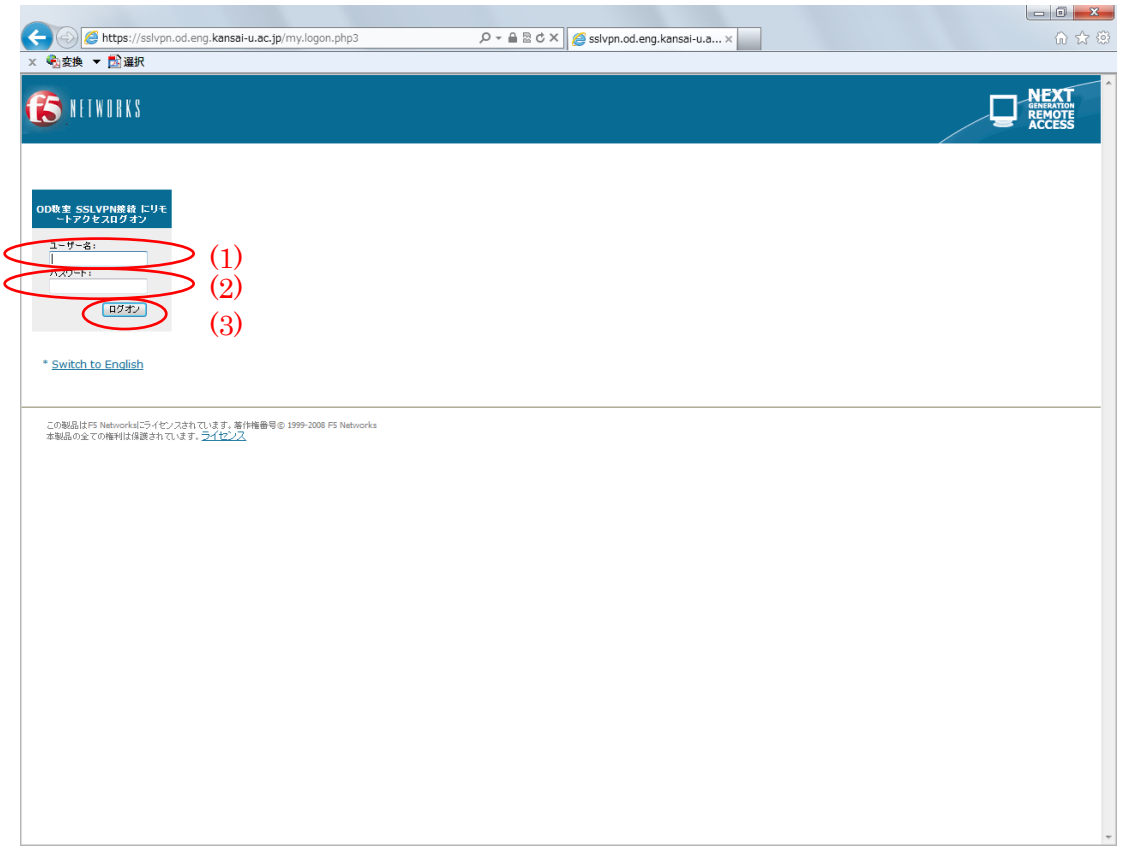
③　「OD 教室 SSLVPN 接続」画面が表示されます。

SSLVPN 接続を開始するためにユーザ名およびパスワードを入力します。

(1)　ユーザ名を入力します。普段 OD 教室で利用しているログイン ID を入力してください。

(2)　パスワードを入力します。普段 OD 教室で利用しているパスワードを入力してください。

(3)　「ログイン」ボタンをクリックしてください。

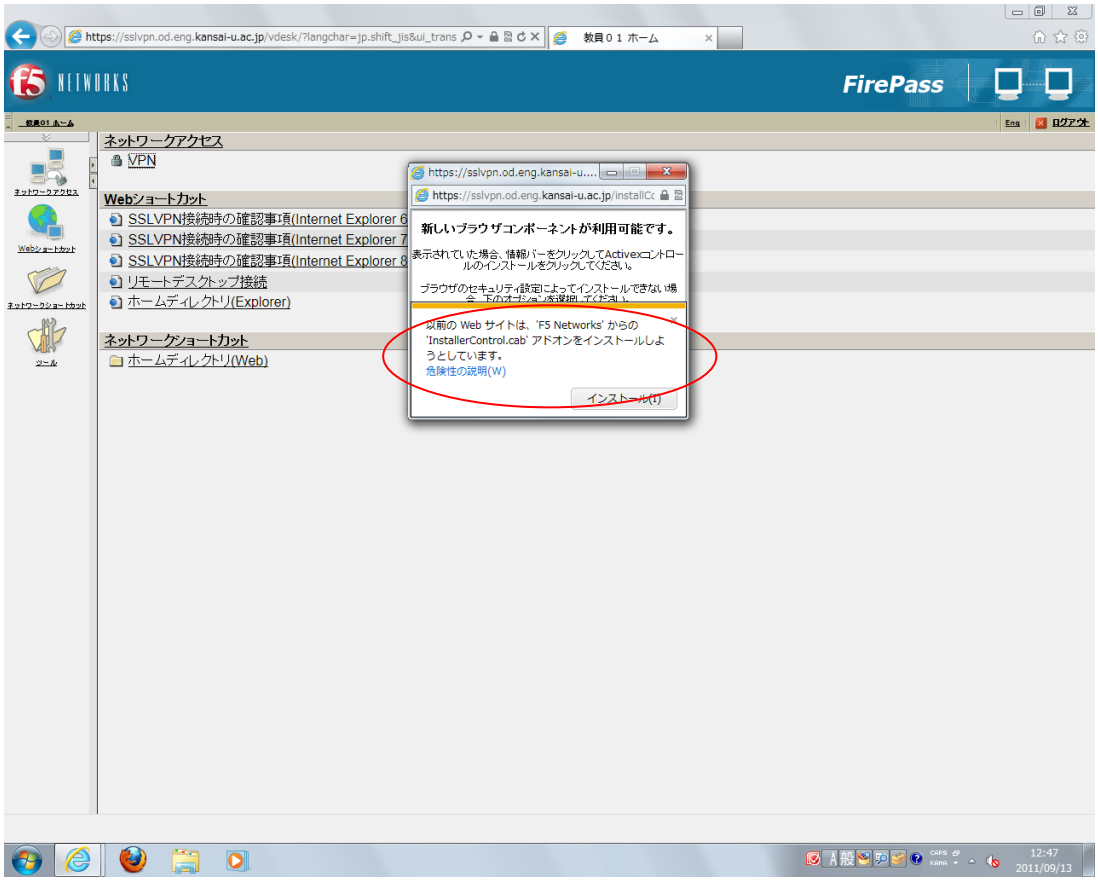


④　ユーザ名パスワードによる認証が行われます。

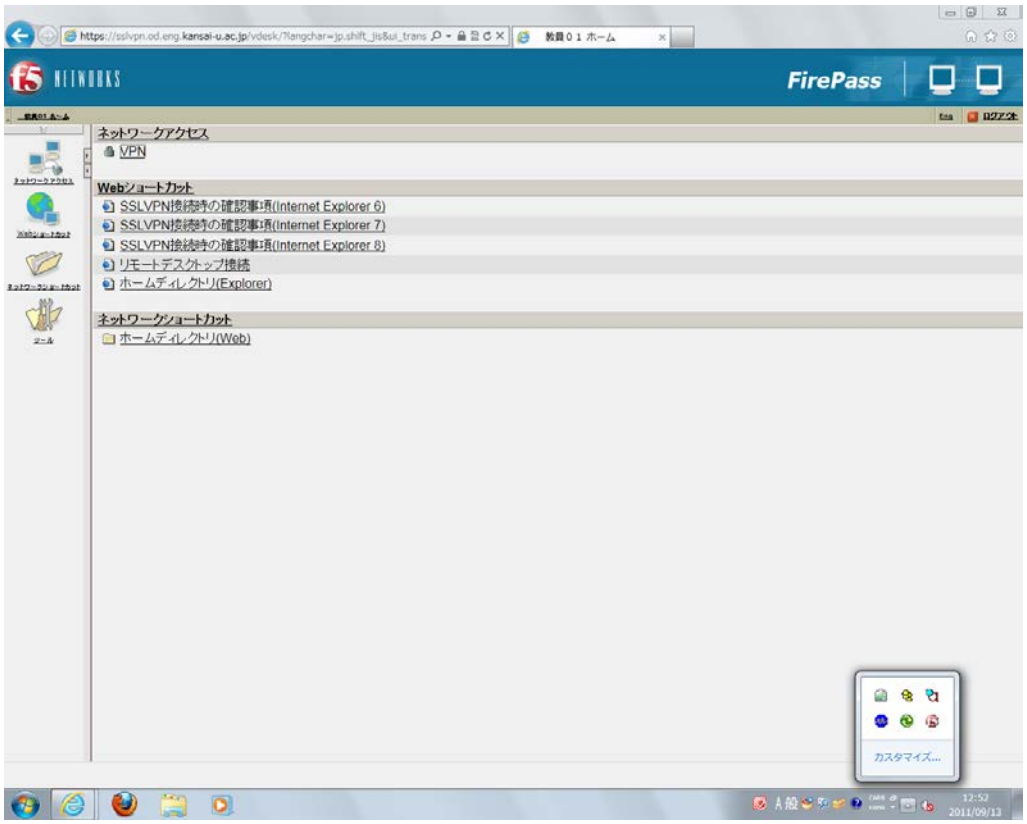
認証が成功すれば SSLVPN 接続を開始します。

初めて SSLVPN に接続する場合、必須プログラムのインストールなどを行うため多少時間がかかります。

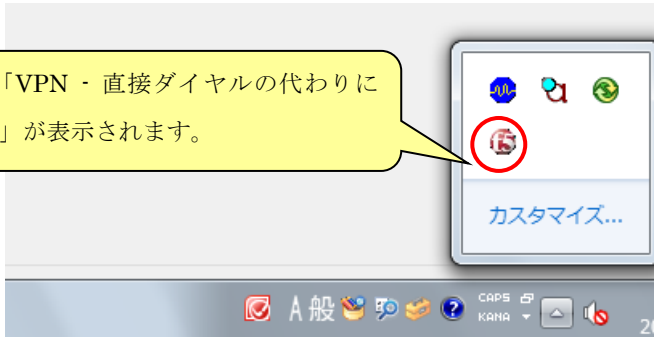
※「情報バー」より「ActiveX コントロールのインストール」を選択してください。



⑤　以下の画面が表示されれば、SSLVPN 接続に成功です。



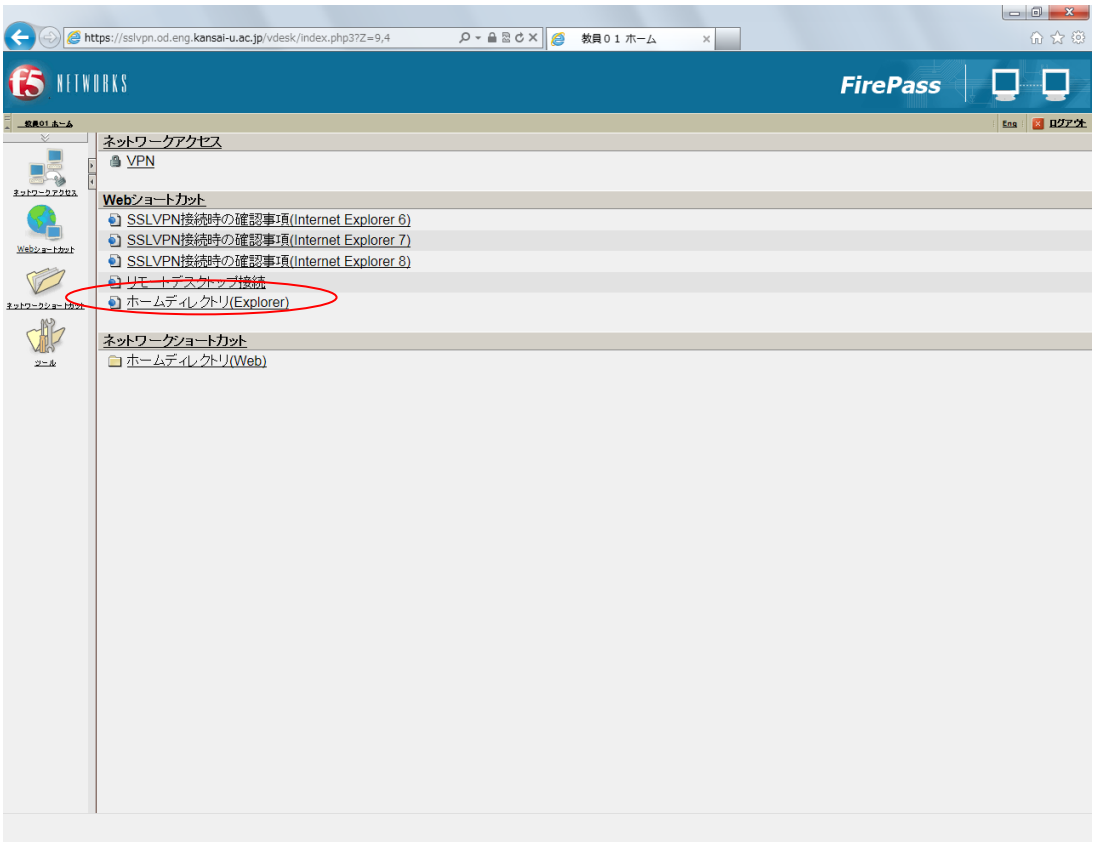
「f5」のアイコンが表示され、「VPN - 直接ダイヤルの代わりに sslvpn.od.eng.kansai-u.ac.jp へ」が表示されます。



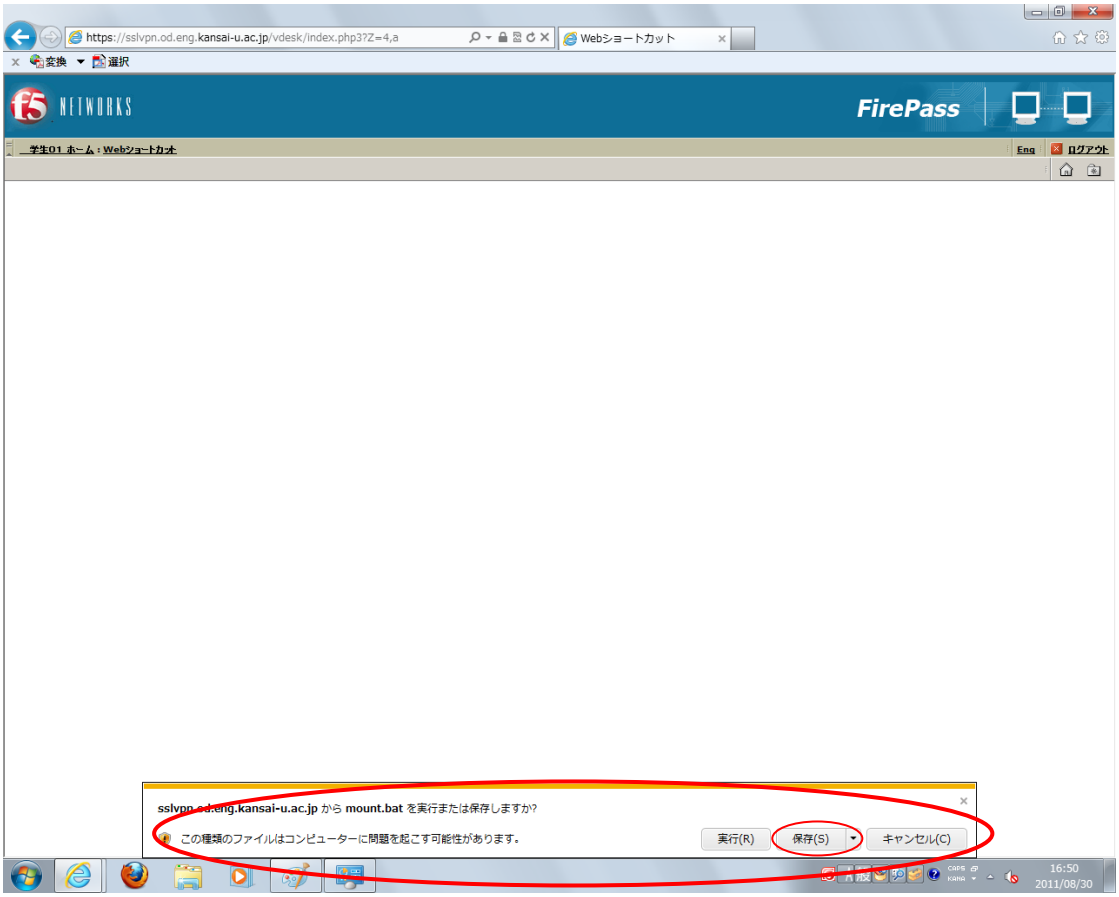
6.3. ファイルサーバの利用

ご利用のパソコンが Windows2000/XP/Vista/7 であれば、エクスプローラによるファイルサーバの利用が可能となります。

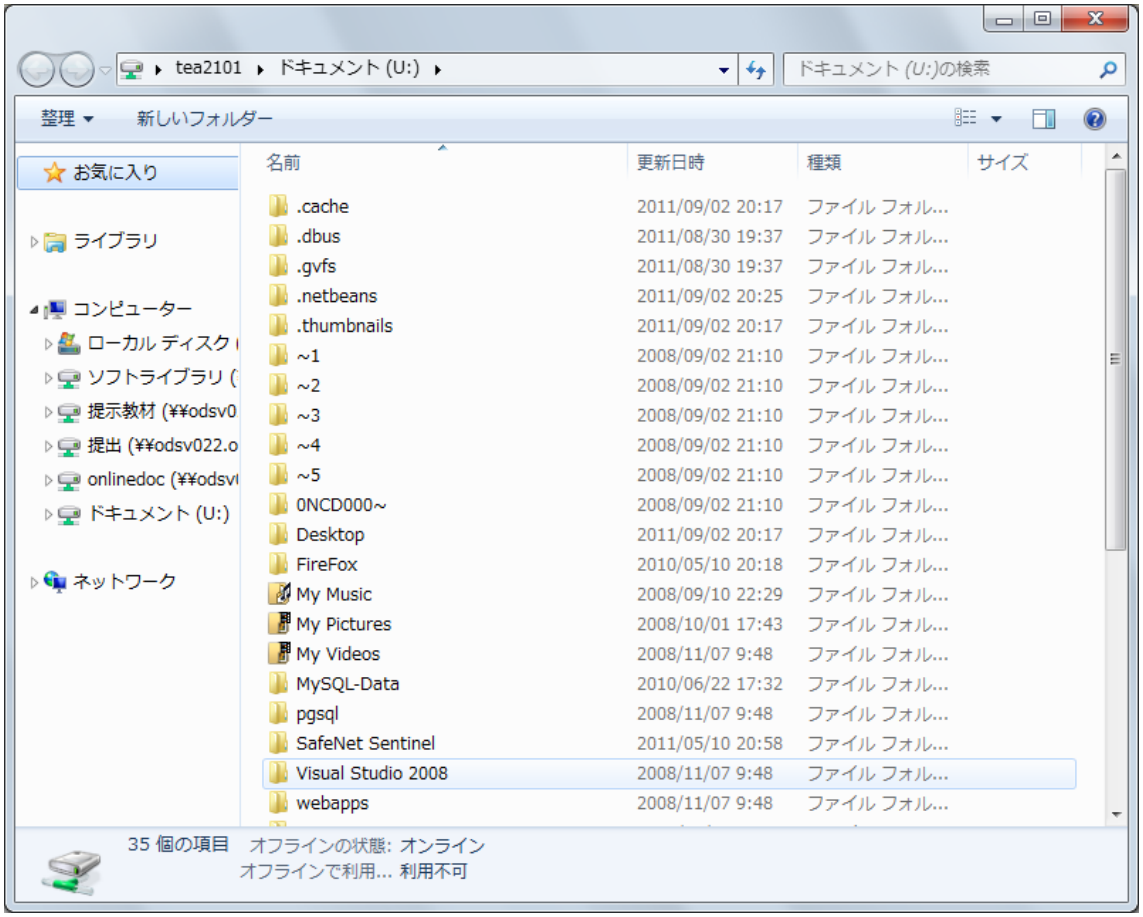
① 表示された SSLVPN ポータルサイトにある「Web ショートカット」から「ホームディレクトリ(Explorer)」をクリックします。



② ファイルダウンロードの「情報バー」が表示されます。「実行」ボタンを選択してください。

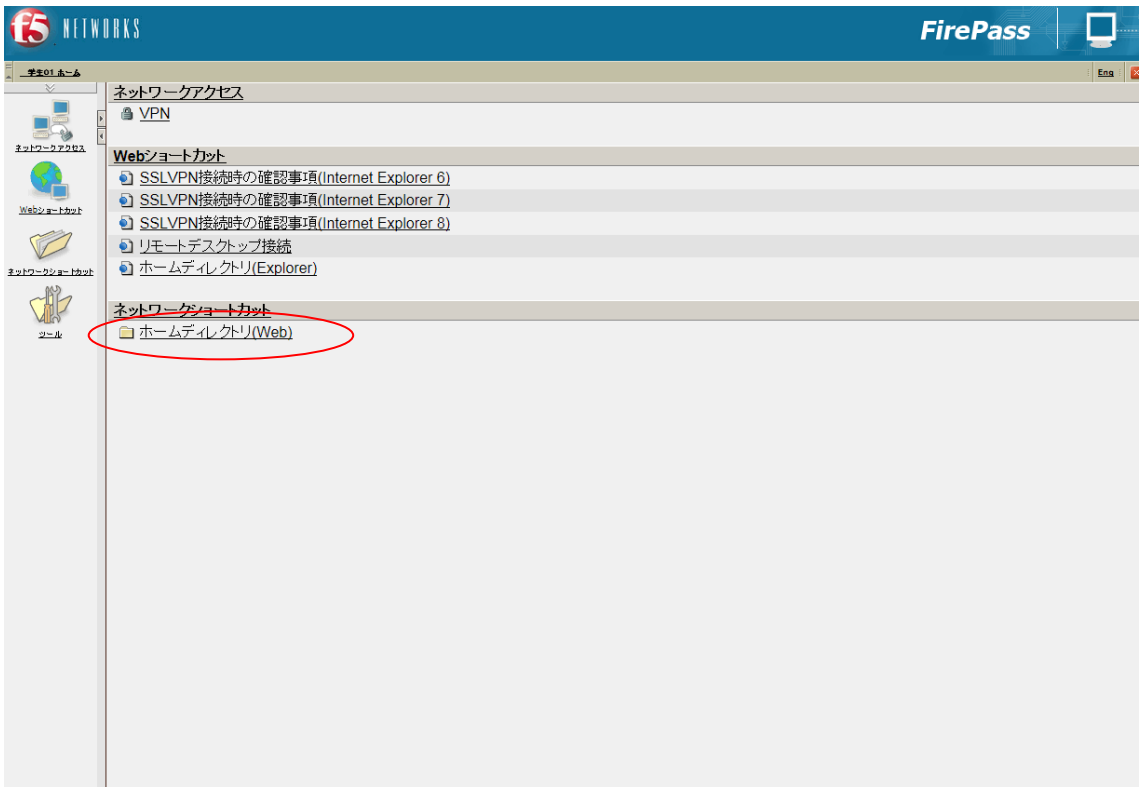


③　エクスプローラにファイルサーバのホームディレクトリが表示され、利用可能となります。

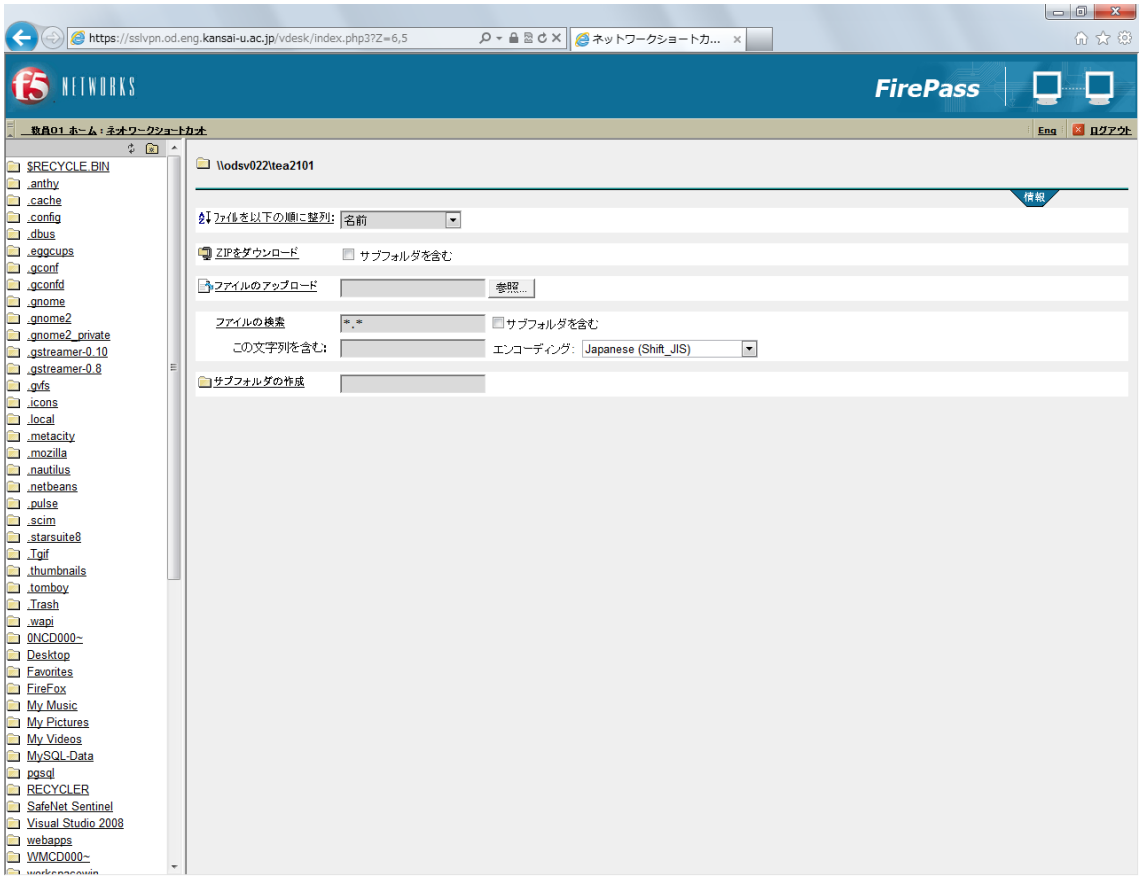


ご利用のパソコンが Windows2000/XP/Vista/7 以外のクライアントは上記方法で接続できない為、Web サービスを利用したファイルサーバの利用が可能となります。
なお、Windows2000/XP/Vista/7 でも Web サービスでのファイルサーバの利用は可能です。

① 表示された SSLVPN ポータルサイトにある「ネットワークショートカット」から「ホームディレクトリ(Web)」をクリックします。



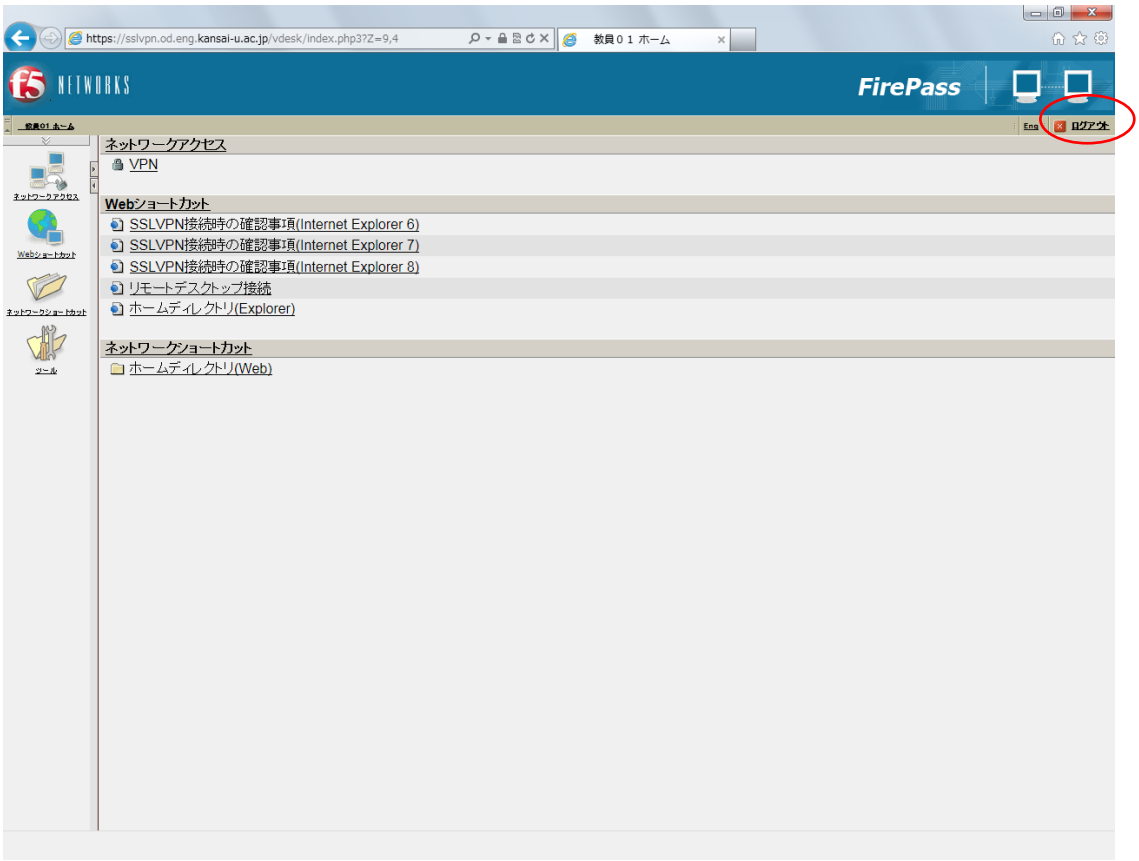
② 左側のフレームにファイルサーバのホームディレクトリが表示され、Web 画面でファイルのアップロード、ダウンロードができます。



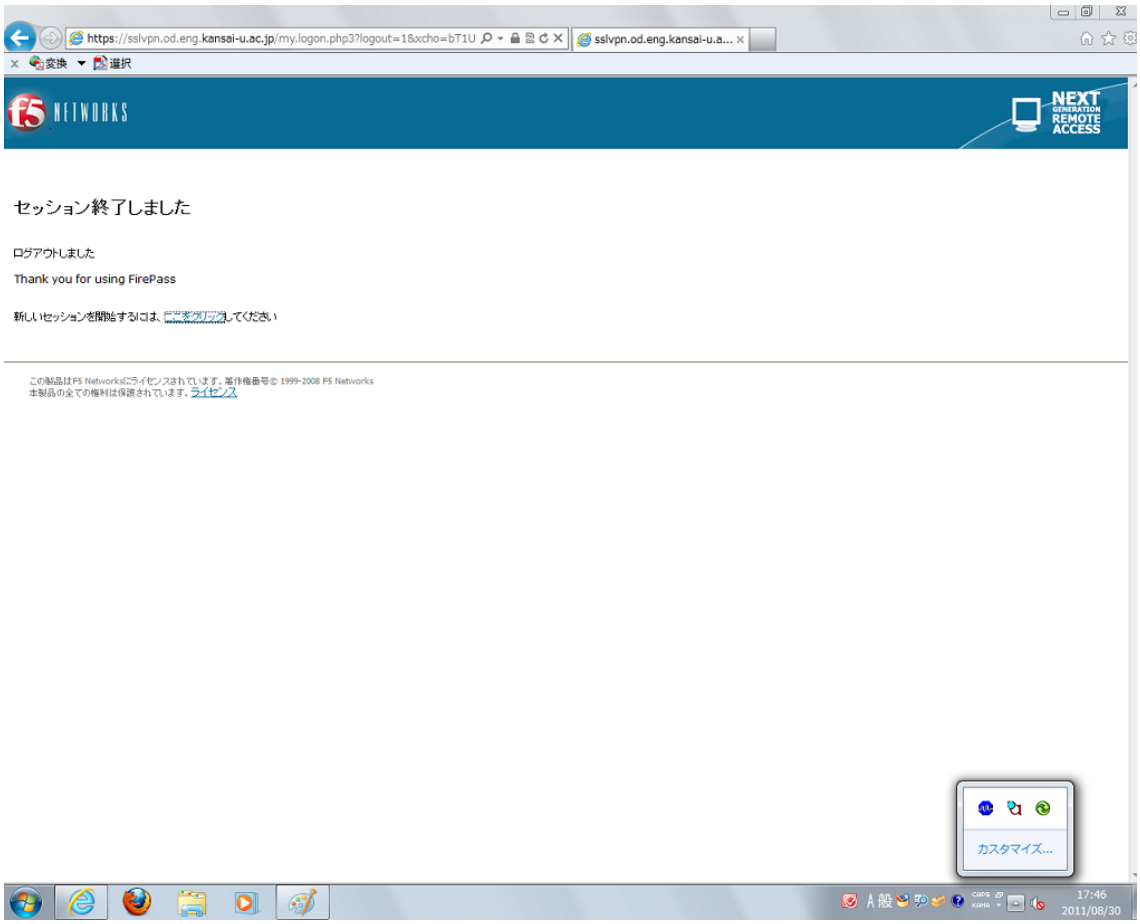
6.4. SSLVPN 接続の終了

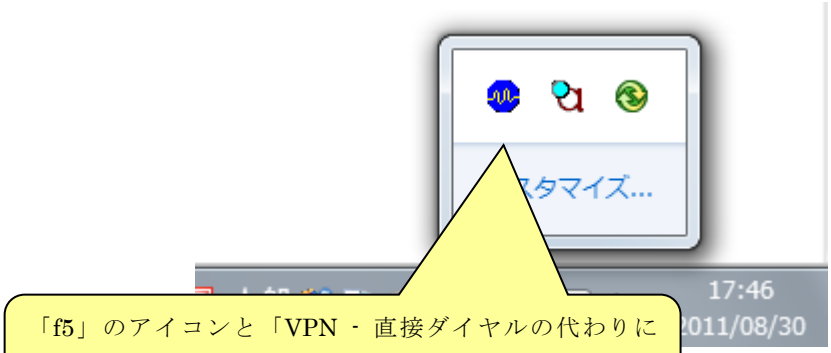
SSLVPN サービスを終了する際は、必ずログアウト処理を行います。

① 表示された SSLVPN ポータルサイトにある「ログアウト」をクリックします。



② 以下の画面が表示されれば、終了です。





「f5」のアイコンと「VPN - 直接ダイヤルの代わりに sslvpn.od.eng.kansai-u.ac.jp へ」接続がなくなります。

7. リモートデスクトップ利用手順

関西大学 ODLE システムには、自宅などのリモート環境から OD 教室のパソコンを利用することができるリモートデスクトップ機能が用意されています。
OD 教室の全パソコンに対してリモートデスクトップが可能になっています。

リモートデスクトップは ODLE システムが利用できる方が対象となります。

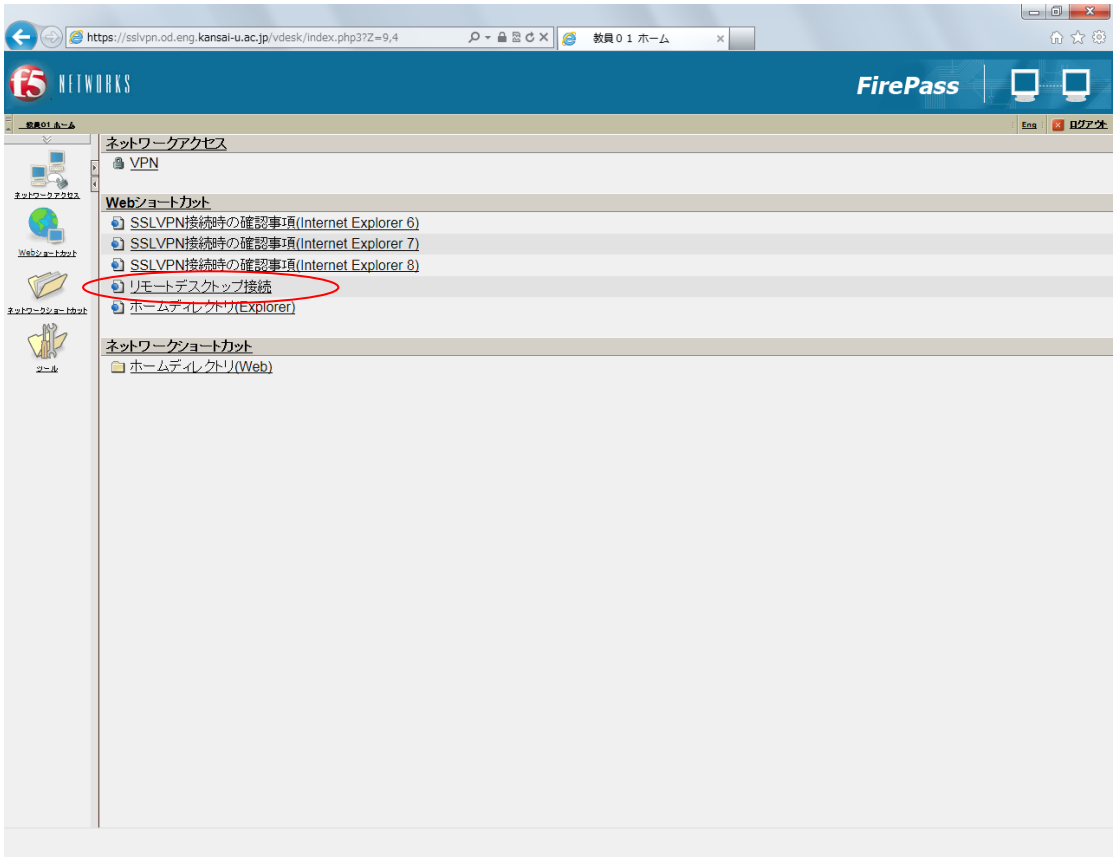
セキュリティの観点から、リモートデスクトップは前述の SSLVPN 接続を行ってからしか利用できません。
ODLE システムのリモートデスクトップでは、リモートデスクトップを行いたいパソコンを選ぶ画面が表示されます。
パソコンを選び、ユーザ ID とパスワードを入力するとリモートデスクトップが開始されます。

本章では、以下のリモートデスクトップ機能の利用手順について説明します。

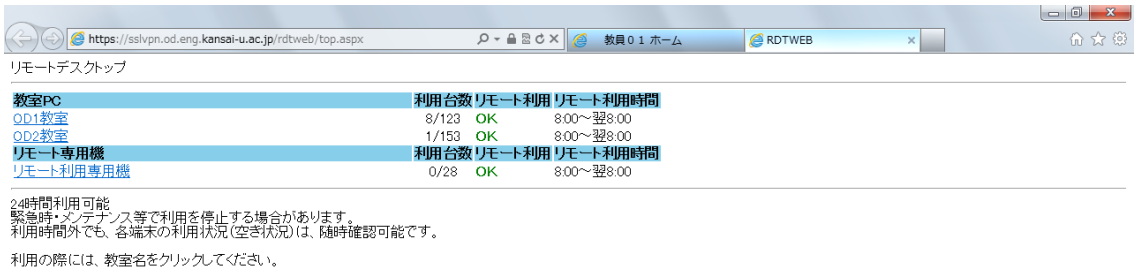
7.1 リモートデスクトップ接続
7.2 教室選択
7.3 利用パソコン選択
7.4 リモートデスクトップの開始と終了（Windows 編）
7.5 リモートデスクトップの開始と終了（Mac 編）
7.6 リモートデスクトップの開始と終了（Linux 編）

7.1. リモートデスクトップ接続

① 「**6. SSLVPN 接続手順**」に従って SSLVPN 接続を行います。表示された SSLVPN ポータルサイトにある「Web ショートカット」から「リモートデスクトップ接続」をクリックします。

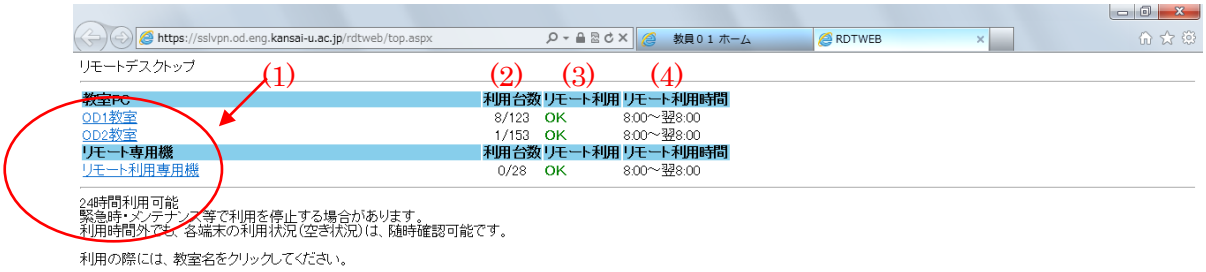


② 「リモートデスクトップ　トップメニュー」が表示されます。



7.2. 教室選択

① 「リモートデスクトップ　トップメニュー」からリモート利用可能な教室のリンクを選択します。
利用時間外でも、各端末の利用状況（空き状況）は、随時確認可能です。



表示されている情報の説明

(1) 教室リンク：　このリンクで教室を選択します。

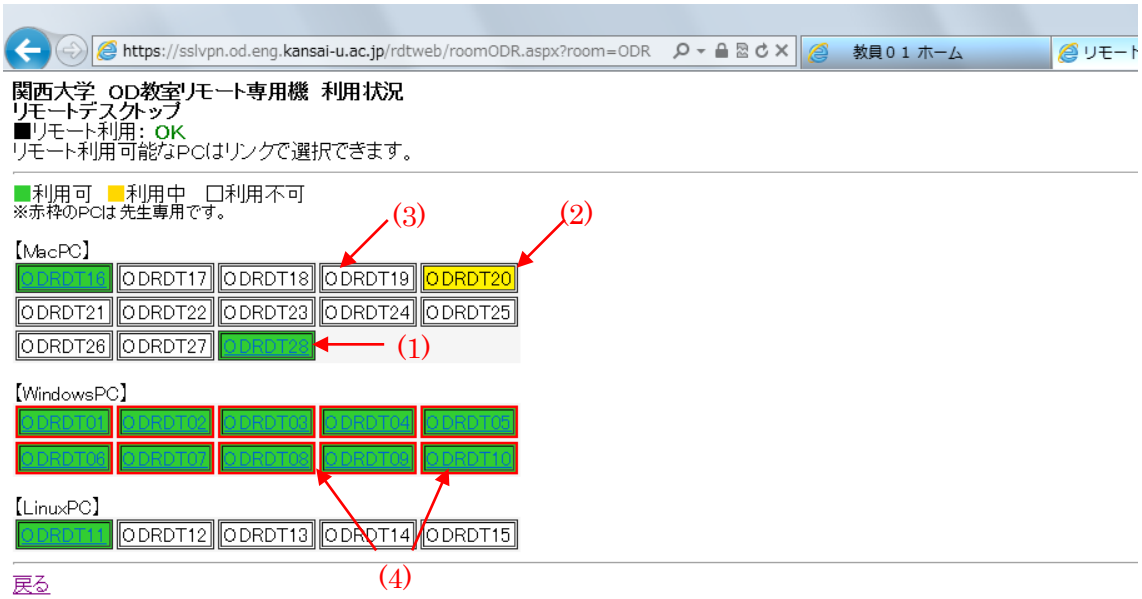
(2) 利用台数：　現在の使用状況です。
前の数値が利用台数、後ろの数値が総台数です。

(3) リモート利用：　リモートデスクトップサービス状態が表示されます。
前の数値が空き台数、後ろの数値が総台数です。

(4) リモート利用可能：　リモートデスクトップ接続が可能な時間です。
ここに記述された範囲でリモートデスクトップ接続を利用可能です。

7.3. 利用パソコン選択

① 教室利用状況画面から利用可能なパソコンのリンクを選択します。
赤枠の PC は教員専用機です。SSLVPN のログオンアカウントが教員に限り使用（接続）することができます。



表示されている情報の説明

(1) 緑色の PC： 利用可能です。
前の数値が利用台数、後ろの数値が総台数です。

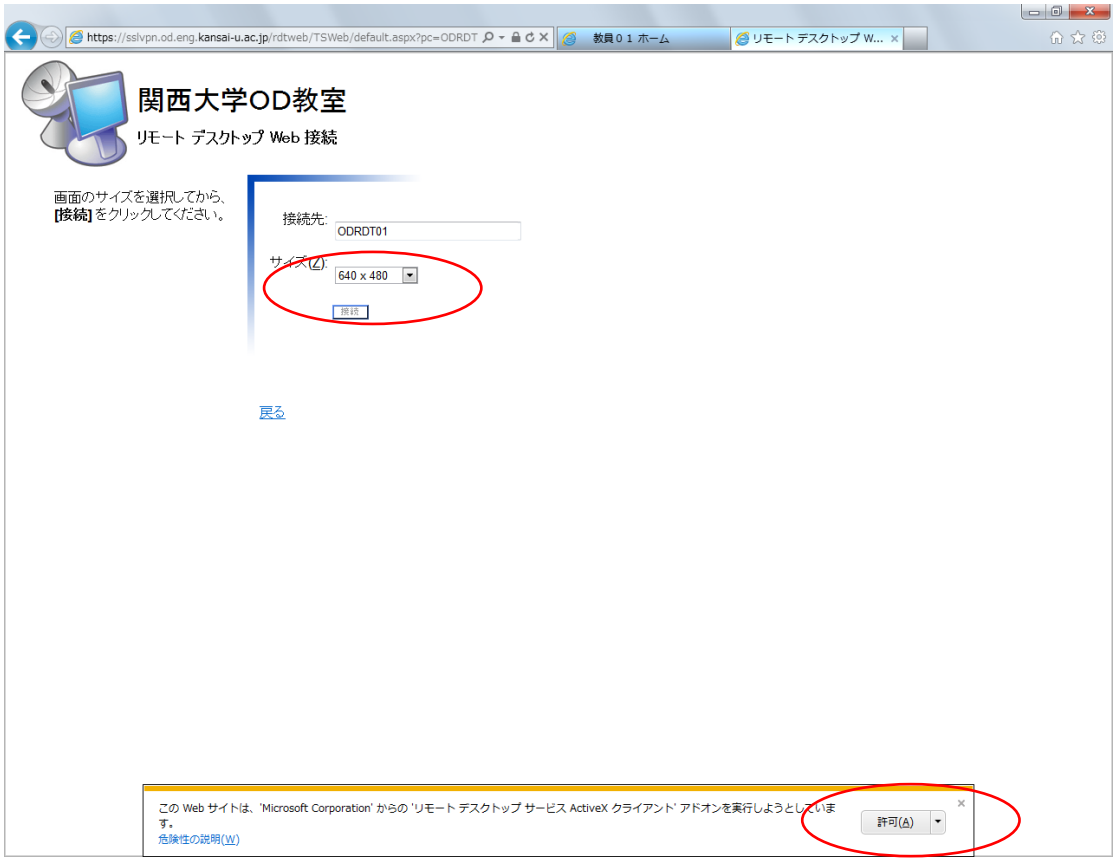
(2) 黄色の PC： 利用中です。（ログオンされています）

(3) 色なしの PC： 利用不可です。
ここに記述された範囲でリモートデスクトップ接続を利用可能です。

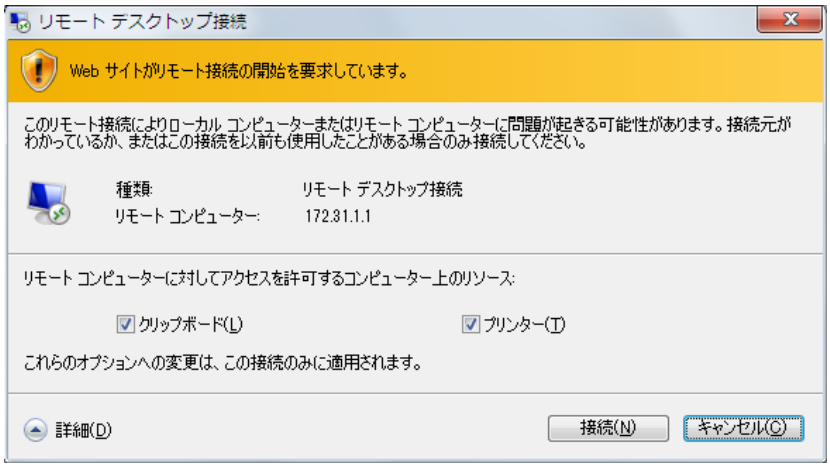
(4) 赤枠の PC： 教員専用機です。
SSLVPN のログオンが教員に限り使用（接続）することができます。

7.4. リモートディスクトップの開始と終了（Windows 編）

① アドオンの実行を許可してからリモートデスクトップクライアントの画面サイズを選択して、「接続」ボタンをクリックします。



② リモートデスクトップ接続ダイアログのデバイス（リソース）にチェックを入れて、「接続」ボタンをクリックします。



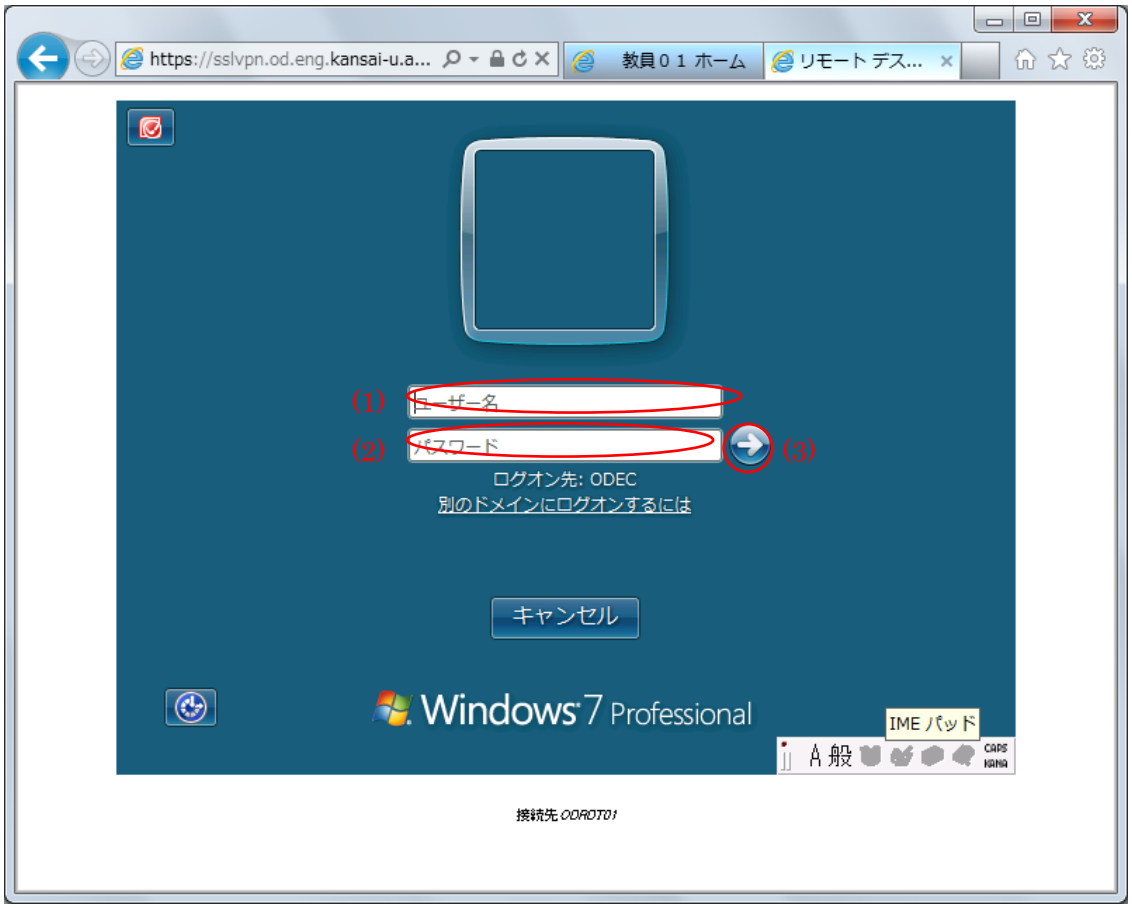
③ リモートデスクトップログオン画面が表示されます。

以下の作業を行ってください。

(1)　「ユーザー名」に、OD 教室で利用するユーザ名を入力してください。

(2)　「パスワード」に、上記ユーザー名のパスワードを入力してください。

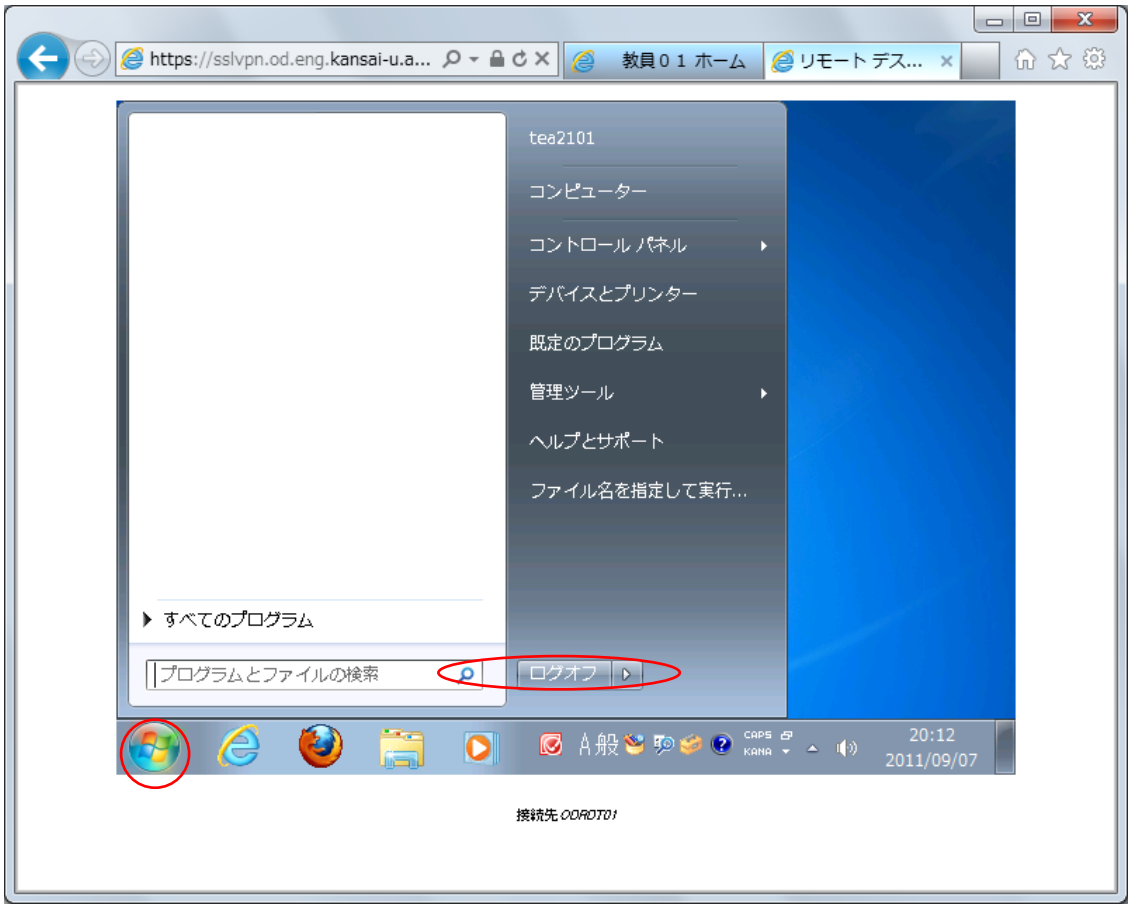
(3)　「 」ボタンをクリックして下さい。



④ ログオン認証に成功するとリモートデスクトップが開始されます。

リモートデスクトップ接続をしている状態では、ODLE システムで利用できるすべての作業が可能です。

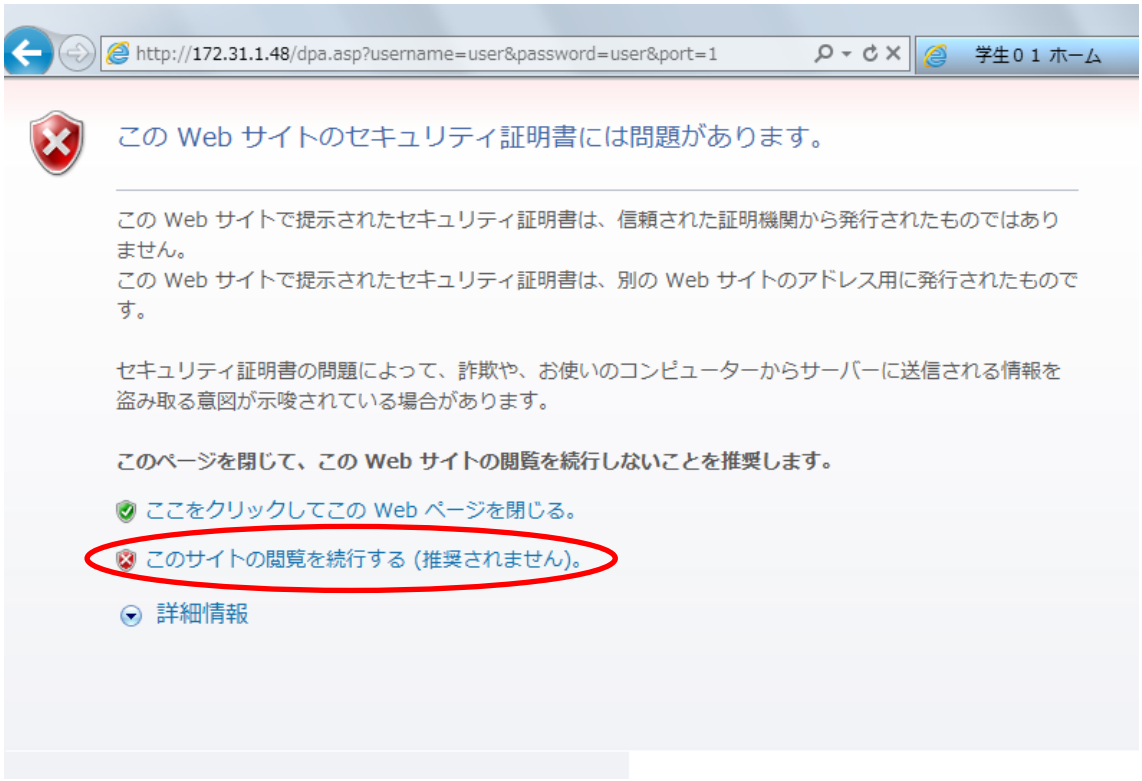
⑤ リモートデスクトップ接続を終了する際は、かならずログオフをしてください。
リモートデスクトップを行っている Window の終了ボタンを利用した終了では問題が発生する場合があります。（Windows システム自体の仕様となっています）



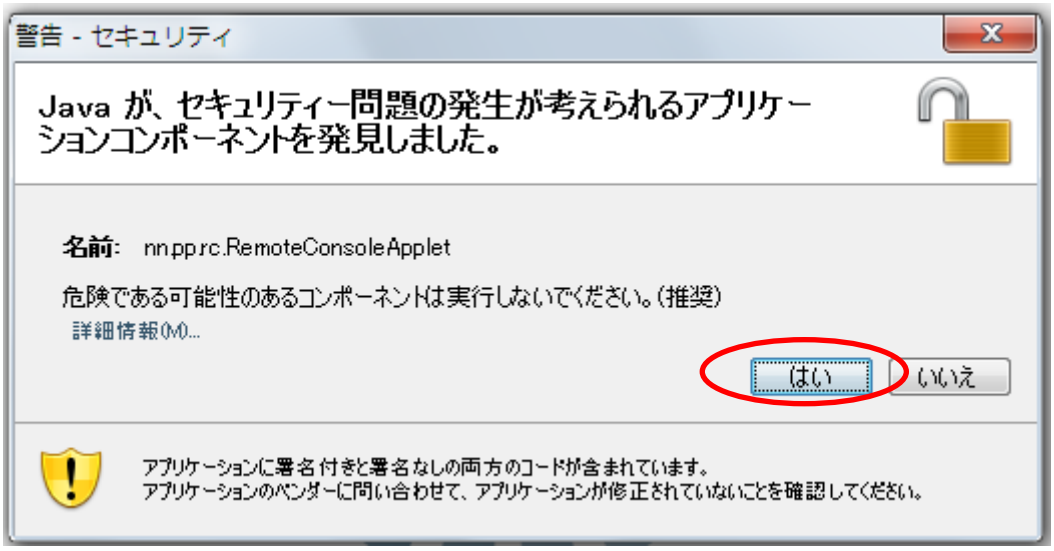
以上で、Windows のリモートデスクトップの利用手順は終了です。

7.5.　リモートデスクトップの開始と終了（Mac 編）

① 利用パソコンを選択すると証明書の警告が表示されるので「このサイトの閲覧を続行する」を選択します。



② 続けて Java の警告が表示されるので「はい」を選択します。



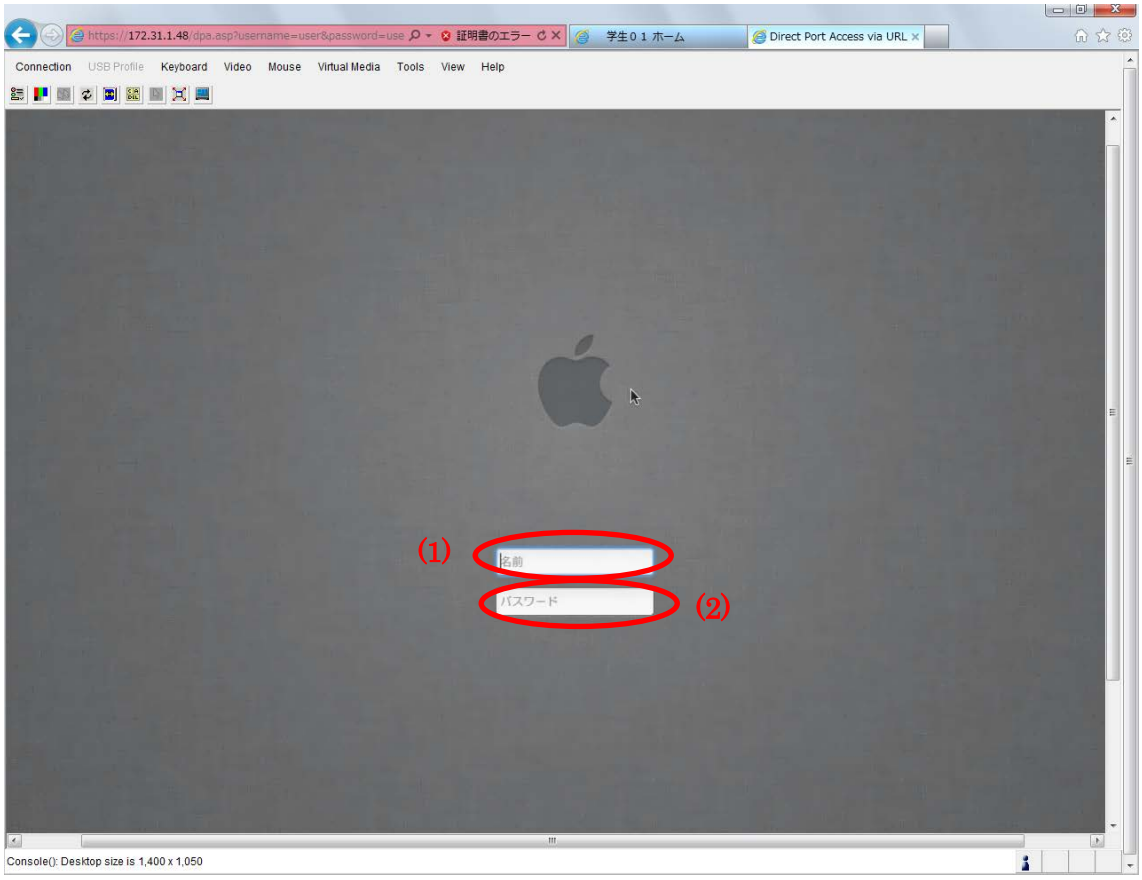
③　リモートデスクトップログオン画面が表示されます。

以下の作業を行ってください。

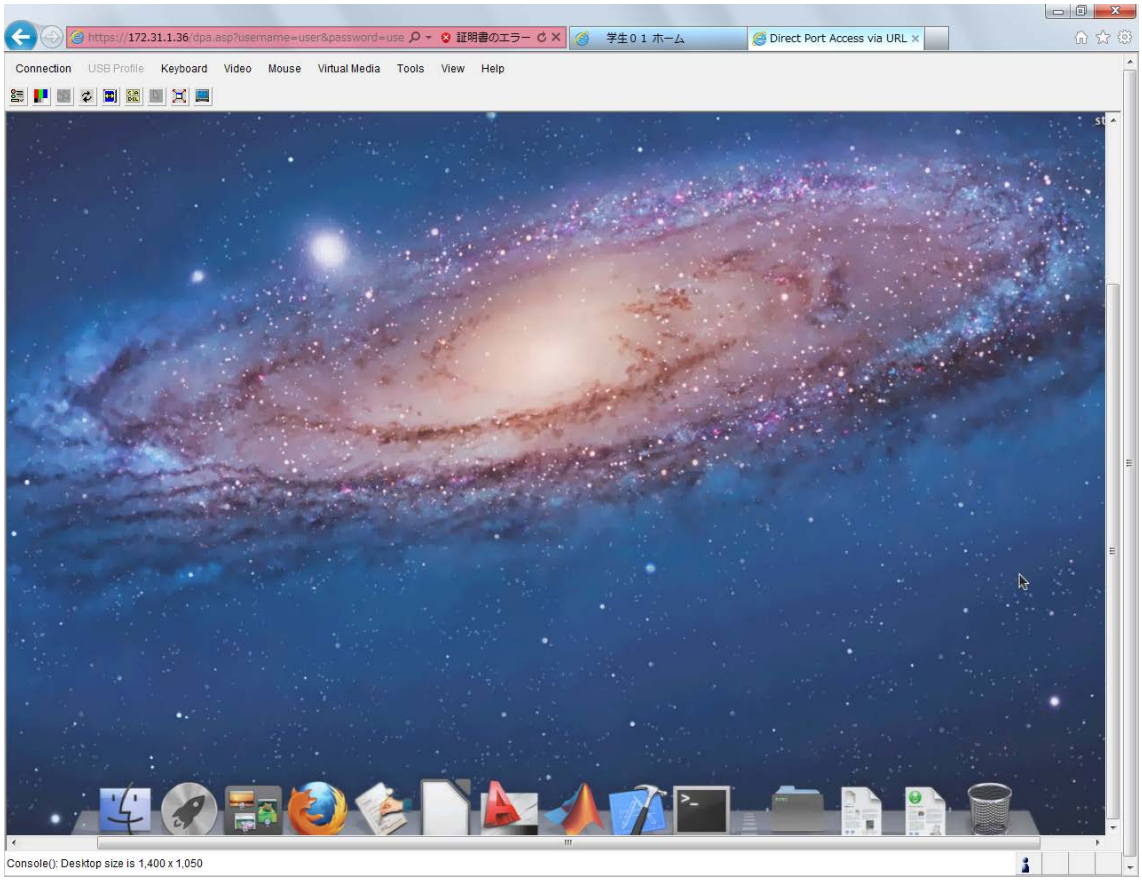
(1)　「名前」に、OD 教室で利用するユーザ名を入力してください。

(2)　「パスワード」に、上記ユーザー名のパスワードを入力してください。

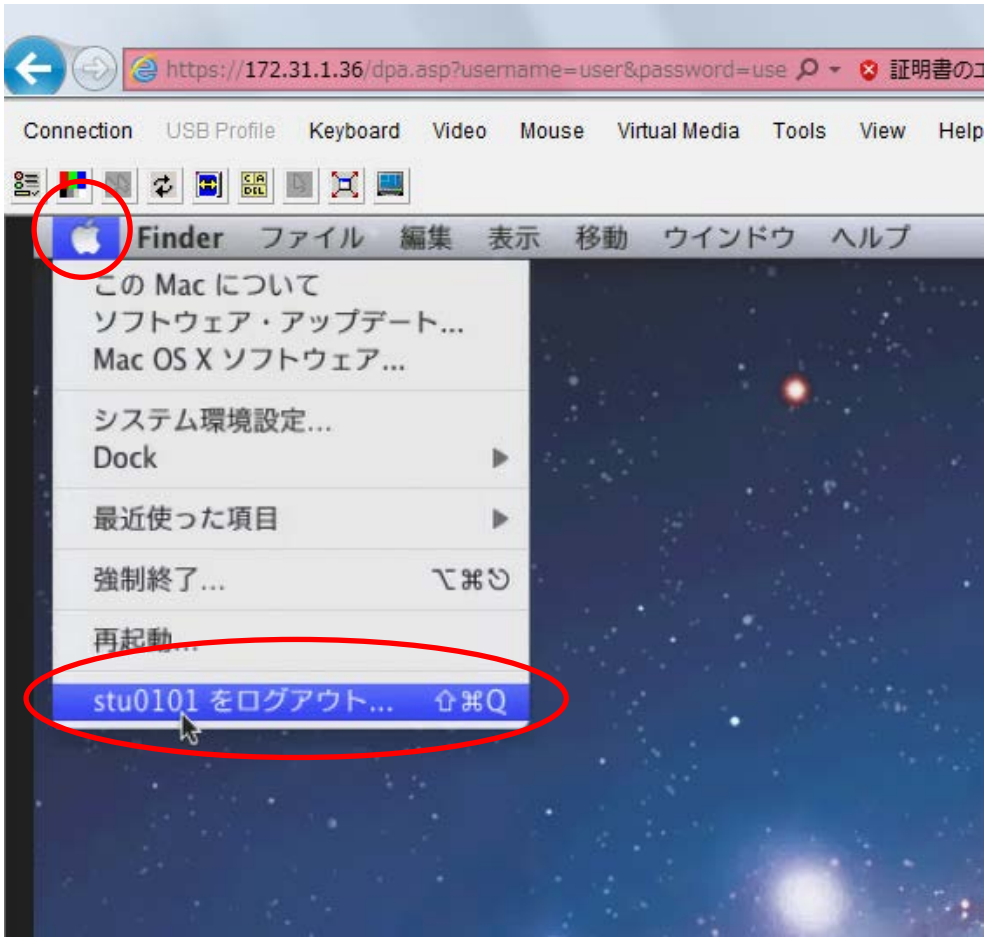
(3)　キーボードの「ENTER」を押してください。

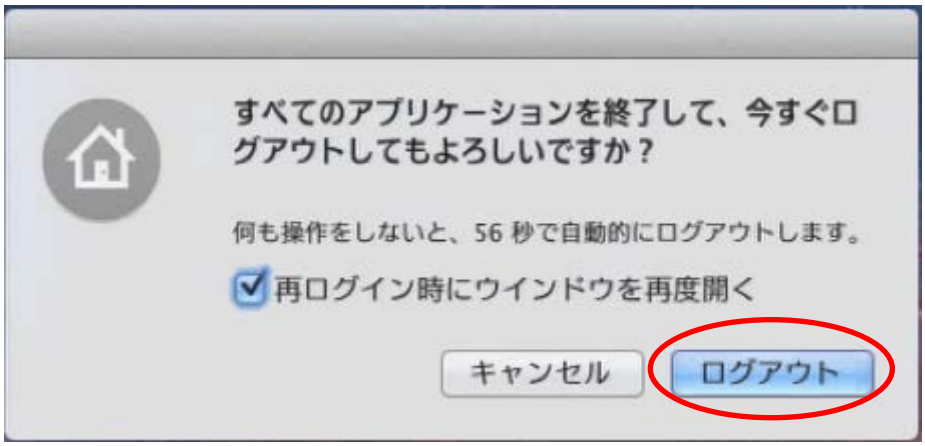


④　ログオン認証に成功するとリモートデスクトップが開始されます。
リモートデスクトップ接続をしている状態では、ODLE システムで利用できるすべての作業が可能です。

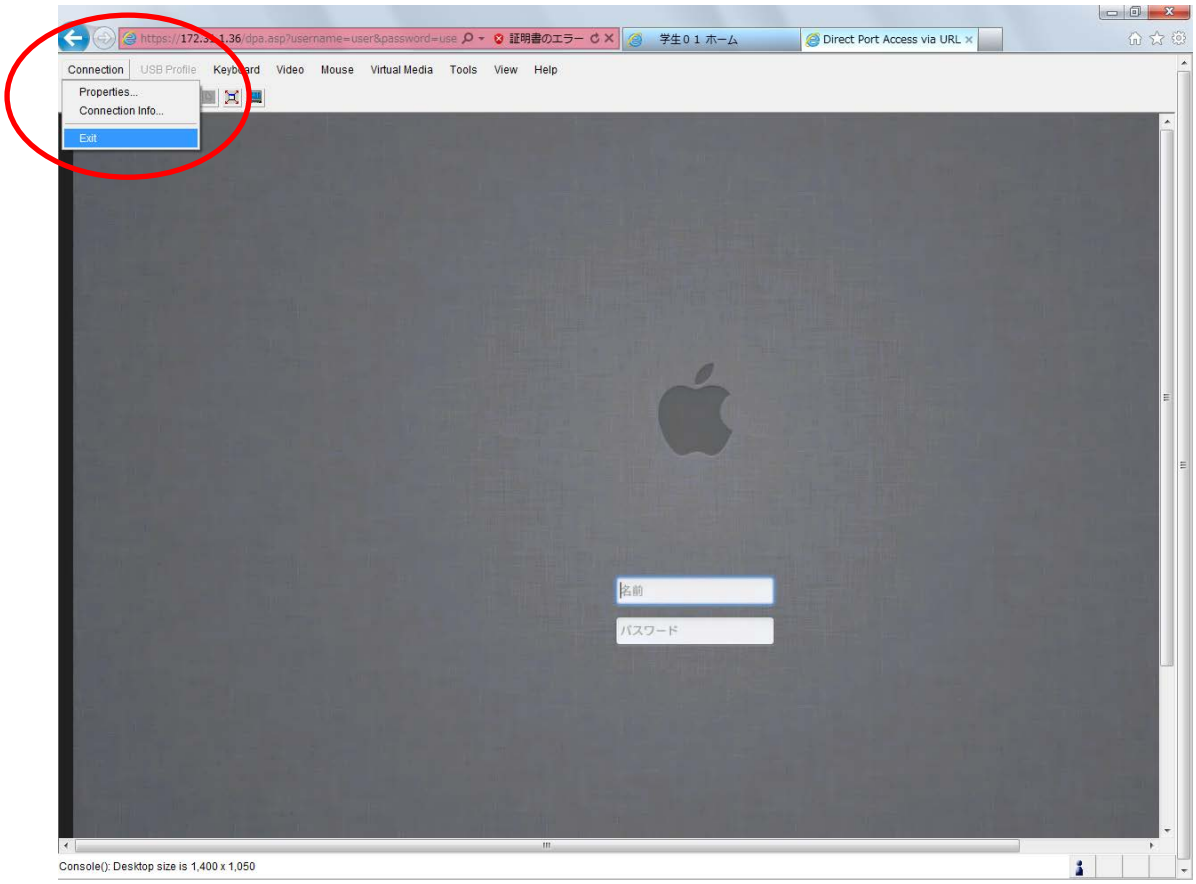


⑤　リモートデスクトップ接続を終了する際は、かならずログオフをしてください。
リモートデスクトップを行っている Mac の終了ボタンを利用した終了では問題が発生する場合があります。





⑥　ログアウト後「Connection」メニューから「Exit」を選択して終了してください。

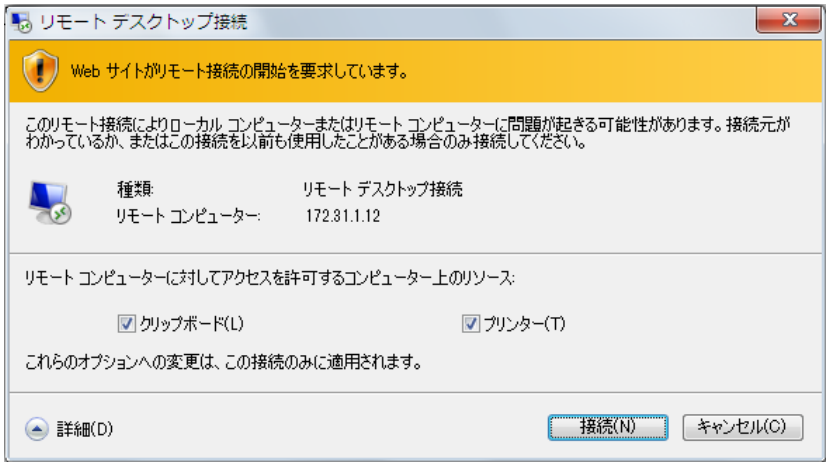


以上で Mac のリモートデスクトップは終了です。

7.6. リモートデスクトップ接続の開始と終了（Linux 編）

① リモートデスクトップクライアントの画面サイズを選択して、「接続」ボタンをクリックします。

② リモートデスクトップ接続ダイアログのデバイス（リソース）にチェックを入れて、「接続」ボタンをクリックします。



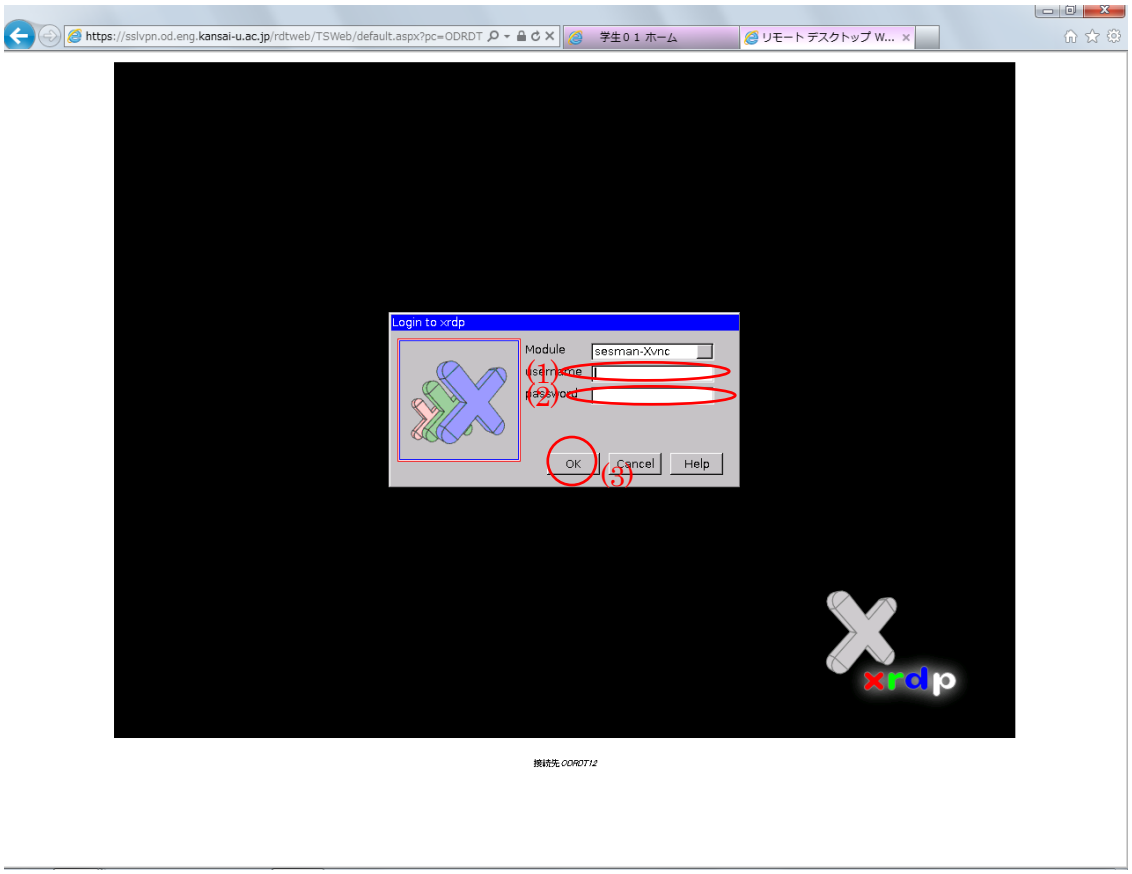
③ リモートデスクトップログオン画面が表示されます。

以下の作業を行ってください。

(1)　「username」に、OD 教室で利用するユーザ名を入力してください。

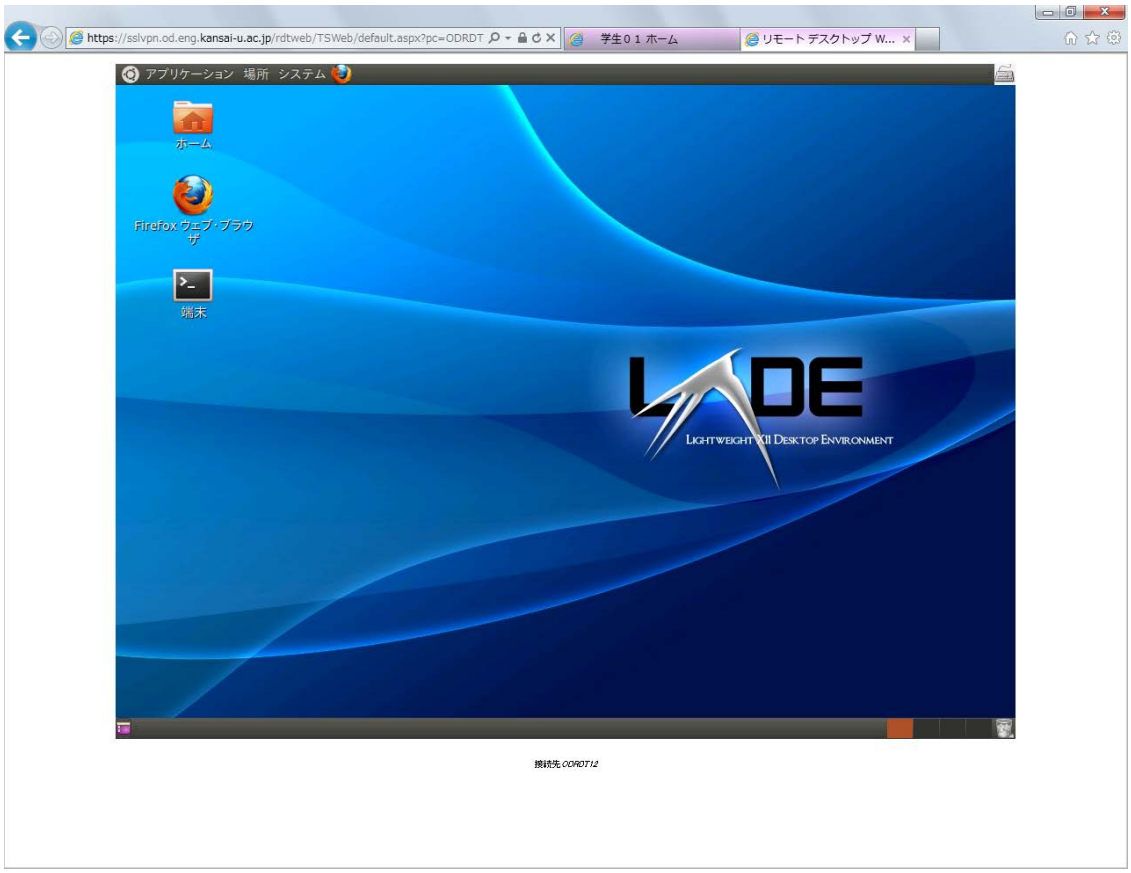
(2)　「password」に、上記ユーザー名のパスワードを入力してください。

(3)　「OK」ボタンをクリックして下さい。

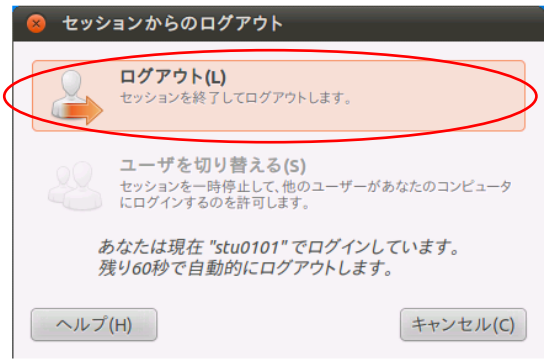


④ ログオン認証に成功するとリモートデスクトップが開始されます。

リモートデスクトップ接続をしている状態では、ODLE システムで利用できるすべての作業が可能です。



⑤ リモートデスクトップ接続を終了する際は、かならずログアウトをしてください。
リモートデスクトップを行っているLinuxの終了ボタンを利用した終了では問題が発生する場合があります。



以上で、Linuxのリモートデスクトップの利用手順は終了です。

8. パスワード変更手順

ODLE システムでは、ログオン時のパスワードを変更するための WEB ページを用意しています。
パスワード変更は、ODLE システムの利用が可能な方のみが実施できます。
学生は本人のパスワードのみ変更が可能です。
教員は、本人および学生のパスワード初期化などを行うことができます。

本章では、以下の各パスワード変更の手順について記述します。

8.1　学生・教員のパスワード変更
8.2　学生のパスワード初期化
8.3　オープンキャンパスなどで利用する登録されていないユーザのアカウント発行

8.1. 学生・教員のパスワード変更

ODLE システムにログインするためのパスワードを変更することが可能です。
本人のパスワードのみ変更が可能です。
学生および教員などの ODLE システムを利用できる方が対象です。

- パスワード変更のためには、変更前のパスワードを入力する必要があります。
- ＩＴセンター４階 利用者相談コーナーに学生証を持参し、パスワードの再発行を依頼します。1 時間以内に再発行したパスワードが OD 教室で使用できるようになります。
- 授業開始時に学生がパスワードを忘れた場合、教員が学生のパスワード初期化を行ってください。
- 学生のパスワード初期化については、「8.2. 学生のパスワード初期化」を参照ください。

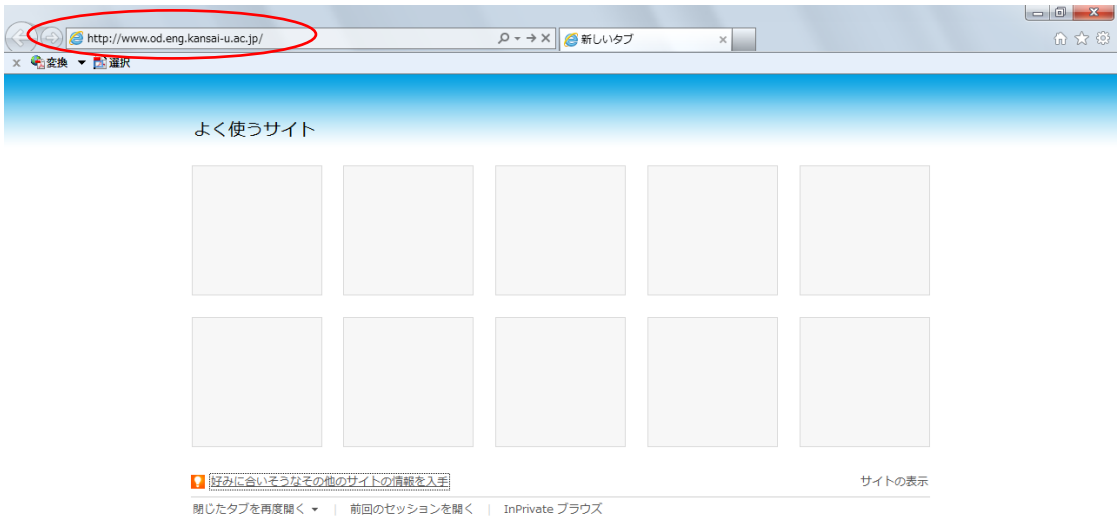
8.1.1. パスワード変更手順

パスワード変更を行う場合、まず「OD 教室トップページ」にアクセスします。

「OD 教室トップページ」へのアクセスは以下のようになります。

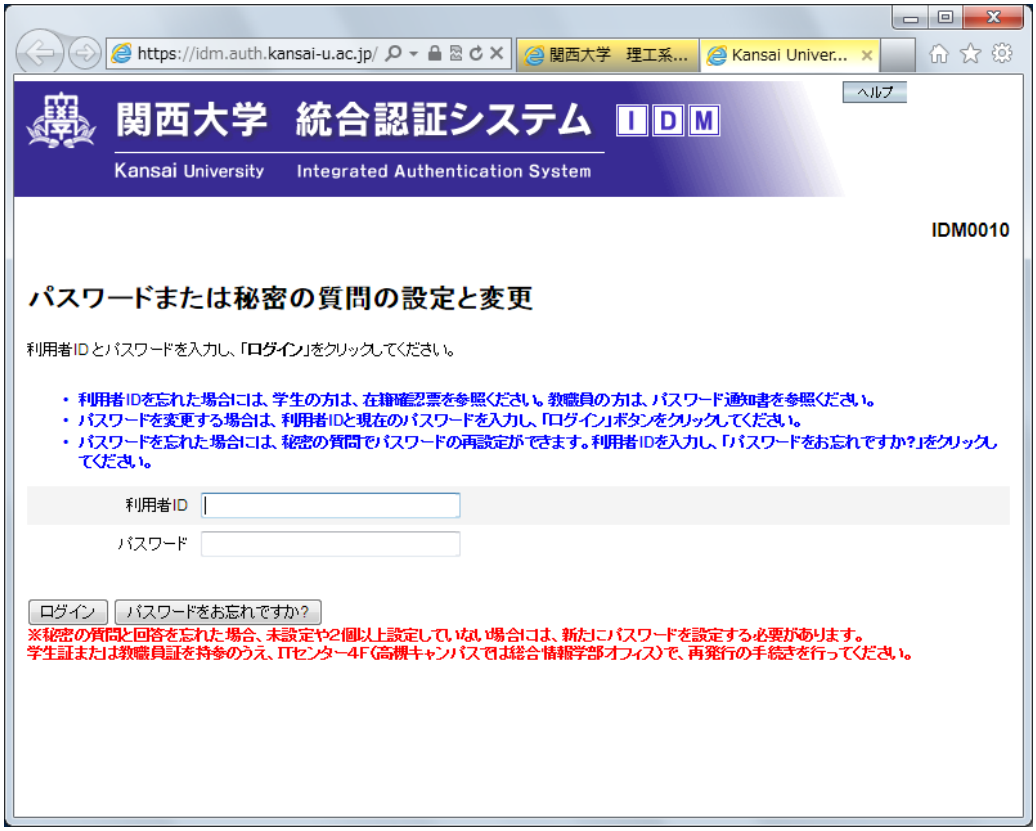
① 普段ご使用になられている Internet Explorer または Mozilla Firefox などの WEB ブラウザを起動します。(以降の説明は Internet Explorer を使用した場合のものです。)

② Internet Explorer のアドレス欄に「OD 教室トップページ」の URL を入力し、Enter キーを押下または Internet Explorer の「移動」ボタンをクリックします。
OD 教室トップページの URL：
http://www.od.eng.kansai-u.ac.jp/



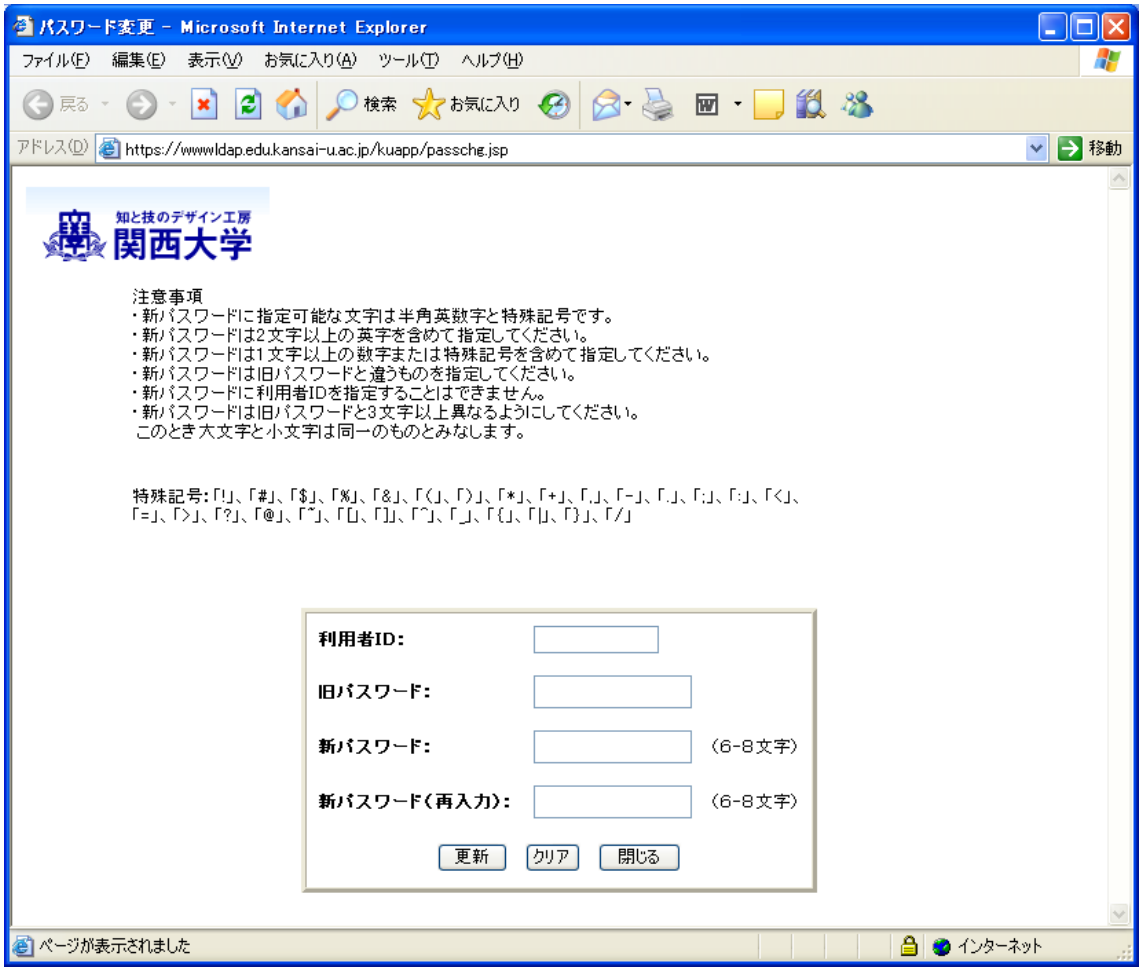
③　表示されるトップページの左にある「教員」から「パスワード変更」をクリックします。

④　「パスワード変更」ページが表示されます。



⑤　パスワードを変更する利用者ＩＤ、現在のパスワード（旧パスワード）、変更したいパスワード（新パスワード、新パスワード（確認））を入力し、変更ボタンをクリックしてください。

※全項目入力必須です。



⑥　パスワード変更終了画面が表示されたら、パスワードの変更は完了です。

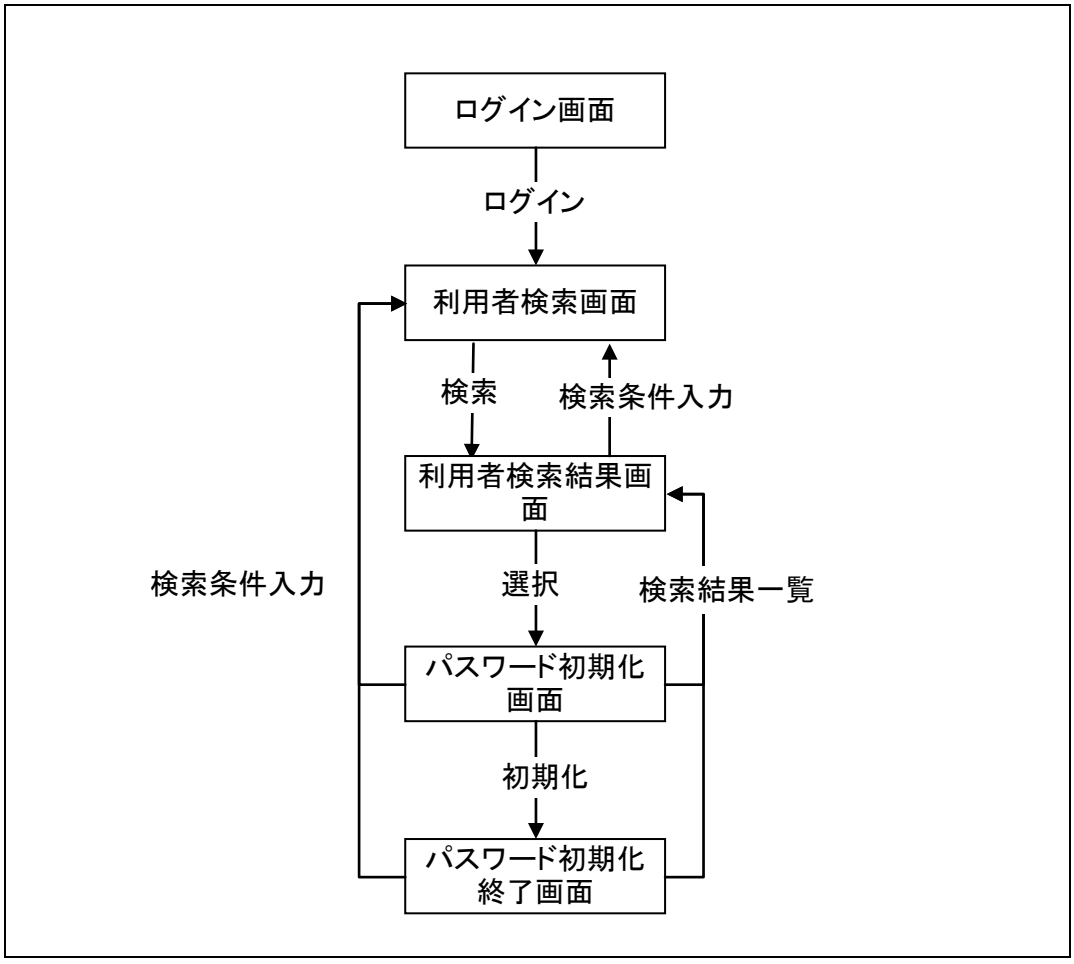
１時間以内にＯＤ教室パソコンのパスワードが変わります。

8.2. 学生のパスワード初期化

ODLE システムにログインするためのパスワードを初期化することが可能です。
パスワードの初期化を実施できるのは各教員です。
パスワードを初期化すると、パスワードが八桁の生年月日になります。

パスワードを忘れてしまった場合などを想定した機能になります。

教員がパスワード初期化をする際の画面遷移は以下の通りとなります。

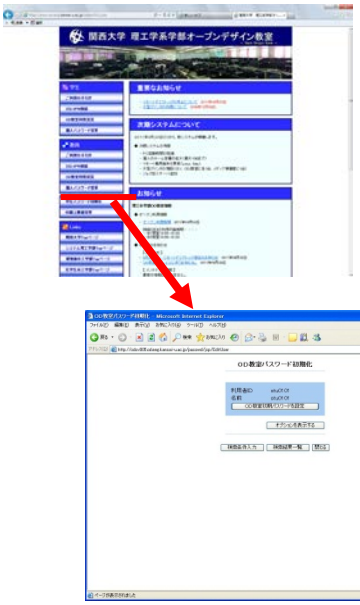


＜学生＞

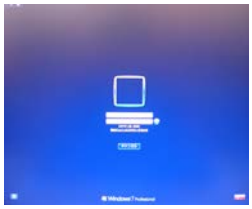
①ＯＤ教室で教員にパスワードを忘れたことを教員に報告します。

＜教員・ＴＡ＞

②「ＯＤ教室用パスワード初期化」画面で学生のパスワードを初期化します。ＯＤ教室の初期パスワードは生年月日（西暦８桁）です。



③ＯＤ教室の初期パスワード（生年月日西暦８桁）でログオンし、授業を受けます。



④授業終了後、ＩＴセンター４階 利用者相談コーナーに学生証を持参し、パスワードの再発行を依頼します。１時間以内に再発行したパスワードが OD 教室で使用できるようになります。

8.2.1. パスワード初期化手順

パスワード初期化を行う場合、まず「OD 教室トップページ」にアクセスします。

「OD 教室トップページ」へのアクセスは以下のようになります。

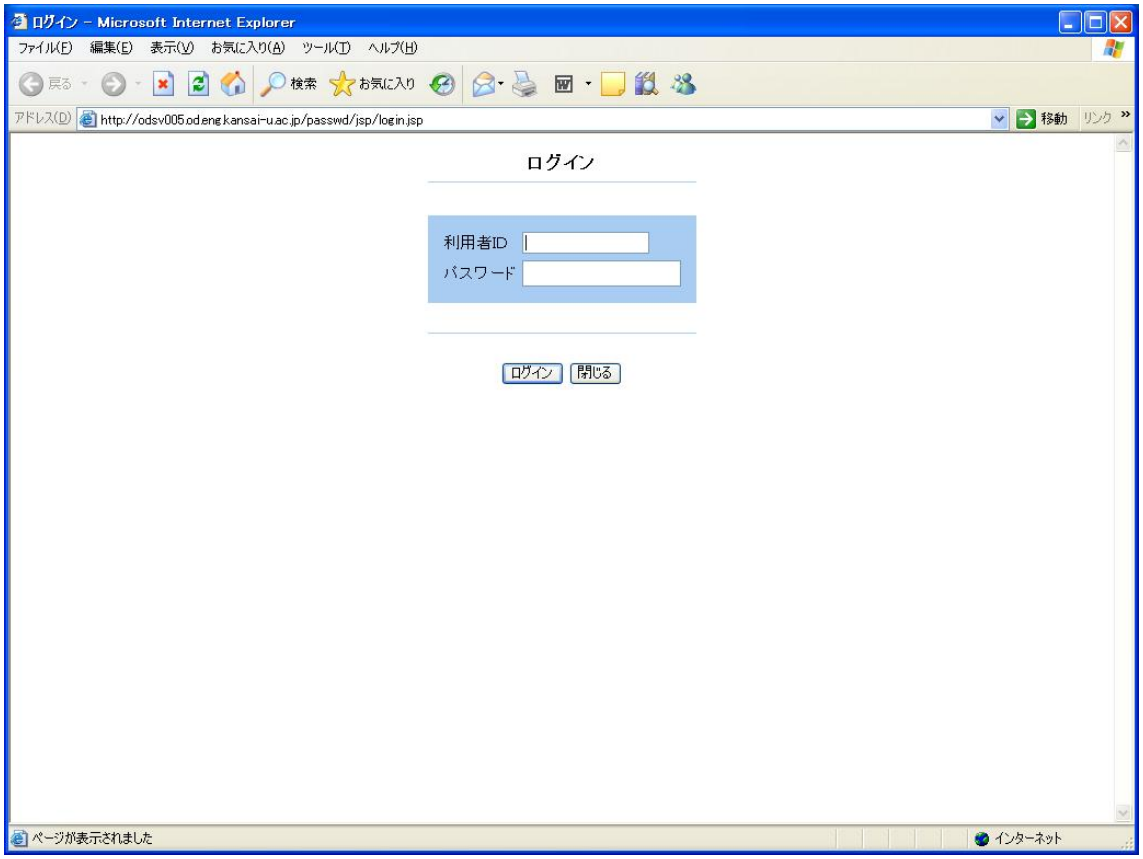
① 普段ご使用になられている Internet Explorer または Mozilla Firefox などの WEB ブラウザを起動します。(以降の説明は Internet Explorer を使用した場合のものです。)

② Internet Explorer のアドレス欄に「OD 教室トップページ」の URL を入力し、Enter キーを押下または Internet Explorer の「移動」ボタンをクリックします。
OD 教室トップページの URL：
http://www.od.eng.kansai-u.ac.jp/

③　表示されるトップページの左にある「教員」から「パスワード初期化」をクリックします。

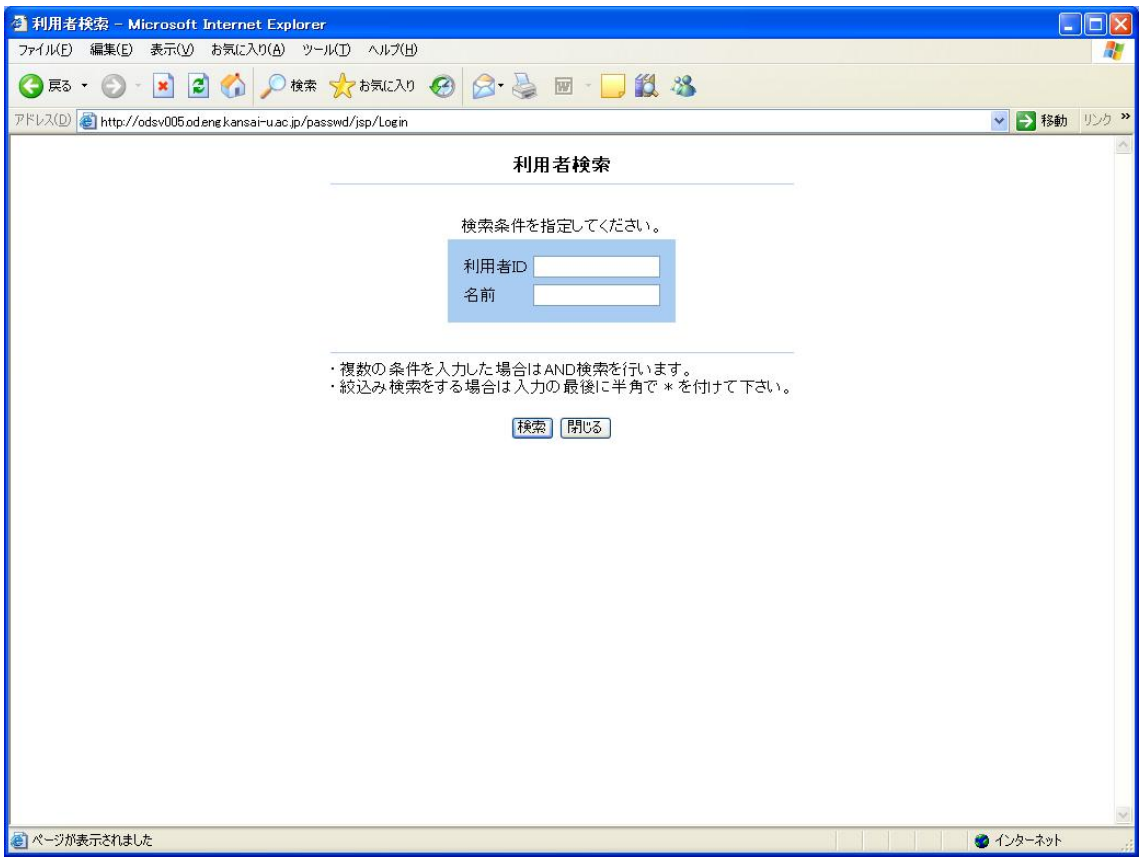
④　「ログイン」ページが表示されます。

パスワードの初期化を行うために認証が必要になりますので、教員ご自身のユーザID、パスワードを入力して、「ログイン」ボタンをクリックして下さい。



⑤　「利用者検索」ページが表示されます。
ここで、パスワード初期化を行いたい学生の利用者 ID を入力します。
「検索」ボタンをクリックします。

検索条件に何も入力しないで「検索」ボタンをクリックした場合、すべてのユーザを検索したことになります。
ワイルドカード（*）を使用した前方一致、後方一致検索も可能です



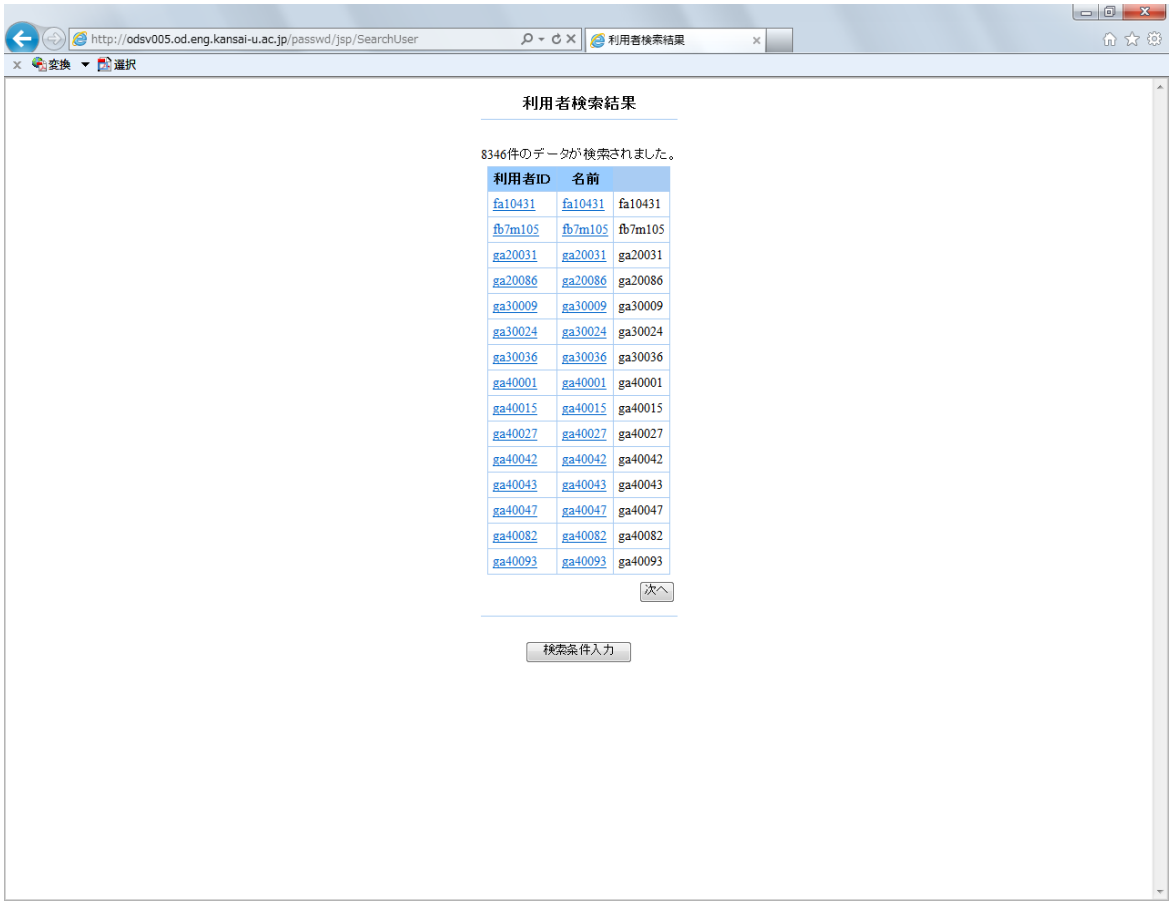
⑥　「利用者検索結果」ページが表示されます。

⑥で指定した検索条件に合致する利用者 ID が一覧表示されるので、パスワード初期化を行いたい学生の利用者 ID をクリックします。

検索結果が１ページで収まりきらなかった場合、「次へ」ボタンが表示されます。次ページに移動したい場合は、「次へ」ボタンをクリックしてください。

２ページ目以降表示時は「前へ」ボタンが表示されます。前ページに移動したい場合は、「前へ」ボタンをクリックしてください。

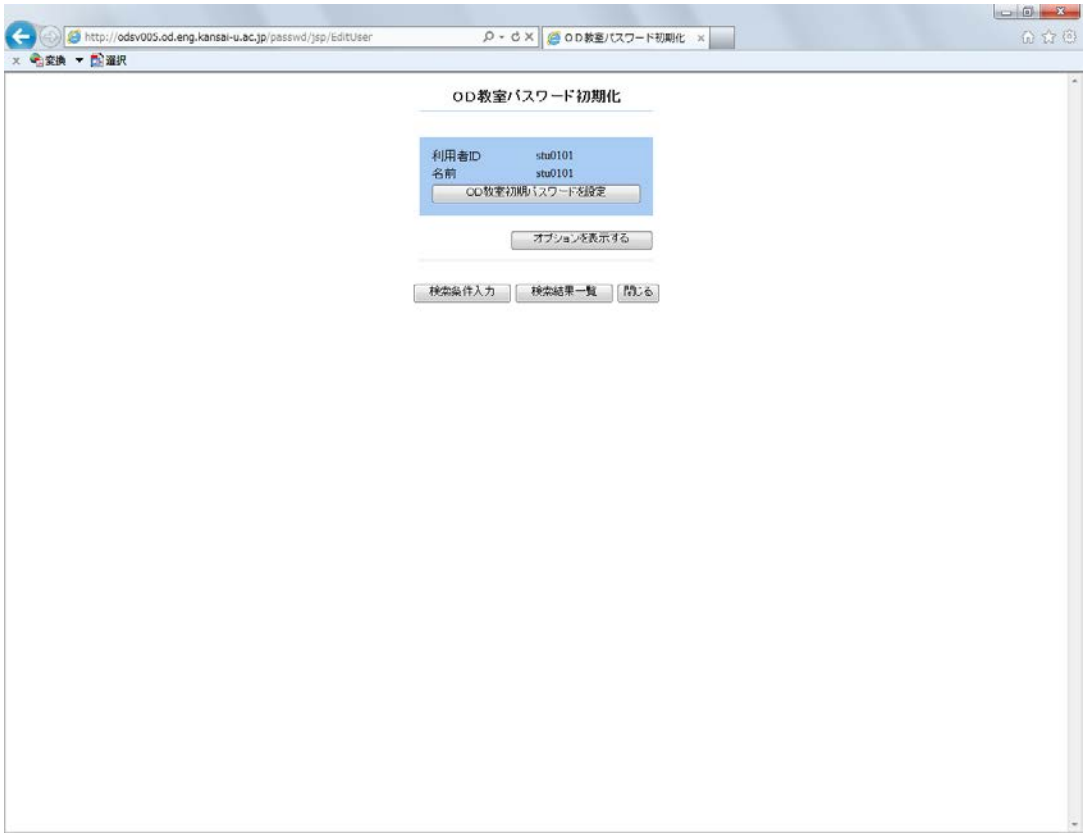
「利用者検索」ページに戻る場合、「検索条件入力」ボタンをクリックしてください。



⑦　利用者登録時にあらかじめ指定した初期パスワードに戻したい場合、「初期パスワードに戻す」ボタンをクリックしてください。
ODLE システムの場合、8 桁の生年月日が初期パスワードとなります。

※　「利用者 ID」として表示される ID が、間違いなくパスワード初期化したい ID であるかどうか確認してから「初期パスワードに戻す」ボタンをクリックするようにしてください。

初期パスワードではなく、別のパスワードを設定する場合は、⑨に進んでください。
「利用者検索」ページに戻りたい場合は、「検索条件入力」ボタンをクリックして下さい。
⑦の「検索結果」ページに戻る場合は、「検索結果一覧」ボタンをクリックして下さい。

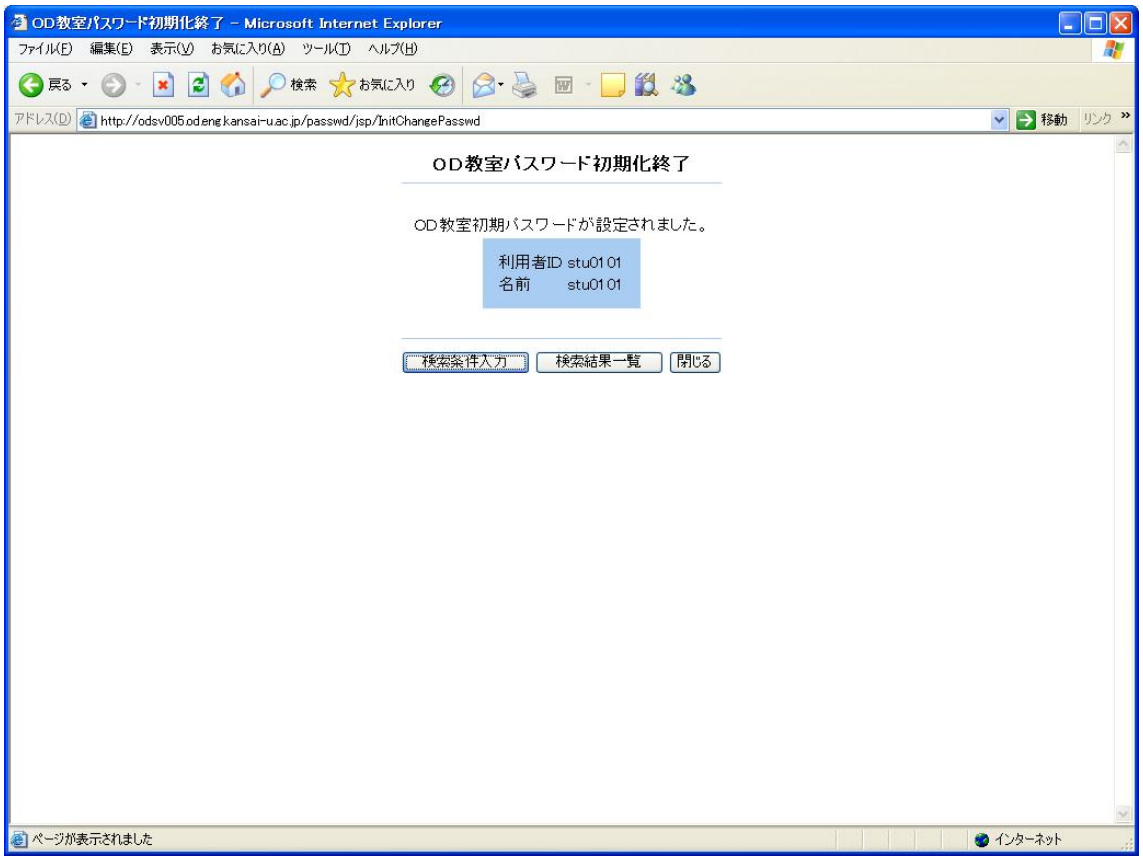


パスワード初期化を行う学生の間違いを防止するため、学生には学生証の提示を求め、学生番号・氏名を確認の上、パスワード初期化・変更を行ってください。

⑧　初期パスワード以外のパスワードに変更したい場合、「オプションを表示する」ボタンをクリックし、パスワード入力欄を表示後、変更したいパスワードを入力し、「入力された新パスワードに変更」ボタンをクリックしてください。

⑨　パスワード初期化終了画面が表示されたら、初期化の完了です。

「利用者検索」ページに戻りたい場合は、「検索条件入力」ボタンをクリックして下さい。
⑦の「検索結果」ページに戻る場合は、「検索結果一覧」ボタンをクリックして下さい。



即時、ＯＤ教室のパスワードが初期パスワード（西暦８桁の生年月日）になります。
授業終了後、ＩＴセンター４階 利用者相談コーナーに学生証を持参し、パスワードの再発行を依頼するよう指導して下さい。

8.3. オープンキャンパスなどで利用する登録されていないユーザのアカウント発行

オープンキャンパスや履修前の学生などがＯＤ教室を利用する場合、ユーザアカウントが登録されていない為、以下の一時的なアカウントを利用します。

アカウント	権限
guest1、guest2、guest3、guest4、guest5	学生権限
guestt	教員権限

この guest ユーザの初期パスワードはランダムなパスワードが設定されています。利用するときは、「8.2　学生のパスワード初期化」の「⑨初期パスワード以外のパスワードに変更したい場合・・・」の手順で明示的にパスワードを設定し、設定したパスワードを開示して、ご利用下さい。

利用が終わったら、「パスワード初期化」手順に従い、ランダムなパスワードに戻してください。（不正な利用を避ける為）

以上